

基本計画書

基本計画										
事項	記入欄							備考		
計画の区分	学部の学科の設置									
フリガナ設置者	ガッコウホクジン ダイウブンカガクエン 学校法人 大東文化学園									
フリガナ大学の名称	ダイウブンカガク 大東文化大学 (Daito Bunka University)									
大学本部の位置	東京都板橋区高島平1丁目9番1号									
大学の目的	本大学は、建学の精神に基づき、学問の理論と応用を教授・研究して真理と正義を愛する自主的精神に充ちた良識ある人材を育成し、文化の発展と人類の福祉に貢献することを目的とする。									
新設学部等の目的	本学科は、日本はもとより、周辺諸国、ひいては世界の歴史・文化を正しく理解し、自らの「歴史認識」を醸成し、構築できるような人材を社会に送り出すことを目的とする。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	文学部 [Faculty of Literature] 歴史文化学科 [Department of History and Culture]	4年	100人	—年次人	400人	学士 (歴史文化学)	平成30年4月 第1年次	(1,2年次) 埼玉県東松山市 岩殿560 (3,4年次) 東京都板橋区高島平 1-9-1		
	計		100	—	400					
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	スポーツ・健康科学部看護学科 (100) (平成29年3月認可申請) 社会学部社会学科 (200) (平成29年4月届出) 環境創造学部環境創造学科(廃止) (△165) ※平成30年4月学生募集停止									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
		講義	演習	実験・実習	計					
	文学部 歴史文化学科	184科目	129科目	10科目	323科目	124単位				
教員の組織概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等	
				教授	准教授	講師	助教	計		助手
	新設	文学部 歴史文化学科		4人	5人	0人	0人	9人	0人	127人
				(3)	(5)	(0)	(0)	(8)	(0)	(91)
		スポーツ・健康科学部 看護学科		8人	6人	6人	6人	26人	7人	78人
				(7)	(5)	(4)	(5)	(21)	(2)	(66)
	社会学部 社会学科		9人	5人	6人	0人	20人	0人	107人	
			(8)	(5)	(6)	(0)	(19)	(0)	(97)	
	計		21人	16人	12人	6人	55人	7人	—人	
			(18)	(15)	(10)	(5)	(48)	(2)	(—)	
既設	文学部 日本文学科		10人	3人	1人	0人	14人	0人	201人	
			(10)	(3)	(1)	(0)	(14)	(0)	(201)	
	中国文学科		4人	3人	2人	1人	10人	0人	216人	
			(4)	(3)	(2)	(1)	(10)	(0)	(216)	
	英米文学科		7人	2人	3人	0人	12人	0人	148人	
		(7)	(2)	(3)	(0)	(12)	(0)	(148)		
教育学科		8人	10人	6人	0人	24人	0人	100人		
		(8)	(10)	(6)	(0)	(24)	(0)	(100)		
書道学科		8人	1人	1人	1人	11人	0人	163人		
		(8)	(1)	(1)	(1)	(11)	(0)	(163)		

教 員 組 織 の 概 要	学 部 等 の 名 称	専任教員等					兼 任 教 員 等	
		教授	准教授	講師	助教	計	助手	
既 員 組 織 の 概 要	経済学部 社会経済学科	10 (10)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	91 (91)
	現代経済学科	11 (11)	3 (3)	5 (5)	1 (1)	20 (20)	0 (0)	86 (86)
	外国語学部 中国語学科	6 (6)	3 (3)	1 (1)	1 (1)	11 (11)	0 (0)	155 (155)
	英語学科	11 (11)	8 (8)	8 (8)	1 (1)	28 (28)	0 (0)	199 (199)
	日本語学科	8 (8)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	11 (11)	0 (0)	151 (151)
	法学部 法律学科	14 (14)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	19 (19)	0 (0)	104 (104)
	政治学科	11 (11)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	89 (89)
	国際関係学部 国際関係学科	11 (11)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	15 (15)	0 (0)	78 (78)
	国際文化学科	7 (7)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	79 (79)
	経営学部 経営学科	21 (21)	9 (9)	3 (3)	0 (0)	33 (33)	0 (0)	88 (88)
	スポーツ・健康科学部 スポーツ科学科	11 (11)	4 (4)	3 (3)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	76 (76)
	健康科学科	10 (10)	6 (6)	3 (3)	0 (0)	19 (19)	3 (3)	65 (65)
	東洋研究所	2 (2)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	0 (0)
	書道研究所	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
	教職課程センター	1 (1)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	36 (36)
国際交流センター	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	9 (9)	
分	計	171 (171)	79 (79)	45 (45)	7 (7)	302 (302)	3 (3)	— (—)
要	合 計	192 (189)	95 (94)	57 (55)	13 (12)	357 (350)	10 (5)	— (—)
教員以外の職員の概要	職 種	専 任		兼 任		計		
	事 務 職 員	180 (180)		59 (59)		239 (239)		
	技 術 職 員	2 (2)		18 (18)		20 (20)		
	図 書 館 専 門 職 員	10 (10)		10 (10)		20 (20)		
	そ の 他 の 職 員	0 (0)		2 (2)		2 (2)		
	計	192 (192)		89 (89)		281 (281)		

大学全体

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体 内 借用地 2,635.10 m ² (内訳) ① 105.1m ² (平成17年4月1日～ 平成37年3月31日) ② 2530.0m ² (平成16年4月1日～ 平成37年3月31日)				
	校 舎 敷 地	66,525.45 m ²	— m ²	— m ²	66,525.45 m ²					
	運 動 場 用 地	47,531.69 m ²	— m ²	— m ²	47,531.69 m ²					
	小 計	114,057.14 m ²	— m ²	— m ²	114,057.14 m ²					
	そ の 他	162,220.71 m ²	— m ²	— m ²	162,220.71 m ²					
合 計	276,277.85 m ²	— m ²	— m ²	— m ²	276,277.85 m ²					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	専 用	大学全体				
		114,889.86 m ² (111,810.57 m ²)	— m ² (— m ²)	— m ² (— m ²)	114,889.86 m ² (111,810.57 m ²)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	199室	44室	45室	28室 (補助職員13人)	10室 (補助職員11人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称			室 数	大学全体				
		文学部歴史文化学科			9 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での共用分 を含む 図書 1,517,619冊 〔356,508冊〕 学術雑誌 2,411冊 〔372冊〕		
	文学部歴史文化学科	(86,436 [18,695])	1,266 [90] (1,266 [90])	60 [60] (60 [60])	318(32+2セット) 318(32+2セット)	0 (0)	0 (0)			
	計	(86,436 [18,695]) (86,436 [18,695])	1,266 [90] (1,266 [90])	60 [60] (60 [60])	318(32+2セット) 318(32+2セット)	0 (0)	0 (0)			
図 書 館		面積	閲覧席数		収 納 可 能 冊 数			大学全体		
		14,659.66 m ²	1,759 席		1,753,964 冊					
体 育 館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体		
		11,443.20 m ²	野球場、ラグビー場、テニスコート、弓道場							
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	※共同研究費については大学全体 ※図書購入費については届出学科全体 ※学科の経常的経費を含む	
	経費の見積り	教員1人当り研究費等		400千円	400千円	400千円	400千円	— 千円		— 千円
		共同研究費等		20,000千円	20,000千円	20,000千円	20,000千円	— 千円		— 千円
		図書購入費	3,000千円	3,000千円	3,000千円	1,000千円	1,000千円	— 千円		— 千円
		設備購入費	3,200千円	1,000千円	1,500千円	2,000千円	2,500千円	— 千円		— 千円
	学生1人当り納付金	区分	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
文学部 歴史文化 学科		1,214千円	956千円	956千円	956千円	— 千円	— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入 等							
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	大東文化大学								
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地	
		年	人	年次 人	人		倍		東京都板橋区 高島平1-9-1	
	文学研究科									
	日本文学専攻 (博士前期課程)	2	5	—	10	修士 (日本文学)	0.50	S39年度		
	中国学専攻 (博士前期課程)	2	5	—	10	修士 (中国学)	0.40	S39年度		
	英文学専攻 (修士課程)	2	5	—	10	修士 (英文学)	0.40	S53年度		
	書道学専攻 (博士前期課程)	2	7	—	14	修士 (書道学)	0.92	H15年度		
教育学専攻 (修士課程)	2	10	—	20	修士 (教育学)	0.20	H20年度			
日本文学専攻 (博士後期課程)	3	5	—	15	博士 (日本文学)	0.20	S47年度			
中国学専攻 (博士後期課程)	3	3	—	9	博士 (中国学)	0.00	S42年度			
書道学専攻 (博士後期課程)	3	3	—	9	博士 (書道学)	0.55	H17年度			

	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地
既	経済学研究科 経済学専攻 (博士前期課程)	2	10	—	20	修士 (経済学) (公共政策学)	0.15	S47年度	東京都板橋区 高島平1-9-1
	経済学専攻 (博士後期課程)	3	5	—	15	博士 (経済学)	0.00	S53年度	
設	法学研究科 法学専攻 (博士前期課程)	2	10	—	20	修士 (法学)	0.10	S52年度	東京都板橋区 高島平1-9-1
	政治学専攻 (博士前期課程)	2	7	—	14	修士 (政治学) (公共政策学)	0.14	H6年度	
大	法学専攻 (博士後期課程)	3	5	—	15	博士 (法学)	0.00	H3年度	東京都板橋区 高島平1-9-1
	政治学専攻 (博士後期課程)	3	4	—	12	博士 (政治学)	0.08	H8年度	
学	外国語学研究科 中国言語文化学専攻 (博士前期課程)	2	5	—	10	修士 (中国言語 文化学)	0.80	H11年度	東京都板橋区 高島平1-9-1
	英語学専攻 (博士前期課程)	2	5	—	10	修士 (英語学)	0.90	H11年度	
等	日本語文化学専攻 (博士前期課程)	2	5	—	10	修士 (日本語 文化学)	0.25	H11年度	東京都板橋区 高島平1-9-1
	中国言語文化学専攻 (博士後期課程)	3	3	—	9	博士 (中国言語 文化学)	0.44	H23年度	
の	英語学専攻 (博士後期課程)	3	3	—	9	博士 (英語学)	0.88	H17年度	埼玉県東松山市 岩殿560
	日本語文化学専攻 (博士後期課程)	3	3	—	9	博士 (日本語 文化学)	0.44	H19年度	
状	アジア地域研究科 アジア地域研究専攻 (博士前期課程)	2	12	—	24	修士 (アジア 地域研究)	0.41	H11年度	埼玉県東松山市 岩殿560
	アジア地域研究専攻 (博士後期課程)	3	4	—	12	博士 (アジア 地域研究)	0.00	H13年度	
況	経営学研究科 経営学専攻 (博士前期課程)	2	15	—	30	修士 (経営学)	0.13	H15年度	東京都板橋区 高島平1-9-1
	経営学専攻 (博士後期課程)	3	5	—	15	博士 (経営学)	0.06	H15年度	
況	スポーツ・健康科学研究科 スポーツ・健康科学専攻 (修士課程)	2	10	—	20	修士 (スポーツ科学) (健康科学)	0.65	H21年度	埼玉県東松山市 岩殿560
	法務研究科 法務専攻 (専門職学位課程)	3	—	—	—	法務博士 (専門職)	—	H16年度	

平成27年度より
学生募集停止
(法務研究科)

学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地		
既設	文学部		(530)		(2,160)		(1.11)			
	日本文学科	4	150	—	600	学士 (日本文学)	1.19	S37年度	埼玉県東松山市 岩殿560 東京都板橋区 高島平1-9-1	
	中国文学科	4	70	—	340	学士 (中国文学)	0.98	S37年度		平成29年度 入学定員減(△30人) (中国文学科)
	英米文学科	4	130	—	520	学士 (英米文学)	1.15	S42年度		
	教育学科	4	120	—	460	学士 (教育学)	1.07	S47年度		平成29年度 入学定員増(10人) (教育学科)
	書道学科	4	60	—	240	学士 (書道学)	1.14	H12年度		
	経済学部		(370)		(1,460)		(1.11)			
	社会経済学科	4	205	—	810	学士 (経済学)	1.11	S37年度		平成29年度 入学定員増(5人) (社会経済学科)
	現代経済学科	4	165	—	650	学士 (経済学)	1.13	H13年度		平成29年度 入学定員増(5人) (現代経済学科)
	外国語学部		(360)		(1,500)		(1.09)			
中国語学科	4	70	—	340	学士 (中国語学)	0.94	S47年度	平成29年度 入学定員減(△30人) (中国語学科)		
大	英語学科	4	230	—	920	学士 (英語学)	1.13	S47年度		
	日本語学科	4	60	—	240	学士 (日本語学)	1.18	H5年度		
	法学部		(375)		(1,500)		(1.12)			
	法律学科	4	225	—	900	学士 (法学)	1.12	S48年度		
	政治学科	4	150	—	600	学士 (政治学)	1.13	H2年度		
	国際関係学部		(200)		(800)		(1.14)			
	国際関係学科	4	100	—	400	学士 (国際関係)	1.19	S61年度	(1~4年次)	
	国際文化学科	4	100	—	400	学士 (国際文化)	1.09	S61年度	埼玉県東松山市 岩殿560	
	経営学部		(365)		(1,430)		(1.12)			
	経営学科	4	365	—	1,430	学士 (経営学)	1.14	H12年度	平成29年度 入学定員増(15人) (経営学科)	
学	企業システム学科	4	—	—	—	学士 (経営学)	—	H12年度	平成28年度より 学生募集停止 (企業システム学科)	
	環境創造学部		(165)		(660)		(1.12)			
	環境創造学科	4	165	—	660	学士 (環境創造学)	1.12	H13年度	平成30年度より 学生募集停止 (環境創造学科)	
	スポーツ・健康科学部		(225)		(850)		(1.12)			
等	スポーツ科学科	4	125	—	450	学士 (スポーツ科学)	1.19	H17年度	(1~4年次) 埼玉県東松山市 岩殿560	
	健康科学科	4	100	—	400	学士 (健康科学)	1.06	H17年度	平成29年度 入学定員増(25人) (スポーツ科学科)	
の	経営学部		(365)		(1,430)		(1.12)			
状	環境創造学部		(165)		(660)		(1.12)			
	環境創造学科	4	165	—	660	学士 (環境創造学)	1.12	H13年度	平成30年度より 学生募集停止 (環境創造学科)	
況	スポーツ・健康科学部		(225)		(850)		(1.12)			
	スポーツ科学科	4	125	—	450	学士 (スポーツ科学)	1.19	H17年度	(1~4年次) 埼玉県東松山市 岩殿560	
健康科学科	4	100	—	400	学士 (健康科学)	1.06	H17年度	平成29年度 入学定員増(25人) (スポーツ科学科)		
附属施設の概要	該当なし									

学校法人 大東文化学園 設置認可等に関わる組織の移行表

平成29年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	→	平成30年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
大東文化大学									
文学部					文学部				
日本文学科	150	-	600		日本文学科	150	-	600	
中国文学科	70	-	280		中国文学科	70	-	280	
英米文学科	130	-	520		英米文学科	130	-	520	
教育学科	120	-	480		教育学科	120	-	480	
書道学科	60	-	240		書道学科	60	-	240	
					<u>歴史文化学科</u>	<u>100</u>	-	<u>400</u>	学科の設置(届出)
経済学部					経済学部				
社会経済学科	205	-	820		社会経済学科	205	-	820	
現代経済学科	165	-	660		現代経済学科	165	-	660	
外国語学部					外国語学部				
中国語学科	70	-	280		中国語学科	70	-	280	
英語学科	230	-	920		英語学科	230	-	920	
日本語学科	60	-	240		日本語学科	60	-	240	
法学部					法学部				
法律学科	225	-	900		法律学科	225	-	900	
政治学科	150	-	600		政治学科	150	-	600	
国際関係学部					国際関係学部				
国際関係学科	100	-	400		国際関係学科	100	-	400	
国際文化学科	100	-	400		国際文化学科	100	-	400	
経営学部					経営学部				
経営学科	365	-	1,460		経営学科	365	-	1,460	
環境創造学部									
環境創造学科	165	-	660			<u>0</u>	-	<u>0</u>	平成30年4月学生募集停止
スポーツ・健康科学部					スポーツ・健康科学部				
スポーツ科学科	125	-	500		スポーツ科学科	125	-	500	
健康科学科	100	-	400		健康科学科	100	-	400	
					<u>看護学科</u>	<u>100</u>	-	<u>400</u>	学科の設置(認可申請)
					<u>社会学部</u>				
					<u>社会学科</u>	<u>200</u>	-	<u>800</u>	学部の設置(届出)
計	2,590	-	10,360		計	<u>2,825</u>	-	<u>11,300</u>	
大東文化大学大学院									
文学研究科					文学研究科				
日本文学専攻(M)	5	-	10		日本文学専攻(M)	5	-	10	
日本文学専攻(D)	5	-	15		日本文学専攻(D)	5	-	15	
中国学専攻(M)	5	-	10		中国学専攻(M)	5	-	10	
中国学専攻(D)	3	-	9		中国学専攻(D)	3	-	9	
英文学専攻(M)	5	-	10		英文学専攻(M)	5	-	10	
書道学専攻(M)	7	-	14		書道学専攻(M)	7	-	14	
書道学専攻(D)	3	-	9		書道学専攻(D)	3	-	9	
教育学専攻(M)	10	-	20		教育学専攻(M)	10	-	20	
経済学研究科					経済学研究科				
経済学専攻(M)	10	-	20		経済学専攻(M)	10	-	20	
経済学専攻(D)	5	-	15		経済学専攻(D)	5	-	15	
法学研究科					法学研究科				
法律学専攻(M)	10	-	20		法律学専攻(M)	10	-	20	
法律学専攻(D)	5	-	15		法律学専攻(D)	5	-	15	
政治学専攻(M)	7	-	14		政治学専攻(M)	7	-	14	
政治学専攻(D)	4	-	12		政治学専攻(D)	4	-	12	
外国語学研究科					外国語学研究科				
中国言語文化学専攻(M)	5	-	10		中国言語文化学専攻(M)	5	-	10	
中国言語文化学専攻(D)	3	-	9		中国言語文化学専攻(D)	3	-	9	
英語学専攻(M)	5	-	10		英語学専攻(M)	5	-	10	
英語学専攻(D)	3	-	9		英語学専攻(D)	3	-	9	
日本語文化学専攻(M)	10	-	20		日本語文化学専攻(M)	10	-	20	
日本語文化学専攻(D)	3	-	9		日本語文化学専攻(D)	3	-	9	
アジア地域研究科					アジア地域研究科				
アジア地域研究専攻(M)	12	-	24		アジア地域研究専攻(M)	12	-	24	
アジア地域研究専攻(D)	4	-	12		アジア地域研究専攻(D)	4	-	12	
経営学研究科					経営学研究科				
経営学専攻(M)	15	-	30		経営学専攻(M)	15	-	30	
経営学専攻(D)	5	-	15		経営学専攻(D)	5	-	15	
スポーツ・健康科学研究科					スポーツ・健康科学研究科				
スポーツ・健康科学専攻(M)	10	-	20		スポーツ・健康科学専攻(M)	10	-	20	
計	159	-	361		計	159	-	361	

教 育 課 程 等 の 概 要														
(文学部歴史文化学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	
全学 共通科目	基本 科目 A系 人間 と文化 (人文系)	哲学A		2		○								兼2
		哲学B		2		○								兼2
		文学A		2		○								兼2
		文学B		2		○								兼2
		論理学A		2		○								兼1
		論理学B		2		○								兼1
		倫理学A		2		○								兼2
		倫理学B		2		○								兼2
		宗教学A		2		○			1					
		宗教学B		2		○			1					
		歴史学A		2		○				2				兼2
		歴史学B		2		○				2				兼2
		考古学A		2		○			1					
		考古学B		2		○			1					
		文化史A		2		○				1				
		文化史B		2		○				1				
		芸術学A		2		○								兼4
		芸術学B		2		○								兼4
	地理学A		2		○								兼2	
	地理学B		2		○								兼2	
	言語学A		2		○								兼2	
	言語学B		2		○								兼2	
	基本 科目 B系 社会 と生活 (社会系)	法学A		2		○								兼2
		法学B		2		○								兼2
		社会学A		2		○								兼2
		社会学B		2		○								兼2
		政治学A		2		○								兼2
		政治学B		2		○								兼2
		経済学A		2		○								兼1
		経済学B		2		○								兼1
心理学A			2		○								兼2	
心理学B			2		○								兼2	
教育学A			2		○								兼2	
教育学B			2		○								兼2	
民俗学A		2		○								兼1		
民俗学B		2		○								兼1		
文化人類学A		2		○								兼1		
文化人類学B		2		○								兼1		
自然 と環境 (自然系)	基本 科目 C系	数学A		2		○								兼1
		数学B		2		○								兼1
		地学A		2		○								兼1
		地学B		2		○								兼1
		生物学A		2		○								兼2
		生物学B		2		○								兼2
		生態学A		2		○								兼1
		生態学B		2		○								兼1
		現代科学A		2		○								兼3
		現代科学B		2		○								兼3
情報科学A		2		○								兼2		
情報科学B		2		○								兼2		
自然科学A		2		○								兼1		
自然科学B		2		○								兼1		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		授業形態			専任教員等の配置					備考					
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教		助手				
基本 科目 D系 保健 体育系	総合体育A	1・2前	1					○								兼5		
	総合体育B	1・2後	1					○								兼5		
	健康スポーツ科学A	1・2前・後		2			○									兼4		
	健康スポーツ科学B	1・2前・後		2			○									兼4		
	体育実技A	2前		1					○							兼3		
	体育実技B	2後		1					○							兼3		
	野外実習A	1・2前		1					○							兼1		
	野外実習B	1・2後		1					○							兼1		
	全学 共通科目	第1群 地域・国家・民族の考察A	1・2前・後		2			○									兼2	
			1・2前・後		2			○									兼2	
		第2群 女性・子ども・老人への視点A	1・2前・後		2			○										兼2
			1・2前・後		2			○										兼2
		第3群 人権・民主主義・平和を考えるA	1・2前・後		2			○										兼1
			1・2前・後		2			○										兼1
		第4群 現代社会の諸問題A	1・2前・後		2			○										兼2
			1・2前・後		2			○										兼2
		第5群 異文化・世界にふれるA	1・2前・後		2			○				1						兼3
			1・2前・後		2			○				1						兼3
		第6群 自己・人間をみつめるA	1・2前・後		2			○										兼4
			1・2前・後		2			○										兼4
		第7群 キャリアデザインA	1・2前・後		2			○										兼2
			1・2前・後		2			○										兼2
		第8群 全学共通特殊講義A	1・2前・後		2			○										兼2
			1・2前・後		2			○										兼2
	教職 課程 専門科目	日本国憲法	1・2前・後		2			○									兼1	
			小計(77科目)	—	2	146	0	—	—	—	2	2	0	0	0		兼55	
	基礎 教育科目	選択 必修 科目	基礎英語A	1前	1				○								兼1	
基礎英語B			1後	1				○								兼1		
英語リーディングA			1前	1					○							兼2		
英語リーディングB			1後	1					○							兼2		
口語英語A			1前	1					○							兼2		
口語英語B			1後	1					○							兼2		
総合英語A			1前	1					○							兼1		
総合英語B			1後	1					○							兼1		
時事英語A			1前	1					○							兼1		
時事英語B			1後	1					○							兼1		
英米文化表現A			1前	1					○							兼1		
英米文化表現B			1後	1					○							兼1		
英米作品講読A			1前	1					○							兼1		
英米作品講読B			1後	1					○							兼1		
現代英語応用A			1前	1					○							兼1		
現代英語応用B			1後	1					○							兼1		
上級英語A			3前	1					○							兼2		
上級英語B			3後	1					○							兼2		
フランス語基礎1A			1前	1					○							兼1		
フランス語基礎1B			1後	1					○							兼1		
フランス語基礎2A			1前	1					○							兼1		
フランス語基礎2B			1後	1					○							兼1		
フランス語初級1A	1前	1					○							兼1				

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手			
基礎 教育 科目	選択 必修 科目	フランス語初級1B		1				○							兼1	隔年 隔年 隔年 隔年
		フランス語初級2A	1後	1				○							兼1	
		フランス語初級2B	1前	1					○						兼1	
		フランス語中級1A	1後	1					○						兼1	
		フランス語中級1B	2前	1					○						兼1	
		フランス語中級2A	2後	1					○						兼1	
		フランス語中級2B	2前	1					○						兼1	
		フランス語中級3A	2後	1					○						兼1	
		フランス語中級3B	2前	1					○						兼1	
		フランス語中級4A	2後	1					○						兼1	
		フランス語中級4B	2前	1					○						兼1	
		フランス語上級1A	2後	1					○						兼1	
		フランス語上級1B	3前	1					○						兼1	
		フランス語上級2A	3後	1					○						兼1	
		フランス語上級2B	3前	1					○						兼1	
		ドイツ語基礎1A	3後	1					○						兼1	
		ドイツ語基礎1B	1前	1					○						兼1	
		ドイツ語基礎2A	1後	1					○						兼1	
		ドイツ語基礎2B	1前	1					○						兼1	
		ドイツ語初級1A	1後	1					○						兼1	
		ドイツ語初級1B	1前	1					○						兼1	
		ドイツ語初級2A	1後	1					○						兼1	
		ドイツ語初級2B	1前	1					○						兼1	
		ドイツ語中級1A	1後	1					○						兼1	
		ドイツ語中級1B	2前	1					○						兼1	
		ドイツ語中級2A	2後	1					○						兼1	
		ドイツ語中級2B	2前	1					○						兼1	
		ドイツ語中級3A	2後	1					○						兼1	
		ドイツ語中級3B	2前	1					○						兼1	
		ドイツ語中級4A	2後	1					○						兼1	
		ドイツ語中級4B	2前	1					○						兼1	
		ドイツ語上級1A	2後	1					○						兼1	
		ドイツ語上級1B	3前	1					○						兼1	
		ドイツ語上級2A	3後	1					○						兼1	
		ドイツ語上級2B	3前	1					○						兼1	
		中国語基礎1A	3後	1					○						兼1	
		中国語基礎1B	1前	1					○						兼1	
		中国語基礎2A	1後	1					○						兼1	
		中国語基礎2B	1前	1					○						兼1	
		中国語初級1A	1後	1					○						兼1	
		中国語初級1B	1前	1					○						兼1	
		中国語初級2A	1後	1					○						兼1	
		中国語初級2B	1前	1					○						兼1	
		中国語中級1A	1後	1					○						兼1	
		中国語中級1B	2前	1					○						兼1	
		中国語中級2A	2後	1					○						兼1	
		中国語中級2B	2前	1					○						兼1	
		中国語中級3A	2後	1					○						兼1	
		中国語中級3B	2前	1					○						兼1	
		中国語中級4A	2後	1					○						兼1	
		中国語中級4B	2前	1					○						兼1	
		中国語上級1A	2後	1					○						兼1	
		中国語上級1B	3前	1					○						兼1	
		中国語上級2A	3後	1					○						兼1	
中国語上級2B	3前	1					○						兼1			
ロシア語基礎1A	3後	1					○						兼1			
ロシア語基礎1B	1前	1					○						兼1			
ロシア語基礎2A	1後	1					○						兼1			
ロシア語基礎2B	1前	1					○						兼1			
ロシア語基礎1A	1後	1					○						兼1			
ロシア語基礎1B	1前	1					○						兼1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基礎教育科目	選択必修科目	ロシア語基礎2A	1前	1			○								兼1	
		ロシア語基礎2B	1後	1			○								兼1	
		イタリア語初級A	1前	1			○								兼1	
		イタリア語初級B	1後	1			○								兼1	
		スペイン語基礎1A	1前	1			○								兼1	
		スペイン語基礎1B	1後	1			○								兼1	
		スペイン語基礎2A	1前	1			○								兼1	
		スペイン語基礎2B	1後	1			○								兼1	
		スペイン語中級A	2前	1			○								兼1	
		スペイン語中級B	2後	1			○								兼1	
		ポルトガル語初級A	1前	1			○								兼1	
		ポルトガル語初級B	1後	1			○								兼1	
		海外研修英語	1後・2前・2後	2					○							兼1
	海外研修中国語	1後・2前・2後	2					○							兼1	
	小計(98科目)	—	0	100	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼39	
選択科目	情報処理A	1前		2			○								兼1	
	情報処理B	1後		2			○								兼1	
	情報処理C	1前		2			○								兼1	
	情報処理D	1後		2			○								兼1	
	小計(4科目)	—	0	8	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼1	
必修科目	歴史文化学入門A	1前	2				○		2	3					共同(一部)・オムニバス形式(一部)	
	歴史文化学入門B	1後	2				○		2	3					共同(一部)・オムニバス形式(一部)	
	基礎演習A	2前	2				○			3					兼2	
	基礎演習B	2後	2				○			3					兼2	
	専門演習	3通	4				○		3	5						
	卒業研究	4通	6				○		3	5						
小計(6科目)	—	18	0	0	—	—	—	3	5	0	0	0	0	兼3		
専門教育科目	選択必修科目	日本史概説A	1・2前		2		○								兼1	
		日本史概説B	1・2後		2		○								兼1	
		西洋史概説A	1・2前		2		○									
		西洋史概説B	1・2後		2		○									
		東洋史概説A	1・2前		2		○			1						
		東洋史概説B	1・2後		2		○			1						
		宗教学概説A	1・2前		2		○			1						
		宗教学概説B	1・2後		2		○			1						
		西洋文化史概論A	1・2前		2		○									兼1
		西洋文化史概論B	1・2後		2		○									兼1
		東洋文化史概論A	1・2前		2		○									兼1
		東洋文化史概論B	1・2後		2		○									兼1
		観光歴史学概論A	1・2前		2		○			1						
		観光歴史学概論B	1・2後		2		○			1						
		日本考古学概説A	1・2前		2		○			1						
		日本考古学概説B	1・2後		2		○									兼1
	小計(16科目)	—	0	32	0	—	—	—	3	3	0	0	0	0	兼5	
	専門支援科目	漢文入門A	1・2前		2		○									兼1
		漢文入門B	1・2後		2		○									兼1
漢文基礎A		2前		2		○									兼1	
漢文基礎B		2後		2		○									兼1	
西洋古典語入門1A		1・2前		2		○									兼1	
西洋古典語入門2A		1・2前		2		○									兼1	
西洋古典語基礎1B		1・2後		2		○									兼1	
西洋古典語基礎2B		1・2後		2		○									兼1	
観光英語A		1・2前		1			○								兼1	
観光英語B	1・2後		1			○								兼1		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門 支援 科目	上級観光英語A	3・4前		1				○								兼1	
	上級観光英語B	3・4後		1				○								兼1	
	添乗英語A	3・4前		1				○								兼1	
	添乗英語B	3・4後		1				○								兼1	
	小計 (14科目)	—	0	22	0	—			0	0	0	0	0			兼3	
	日本史 コース 科目	日本古代・中世史研究A	2前		2			○			1						
		日本古代・中世史研究B	2後		2			○			1						
		日本近世・近代史研究A	2前		2			○									兼1
		日本近世・近代史研究B	2後		2			○									兼1
		日本古代・中世史史料講読A	2前		2			○									兼1
		日本古代・中世史史料講読B	2後		2			○									兼1
		日本近世・近代史史料講読A	2前		2			○									兼1
		日本近世・近代史史料講読B	2後		2			○									兼1
		鎌倉時代史研究A	3・4前		2			○									兼1
		鎌倉時代史研究B	3・4後		2			○									兼1
		戦国時代史研究A	3・4前		2			○									兼1
		戦国時代史研究B	3・4後		2			○									兼1
		江戸文化史研究	3・4前		2			○									兼1
		明治維新史研究A	3・4前		2			○				1					
		明治維新史研究B	3・4後		2			○				1					
		昭和史研究A	3・4前		2			○									兼1
		昭和史研究B	3・4後		2			○									兼1
		日本古代・中世史史料演習A	3・4前		2				○								兼1
		日本古代・中世史史料演習B	3・4後		2				○								兼1
日本近世・近代史史料演習A		3・4前		2				○								兼1	
日本近世・近代史史料演習B		3・4後		2				○								兼1	
江戸文化史演習		3・4後		2				○								兼1	
小計 (22科目)	—	0	44	0	—			0	2	0	0	0			兼7		
東西文化 コース 科目	西洋古代・中世史研究A	2前		2			○			1							
	西洋古代・中世史研究B	2後		2			○									兼1	
	西洋近世・近代史研究A	2前		2			○				1						
	西洋近世・近代史研究B	2後		2			○				1						
	東洋古代・中世史研究A	2前		2			○									兼1	
	東洋古代・中世史研究B	2後		2			○									兼1	
	東洋近世・近代史研究A	2前		2			○			1							
	東洋近世・近代史研究B	2後		2			○									兼1	
	宗教史研究	3・4前		2			○									兼1	
	仏教史研究	3・4前		2			○									兼1	
	現代史研究	3・4前		2			○									兼1	
	交流史研究A	3・4前		2			○									兼1	
	交流史研究B	3・4後		2			○			1							
	シルクロード史研究A	3・4前		2			○			1							
	シルクロード史研究B	3・4後		2			○									兼1	
	ギリシア・ラテン文化史研究	3・4後		2			○			1							
	キリスト教史研究	3・4後		2			○									兼1	
	中国文化史研究	3・4後		2			○			1							
	西洋史史料演習	3・4前		2				○								兼1	
	東洋史史料演習	3・4後		2				○								兼1	
	比較文明論演習A	3・4前		2				○								兼1	
	比較文明論演習B	3・4後		2				○								兼1	
	東西文化特別演習A	3・4前		2				○		1							
	東西文化特別演習B	3・4後		2				○		1							
小計 (24科目)	—	0	48	0	—			2	1	0	0	0			兼9		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
外国人留学生に関する日本語科目等	(活動コース) フィールドワークA	1・2前		2		○									兼2	
	フィールドワークB	1・2後		2		○									兼2	
	(内容コース)	日本の政治・経済・社会A	1・2前		2		○									兼1
		日本の政治・経済・社会B	1・2後		2		○									兼1
		日本の文化・芸術A	1・2前		2		○									兼1
		日本の文化・芸術B	1・2後		2		○									兼1
		日本の歴史A	1・2前		2		○									兼1
		日本の歴史B	1・2後		2		○									兼1
		現代日本の諸相A	1・2前		2		○									兼1
		現代日本の諸相B	1・2後		2		○									兼1
	言語コース(発展)	理解とコミュニケーションA	1・2前		1			○								兼2
		理解とコミュニケーションB	1・2後		1			○								兼2
		資料・文献読解A	1・2前		1			○								兼3
		資料・文献読解B	1・2後		1			○								兼3
		日本語文章表現A	1・2前		1			○								兼3
		日本語文章表現B	1・2後		1			○								兼3
小計(16科目)	—	0	26	0	—			0	0	0	0	0	0	兼7		
合計(323科目)		—	20	518	0	—			4	5	0	0	0	0	兼127	
学位又は称号	学士(歴史文化学)		学位又は学科の分野				文学関係									
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
全学共通科目の必修科目から2単位、基礎教育科目の選択必修科目から8単位以上、専門教育科目の必修科目から18単位、専門基礎科目から8単位以上、専門支援科目から4単位以上、2年次より振分けされる各コース(日本史、東西文化、観光歴史学)で定めた選択必修科目から32単位以上取得し、124単位以上を取得すること。 外国人留学生等は、外国人留学生に関する日本語科目等の内容コース及び言語コース(発展)の科目から選択して8単位以上取得し、それを基礎教育科目の選択必修科目の単位に代えることができる。 (履修科目の登録の上限: 1~3年次(44単位)、4年次(49単位))							1学年の学期区分		2期							
							1学期の授業期間		15週							
							1時限の授業時間		90分							

授 業 科 目 の 概 要			
(文学部歴史文化学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 基本科目 A系 人間と文化(人文系)	哲学A	哲学とは、「世界」や「知識」や「私」のありようとその根拠について、自分の頭で考え抜き、それを明晰な言葉で表現しようと努める、知的な営みである。ところで、哲学が「学」である以上、学固有な言葉の使い方と、それを踏まえた思考の作法が存在する。この科目では、哲学の歴史を概観し、さらに個々の哲学者を取り上げながら、哲学的思考を成り立たせている基礎概念の意味を明らかにする。 開講するテーマとしては「哲学入門」、「哲学史」、「西洋哲学史概説」など。	
	哲学B	哲学とは、「世界」や「知識」や「私」のありようとその根拠について、自分の頭で考え抜き、それを明晰な言葉で表現しようと努める、知的な営みである。ところで、哲学が「学」である以上、学固有な言葉の使い方と、それを踏まえた思考の作法が存在する。この科目では、哲学の歴史を概観し、さらに個々の哲学者を取り上げながら、哲学的思考を成り立たせている基礎概念の意味を明らかにする。 開講するテーマとしては「哲学入門」、「哲学史」、「西洋哲学史概説」など。 上記『哲学A』を修得後、『哲学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	
	文学A	主として19世紀以降に日本語および外国語で書かれたさまざまな作品を、恋愛について、希望について、異界について、戦争について、資本主義についてなど、さまざまな観点から読む。また、作家の人生や作品の成立を歴史的社会的な背景のなかで捉えることの重要性を考える。そのような作業をとおして、文学がいかに「今」を生きる私たちの認識を深め、日常的な生への思考に新たな発想をひらくかを確認する。 開講するテーマとしては「アジアの戦争と文学」、「近代日本文学」、「現代日本文学」、「比較文学」、「フランスの文学」、「文学から学ぶ人間の生き方」、「文学と美術」など。	
	文学B	主として19世紀以降に日本語および外国語で書かれたさまざまな作品を、恋愛について、希望について、異界について、戦争について、資本主義についてなど、さまざまな観点から読む。また、作家の人生や作品の成立を歴史的社会的な背景のなかで捉えることの重要性を考える。そのような作業をとおして、文学がいかに「今」を生きる私たちの認識を深め、日常的な生への思考に新たな発想をひらくかを確認する。 開講するテーマとしては「アジアの戦争と文学」、「近代日本文学」、「現代日本文学」、「比較文学」、「フランスの文学」、「文学から学ぶ人間の生き方」、「文学と美術」など。 上記『文学A』を修得後、『文学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	
	論理学A	ものごとを正しく理解し、それを的確に表現するためのもっとも基本的な思考の枠組みが論理学である。この科目では、現代論理学(記号論理学)の初歩を題材に、論理記号の意味と操作を修得することによって論理的思考力を身につけることを目指す。また、思考そのものの学である論理学への日常的かつ実践的な導入を目的とし、とくに判断推理を取り上げて論理的思考力のトレーニングを行う。 開講するテーマとしては「論理学入門」、「論理的思考」など。	
	論理学B	ものごとを正しく理解し、それを的確に表現するためのもっとも基本的な思考の枠組みが論理学である。この科目では、現代論理学(記号論理学)の初歩を題材に、論理記号の意味と操作を修得することによって論理的思考力を身につけることを目指す。また、思考そのものの学である論理学への日常的かつ実践的な導入を目的とし、とくに判断推理を取り上げて論理的思考力のトレーニングを行う。 開講するテーマとしては「論理学入門」、「論理的思考」など。 上記『論理学A』を修得後、『論理学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	

授 業 科 目 の 概 要

(文学部歴史文化学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 基本科目 A系 人間と文化(人文系)	倫理学A	臓器移植や環境問題といった具体的問題に関わる「応用倫理学」が注目を浴びて久しい。しかし、こうした場面であっても、それが医学でも法学でも社会学でもなく、高校の科目である「倫理」とも異なる、「倫理学」という独自の学問的立場からのアプローチであることの意味を理解していることが大前提となる。この科目では「倫理的にもものを考えるとはどういうことか」について考えていく。 開講するテーマは「生きる意味の探求と創造」、「環境倫理学」、「現代世界における自由と共生」、「倫理学入門」など。	
	倫理学B	臓器移植や環境問題といった具体的問題に関わる「応用倫理学」が注目を浴びて久しい。しかし、こうした場面であっても、それが医学でも法学でも社会学でもなく、高校の科目である「倫理」とも異なる、「倫理学」という独自の学問的立場からのアプローチであることの意味を理解していることが大前提となる。この科目では「倫理的にもものを考えるとはどういうことか」について考えていく。 開講するテーマは「生きる意味の探求と創造」、「環境倫理学」、「現代世界における自由と共生」、「倫理学入門」など。 上記『倫理学A』を修得後、『倫理学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	
	宗教学A	宗教は、現代の世界で大きな力を持っている。にもかかわらず日本では、あまりなじみがない人が多いのが現状である。「宗教とは何か」という問いからはじめて、世界の中の宗教に目を向けてみたり、現代日本文化の中の宗教的なものを省みたりして宗教の諸相をめぐり、最後に自分なりの答えを出していく。東西の主要な宗教が各場面で見せる姿を手がかりにして、諸宗教の独自性、宗教間の共通性を把握することを目標とする。 開講するテーマは「宗教学概論A」、「宗教学概論B」など。	
	宗教学B	宗教は、現代の世界で大きな力を持っている。にもかかわらず日本では、あまりなじみがない人が多いのが現状である。「宗教とは何か」という問いからはじめて、世界の中の宗教に目を向けてみたり、現代日本文化の中の宗教的なものを省みたりして宗教の諸相をめぐり、最後に自分なりの答えを出していく。東西の主要な宗教が各場面で見せる姿を手がかりにして、諸宗教の独自性、宗教間の共通性を把握することを目標とする。 開講するテーマは「宗教学概論A」、「宗教学概論B」など。 上記『宗教学A』を修得後、『宗教学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	
	歴史学A	日本史、東洋史、西洋史のさまざまな局面を素材として、たとえば奴隷制や封建制といった基本概念を知り、時代区分の方法などを学び、さらには、歴史を理解する上では仮説・概念が先導的な役割を果たすこと、また仮説と実証、そしてそれをめぐる批判と反批判を通じて認識が進化していくことなどを考える。また、歴史上の有名な人物や事件を、多層的・立体的にとらえなおし、理解を深めていく。 開講するテーマは「イギリス近現代史」、「東西交渉史」、「東洋史」、「日本近世・近代政治史」、「日本社会構成史」、「中国近世史」、「中国近世思想史」、「中国近代史」、「中国現代史」、「中国古代史」、「中国古代思想史」など。	
	歴史学B	日本史、東洋史、西洋史のさまざまな局面を素材として、たとえば奴隷制や封建制といった基本概念を知り、時代区分の方法などを学び、さらには、歴史を理解する上では仮説・概念が先導的な役割を果たすこと、また仮説と実証、そしてそれをめぐる批判と反批判を通じて認識が進化していくことなどを考える。また、歴史上の有名な人物や事件を、多層的・立体的にとらえなおし、理解を深めていく。 開講するテーマは「イギリス近現代史」、「東西交渉史」、「東洋史」、「日本近世・近代政治史」、「日本社会構成史」、「中国近世史」、「中国近世思想史」、「中国近代史」、「中国現代史」、「中国古代史」、「中国古代思想史」など。 上記『歴史学A』を修得後、『歴史学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	

授 業 科 目 の 概 要

(文学部歴史文化学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 基本科目 A系 人間と文化(人文系)	考古学A	考古学は、遺跡・遺構・遺物の研究によって、過去の人間生活を知る学問である。この科目では、考古学の研究法やその特徴を解説し、東アジアや日本の考古学の成果として、最近の遺跡発掘調査成果などを具体的に紹介する。また考古学的方法によって明らかになってきた、東アジアにおける文明の誕生から古代国家の形成までの歴史を概観する。 開講するテーマは「日本考古学」、「考古学概説」など。	
	考古学B	考古学は、遺跡・遺構・遺物の研究によって、過去の人間生活を知る学問である。この科目では、考古学の研究法やその特徴を解説し、東アジアや日本の考古学の成果として、最近の遺跡発掘調査成果などを具体的に紹介する。また考古学的方法によって明らかになってきた、東アジアにおける文明の誕生から古代国家の形成までの歴史を概観する。 開講するテーマは「日本考古学」、「考古学概説」など。 上記『考古学A』を修得後、『考古学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	
	文化史A	文化とは、人々の日常生活を構成する衣食住それ自体はもとより、こうした日常生活と密接にかかわる技術や学問、芸術、道徳、宗教等を総体的に含めた概念である。洋の東西を問わず、それぞれの時代ごとに象徴的な文化が人々によって生み出されてきたが、その移り変わりを学ぶことは、それぞれの時代の社会背景を理解することとなり、ひいては現在そして将来の文化と社会を理解・展望することになる。授業では、複数のテーマの下に、各時代の文化の移り変わりを学ぶ。 開講するテーマは「日本文化史A」、「日本文化史B」など。	
	文化史B	文化とは、人々の日常生活を構成する衣食住それ自体はもとより、こうした日常生活と密接にかかわる技術や学問、芸術、道徳、宗教等を総体的に含めた概念である。洋の東西を問わず、それぞれの時代ごとに象徴的な文化が人々によって生み出されてきたが、その移り変わりを学ぶことは、それぞれの時代の社会背景を理解することとなり、ひいては現在そして将来の文化と社会を理解・展望することになる。授業では、複数のテーマの下に、各時代の文化の移り変わりを学ぶ。 開講するテーマは「日本文化史A」、「日本文化史B」など。 上記『文化史A』を修得後、『文化史A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	
	芸術学A	音楽、舞台芸術、美術、映画、それぞれの分野を考察するための用語になじみ、音楽史、演劇史、美術史、映画史の潮流を概観し、特定のテーマに沿って、あるいは特定の時代を区切って、具体的な作品を鑑賞する。芸術が人々にどのような影響を与えてきたか、歴史的社会的な動きが芸術にどのような影響をもたらしたかを考察し、現代を生きる私たちにとって芸術活動がもつ多様な役割を認識する。 開講するテーマは「映画論」、「西洋美術史」、「ヨーロッパ絵画史」、「音楽」、「絵画」、「日本美術史概論」、「日本美術史特論」、「美術史」、「舞台芸術論」など。	
	芸術学B	音楽、舞台芸術、美術、映画、それぞれの分野を考察するための用語になじみ、音楽史、演劇史、美術史、映画史の潮流を概観し、特定のテーマに沿って、あるいは特定の時代を区切って、具体的な作品を鑑賞する。芸術が人々にどのような影響を与えてきたか、歴史的社会的な動きが芸術にどのような影響をもたらしたかを考察し、現代を生きる私たちにとって芸術活動がもつ多様な役割を認識する。 開講するテーマは「映画論」、「西洋美術史」、「ヨーロッパ絵画史」、「音楽」、「絵画」、「日本美術史概論」、「日本美術史特論」、「美術史」、「舞台芸術論」など。 上記『芸術学A』を修得後、『芸術学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	

授 業 科 目 の 概 要

(文学部歴史文化学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学 共通科目	基本科目 A系 人間と文化(人文系)	地理学A	高齢化や少子化などの人口問題、都市交通の問題、農業の問題、自然環境の問題、自然災害の問題など、現代の私たちが地球規模で直面しているさまざまな難問を取り上げ、人文地理学および自然地理学の最新の研究成果を紹介しながら、それらの問題にどのように取り組んでいくべきか、あるいはどのように取り組むことが可能であるかを考える。 開講するテーマは「都市地理」、「人口地理」、「地域と交通」、「世界の農業」、「自然地理」など。
	地理学B	高齢化や少子化などの人口問題、都市交通の問題、農業の問題、自然環境の問題、自然災害の問題など、現代の私たちが地球規模で直面しているさまざまな難問を取り上げ、人文地理学および自然地理学の最新の研究成果を紹介しながら、それらの問題にどのように取り組んでいくべきか、あるいはどのように取り組むことが可能であるかを考える。 開講するテーマは「都市地理」、「人口地理」、「地域と交通」、「世界の農業」、「自然地理」など。 上記『地理学A』を修得後、『地理学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	
	言語学A	ことばは音をどのように使って成立しているのか、ことばの意味はどのようにして発生するのか、言外の意味はどのようにして可能なのかなどについて、日常的に使っている日本語や英語を素材にしながら考える。また、社会や社会階層や時代によってことばはどのように変化するのか、人間はことば(母語、第二言語)をどのように修得するのかなどについて、さまざまな言語学の最新の動向を踏まえて考える。 開講するテーマは「ことばを科学する」、「社会の中の言語」など。	
	言語学B	ことばは音をどのように使って成立しているのか、ことばの意味はどのようにして発生するのか、言外の意味はどのようにして可能なのかなどについて、日常的に使っている日本語や英語を素材にしながら考える。また、社会や社会階層や時代によってことばはどのように変化するのか、人間はことば(母語、第二言語)をどのように修得するのかなどについて、さまざまな言語学の最新の動向を踏まえて考える。 開講するテーマは「ことばを科学する」、「社会の中の言語」など。 上記『言語学A』を修得後、『言語学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	
社会と生活(社会系)	基本科目 B系	法学A	この科目では、法律に関する基礎的な知識を学んでいく。社会生活や日常生活では、さまざまな場面で決まりごとが存在するが、そのひとつが法律である。法律とは何か、道徳や倫理といったほかの決まりごととはどう違うのか、法律はどのように発展してきたのか、現代社会において問題となっている事柄について、法律がどのように関わってくるのかなどを学修する。また、憲法、民法、刑法の基本的知識を修得する。 開講するテーマは「法学A」、「法学B」など。
	法学B	この科目では、法律に関する基礎的な知識を学んでいく。社会生活や日常生活では、さまざまな場面で決まりごとが存在するが、そのひとつが法律である。法律とは何か、道徳や倫理といったほかの決まりごととはどう違うのか、法律はどのように発展してきたのか、現代社会において問題となっている事柄について、法律がどのように関わってくるのかなどを学修する。また、憲法、民法、刑法の基本的知識を修得する。 開講するテーマは「法学A」、「法学B」など。 上記『法学A』を修得後、『法学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	

授 業 科 目 の 概 要

(文学部歴史文化学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 基本科目 B系 社会と生活(社会系)	社会学A	人間が他人に対して行う「社会的行為」、他人と取り結ぶ「社会関係」、他人とともに形成する「社会集団」という三つのテーマを軸として、社会学の基礎的諸概念を解説する。特に「社会的行為」と、行為を導く、また行為の結果として生じるさまざまなパターンという意味での「文化」との関係が多面的に考察する。そしてそれらの議論の中で登場する種々の概念を用いて、多様な社会現象、たとえば流行、映画、コミック、アニメ、ゲーム、環境問題、ジェンダーなどを、どのように分析・説明・評価できるかを示す。 開講するテーマは「環境社会学」、「社会科学の歴史」、「社会学の考え方」、「現代社会論」、「社会問題のとらえ方」など。	
	社会学B	人間が他人に対して行う「社会的行為」、他人と取り結ぶ「社会関係」、他人とともに形成する「社会集団」という三つのテーマを軸として、社会学の基礎的諸概念を解説する。特に「社会的行為」と、行為を導く、また行為の結果として生じるさまざまなパターンという意味での「文化」との関係が多面的に考察する。そしてそれらの議論の中で登場する種々の概念を用いて、多様な社会現象、たとえば流行、映画、コミック、アニメ、ゲーム、環境問題、ジェンダーなどを、どのように分析・説明・評価できるかを示す。 開講するテーマは「環境社会学」、「社会科学の歴史」、「社会学の考え方」、「現代社会論」、「社会問題のとらえ方」など。 上記『社会学A』を修得後、『社会学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	
	政治学A	政治とは、人間が集団を形成する上で不可欠な営みであり、私たちが通常思い浮かべるような、地方自治体・国・世界の政治はすべてその延長線上に存在するものである。いいかえれば、私たちの日常生活そのものが政治の一環であるといえる。ゆえに私たちは、好むと好まざるとにかかわらず、政治という営みから無縁ではいられない。この点を念頭に置きつつ、政治を理解するうえで必要な基本的な概念、政治思想、政治制度などについて説明する。 開講するテーマは「政治学入門A」、「政治学入門B」など。	
	政治学B	政治とは、人間が集団を形成する上で不可欠な営みであり、私たちが通常思い浮かべるような、地方自治体・国・世界の政治はすべてその延長線上に存在するものである。いいかえれば、私たちの日常生活そのものが政治の一環であるといえる。ゆえに私たちは、好むと好まざるとにかかわらず、政治という営みから無縁ではいられない。この点を念頭に置きつつ、政治を理解するうえで必要な基本的な概念、政治思想、政治制度などについて説明する。 開講するテーマは「政治学入門A」、「政治学入門B」など。 上記『政治学A』を修得後、『政治学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	
	経済学A	この科目では自分の人生と経済との関わりを意識する目を養うとともに、一般常識としての経済学の用語や考え方を身につける。たとえば、マクロ経済学の基本として、GDP、株価、金利が動く仕組みを理解し、経済政策と景気の間を考察する。また、ミクロ経済学の基本として、消費者である自分の行動、バイト先や就職先である企業の活動、需要と供給について学び、市場の失敗を是正する政府の役割について考える。 開講するテーマは「国際経済論」、「産業経済学」、「入門経済学」など。	
	経済学B	この科目では自分の人生と経済との関わりを意識する目を養うとともに、一般常識としての経済学の用語や考え方を身につける。たとえば、マクロ経済学の基本として、GDP、株価、金利が動く仕組みを理解し、経済政策と景気の間を考察する。また、ミクロ経済学の基本として、消費者である自分の行動、バイト先や就職先である企業の活動、需要と供給について学び、市場の失敗を是正する政府の役割について考える。 開講するテーマは「国際経済論」、「産業経済学」、「入門経済学」など。 上記『経済学A』を修得後、『経済学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	

授 業 科 目 の 概 要

(文学部歴史文化学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学 共通科目	心理学A	私たちは、日々、周囲の環境から得られる情報を用いて、他者や出来事や自分自身に関し、さまざまな推論・判断を行っている。このような社会的認知過程の仕組みについて、自己について、対人関係について、さらには「心の健康」について、心理学の多様な分野で進められている最新の研究に基づいて考え、具体的事例と理論的背景を結びつけながら、人の心の不思議さやおもしろさについて理解する。 開講するテーマは「こころの健康」、「自分を知る・他人を知る」、「心理学概論」、「心理学入門」、「人と人のかかわり」など。	
	心理学B	私たちは、日々、周囲の環境から得られる情報を用いて、他者や出来事や自分自身に関し、さまざまな推論・判断を行っている。このような社会的認知過程の仕組みについて、自己について、対人関係について、さらには「心の健康」について、心理学の多様な分野で進められている最新の研究に基づいて考え、具体的事例と理論的背景を結びつけながら、人の心の不思議さやおもしろさについて理解する。 開講するテーマは「こころの健康」、「自分を知る・他人を知る」、「心理学概論」、「心理学入門」、「人と人のかかわり」など。 上記『心理学A』を修得後、『心理学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	
	教育学A	ドイツの哲学者カントは、「ヒトは、教育によってのみ人となる」といった。また、教育論の代表的な古典の一つである『エミール』の中でフランスの哲学者ルソーは、「人は、生まれたときから学び始める」と述べている。このように、教育は、学校だけではなく、人間にとって本質的な、しかも日常的に行われている営為である。この科目では、さまざまな定義や考え方のある教育について、「人間にとって教育とは何か」という、根本的な視点から考察する。 開講するテーマは「ボランティア活動」、「人間と教育」、「社会と教育」など。	
	教育学B	ドイツの哲学者カントは、「ヒトは、教育によってのみ人となる」といった。また、教育論の代表的な古典の一つである『エミール』の中でフランスの哲学者ルソーは、「人は、生まれたときから学び始める」と述べている。このように、教育は、学校だけではなく、人間にとって本質的な、しかも日常的に行われている営為である。この科目では、さまざまな定義や考え方のある教育について、「人間にとって教育とは何か」という、根本的な視点から考察する。 開講するテーマは「ボランティア活動」、「人間と教育」、「社会と教育」など。 上記『教育学A』を修得後、『教育学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	
	民俗学A	民俗学は、風俗、習慣、伝説、民話など、民間で伝承されてきた衣・食・住や労働にかかわるさまざまな道具（民具）や、伝承資料をとおして、私たちの文化の諸相、歴史的変化、他の文化との違いなどを明らかにする学問である。この科目では、そのような民俗学のあらましを基礎教養として修得する。また、具体的なテーマとして、日本における「家族」、「婚姻」、「イエ」、現代の伝承の例としての「うわさ話」などを取り上げて考える。 開講するテーマは「民俗学A」、「民俗学B」など。	
	民俗学B	民俗学は、風俗、習慣、伝説、民話など、民間で伝承されてきた衣・食・住や労働にかかわるさまざまな道具（民具）や、伝承資料をとおして、私たちの文化の諸相、歴史的変化、他の文化との違いなどを明らかにする学問である。この科目では、そのような民俗学のあらましを基礎教養として修得する。また、具体的なテーマとして、日本における「家族」、「婚姻」、「イエ」、現代の伝承の例としての「うわさ話」などを取り上げて考える。 開講するテーマは「民俗学A」、「民俗学B」など。 上記『民俗学A』を修得後、『民俗学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	

基本科目
B系
社会と生活（社会系）

授 業 科 目 の 概 要

(文学部歴史文化学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
社会と生活 (社会系) 基本科目 B系	文化人類学A	文化人類学を特徴づけるフィールドワークの事例を用いながら、我々の「あたりまえ」が、どこの地域（日本の各地域や異文化）においても共通するものなのか再考する。ものごとを多面的に捉える視点を養うことが、この科目の目的である。また、現代日本における信仰のあり方を、身近に生起する諸現象（葬送儀礼等）や行事（祭礼等）から捉え、現代社会を再考する。特に、コミュニティやネットワーク、ジェンダー、逸脱、力関係等の側面から、「伝統」のありかたを多面的に捉えていく。 開講するテーマは「文化人類学概論A」、「文化人類学概論B」など。	
	文化人類学B	文化人類学を特徴づけるフィールドワークの事例を用いながら、我々の「あたりまえ」が、どこの地域（日本の各地域や異文化）においても共通するものなのか再考する。ものごとを多面的に捉える視点を養うことが、この科目の目的である。また、現代日本における信仰のあり方を、身近に生起する諸現象（葬送儀礼等）や行事（祭礼等）から捉え、現代社会を再考する。特に、コミュニティやネットワーク、ジェンダー、逸脱、力関係等の側面から、「伝統」のありかたを多面的に捉えていく。 開講するテーマは「文化人類学概論A」、「文化人類学概論B」など。 上記『文化人類学A』を修得後、『文化人類学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	
全学共通科目	数学A	人類は、古代より数に興味をもってきた。物の個数を数えたり、物を足し合わせたり、物を分割したりすることを通じて、数が発見され研究されてきた。人類は長い年月をかけ、数を理解してきたが、私たちは高校までの短期間で数学を学んでしまう。この科目では、高校までに学んできた数学の一部をじっくり掘り下げてみることによって、歴史としての数学を再発見する。また、多くの学問の基礎をなす微分積分学を、文系の学生のために初歩から解説する。 開講するテーマは「人類の歴史としての数学・再発見」、「文系のための微分積分入門」など。	
	数学B	人類は、古代より数に興味をもってきた。物の個数を数えたり、物を足し合わせたり、物を分割したりすることを通じて、数が発見され研究されてきた。人類は長い年月をかけ、数を理解してきたが、私たちは高校までの短期間で数学を学んでしまう。この科目では、高校までに学んできた数学の一部をじっくり掘り下げてみることによって、歴史としての数学を再発見する。また、多くの学問の基礎をなす微分積分学を、文系の学生のために初歩から解説する。 開講するテーマは「人類の歴史としての数学・再発見」、「文系のための微分積分入門」など。 上記『数学A』を修得後、『数学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	
	地学A	この科目では、宇宙の進化の中で太陽系や地球ができる過程、海の形成・大陸の形成・生命の誕生など、現在にいたる46億年の地球の歴史を概観する。また、気象観測の方法や南極観測隊の観測などについて説明する。さらに、地球環境をグローバルな目で観察し、人類もまた大きな地球環境の一部であるという視点から地球環境の変動について理解し、異常気象、自然災害、地球温暖化、放射能汚染などを考える道具を提供する。 開講するテーマは「気候と気象」、「地球環境科学」、「地球惑星科学」、「南極の科学」など。	
	地学B	この科目では、宇宙の進化の中で太陽系や地球ができる過程、海の形成・大陸の形成・生命の誕生など、現在にいたる46億年の地球の歴史を概観する。また、気象観測の方法や南極観測隊の観測などについて説明する。さらに、地球環境をグローバルな目で観察し、人類もまた大きな地球環境の一部であるという視点から地球環境の変動について理解し、異常気象、自然災害、地球温暖化、放射能汚染などを考える道具を提供する。 開講するテーマは「気候と気象」、「地球環境科学」、「地球惑星科学」、「南極の科学」など。 上記『地学A』を修得後、『地学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	

授 業 科 目 の 概 要

(文学部歴史文化学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 基本科目 C系 自然と環境（自然系）	生物学A	生物は「生きる」ための巧みな仕組みをもち、他の生物や周囲の環境とのさまざまな関係を築いている。この科目では、人間を含むすべての生物がもっている生命を維持する仕組み、生命をつないでいく仕組みを理解し、生きるとはどのようなことか、生命活動とはどのようなものか、要するに生命とは何かについて考える。また、生物の進化、遺伝子の進化について考える。 開講するテーマは「生命の科学」、「生物と環境の理論と実際」など。	
	生物学B	生物は「生きる」ための巧みな仕組みをもち、他の生物や周囲の環境とのさまざまな関係を築いている。この科目では、人間を含むすべての生物がもっている生命を維持する仕組み、生命をつないでいく仕組みを理解し、生きるとはどのようなことか、生命活動とはどのようなものか、要するに生命とは何かについて考える。また、生物の進化、遺伝子の進化について考える。 開講するテーマは「生命の科学」、「生物と環境の理論と実際」など。 上記『生物学A』を修得後、『生物学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	
	生態学A	多様な生物と環境の相互作用によって成り立っているのが生態系である。この系内をさまざまな物質が移動することによって生態系は維持されている。生態系が存在することによって自然界が保たれていると考えることができる。この科目では、生態系の仕組み、そこで活動する生物のさまざまな姿、生物と環境との関わり、生物間の相互作用などを理解し、その関係性が崩れた場合に生態系はどのように変化することになるかを学び、人と生態系の関係のあり方について考察する。 開講するテーマは「生態学入門」、「物質循環」など。	
	生態学B	多様な生物と環境の相互作用によって成り立っているのが生態系である。この系内をさまざまな物質が移動することによって生態系は維持されている。生態系が存在することによって自然界が保たれていると考えることができる。この科目では、生態系の仕組み、そこで活動する生物のさまざまな姿、生物と環境との関わり、生物間の相互作用などを理解し、その関係性が崩れた場合に生態系はどのように変化することになるかを学び、人と生態系の関係のあり方について考察する。 開講するテーマは「生態学入門」、「物質循環」など。 上記『生態学A』を修得後、『生態学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	
	現代科学A	人間が大量のエネルギーを消費することによって発生するさまざまな問題（資源枯渇や環境問題）、健康と食の問題、生活習慣病と食の問題など、現代社会において大きな問題になっている事柄について、科学的な知見に基づいて具体的に考えていく。 開講するテーマは「栄養と生体機能」、「エネルギーの科学」、「環境と資源」など。	
	現代科学B	人間が大量のエネルギーを消費することによって発生するさまざまな問題（資源枯渇や環境問題）、健康と食の問題、生活習慣病と食の問題など、現代社会において大きな問題になっている事柄について、科学的な知見に基づいて具体的に考えていく。 開講するテーマは「栄養と生体機能」、「エネルギーの科学」、「環境と資源」など。 上記『現代科学A』を修得後、『現代科学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	

授 業 科 目 の 概 要

(文学部歴史文化学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学 共通科目	基本科目 C系 自然と環境 (自然系)	情報科学A	コンピュータの誕生をきっかけに、私たちの社会はいくつかのパラダイムシフトを経て、大きな変化を遂げてきた。パソコンの登場からIT産業の劇的な構造転換、インターネット革命など、産業革命以上ともいえるこの変革は、これからの世界を大きく変えるものである。この科目では、プログラミング言語について、コンピュータがもたらすさまざまな社会的影響や問題点について、コンピュータが提起する哲学的な問題について考える。 開講するテーマは「言語・機械・知識」、「コンピュータと人間社会」、「プログラミング講義」、「情報の倫理」など。
	情報科学B	コンピュータの誕生をきっかけに、私たちの社会はいくつかのパラダイムシフトを経て、大きな変化を遂げてきた。パソコンの登場からIT産業の劇的な構造転換、インターネット革命など、産業革命以上ともいえるこの変革は、これからの世界を大きく変えるものである。この科目では、プログラミング言語について、コンピュータがもたらすさまざまな社会的影響や問題点について、コンピュータが提起する哲学的な問題について考える。 開講するテーマは「言語・機械・知識」、「コンピュータと人間社会」、「プログラミング講義」、「情報の倫理」など。 上記『情報科学A』を修得後、『情報科学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	
	自然科学A	古代から現代の科学的宇宙観にいたるまで、人間がその時代の中で宇宙・地球をどのように理解しようとしてきたかをたどる。時代と共に変わる宇宙観の変遷を明らかにすることによって、科学とはどのようなものであるのかということについても論じていく。 開講するテーマは「自然科学史A」、「自然科学史B」など。	
	自然科学B	古代から現代の科学的宇宙観にいたるまで、人間がその時代の中で宇宙・地球をどのように理解しようとしてきたかをたどる。時代と共に変わる宇宙観の変遷を明らかにすることによって、科学とはどのようなものであるのかということについても論じていく。 開講するテーマは「自然科学史A」、「自然科学史B」など。 上記『自然科学A』を修得後、『自然科学A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	
	基本科目 D系 健康とスポーツ (保健体育系)	総合体育A	健全で有意義な学生生活を送るための基本となる健康管理について、その基礎的な知識と実践能力の修得を目標とする。健康に関する講義は、「栄養素と摂取バランス」、「スポーツ障害と外傷」、「青年期の性とSTD」をテーマに前期3回行う。実技種目は初回授業時に、5～6種目の中から、希望するものを選択する。5月上旬に「踏み台昇降運動、反復横とび、立位体前屈、垂直跳び、握力」の5種目による体力診断テストを行う。
	総合体育B	実技種目は原則として、総合体育Aで履修した授業を継続する。健康に関する講義は、「人間の健康と運動」、「トレーニングの基礎理論」、「心とからだ」をテーマに後期3回行う。12月初旬に前期と同じ内容の体力診断テストを行い、一年間の実技授業における体力面での成果を確認する。	
	健康スポーツ科学A	この科目では、健康とスポーツをめぐるさまざまな問題、「一般市民の救急法」、「スポーツマネジメント」、「ライフスタイルと健康」、「心身の健康と食」、「心と体の健康科学」などをテーマに講義する。	
	健康スポーツ科学B	この科目では、健康とスポーツをめぐるさまざまな問題、「一般市民の救急法」、「スポーツマネジメント」、「ライフスタイルと健康」、「心身の健康と食」、「心と体の健康科学」などをテーマに講義する。 上記『健康スポーツ科学A』を修得後、『健康スポーツ科学A』で選ばなかったテーマを選んで、履修する。	

授 業 科 目 の 概 要

(文学部歴史文化学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 基本科目 D系 健康とスポーツ (保健体育系)	体育実技A	バレーボール、サッカー、テニス、バスケットボール、バドミントン、水泳などから1種目を選び、その競技のルール、マナー、特徴を学び、基本的技術を修得する。身体を動かすことをとおして心身の健康をはかると同時に、コミュニケーション能力を高めることを狙うが、さらに、生涯にわたってスポーツを継続して行う態度を養成し、それによって自分や家族の健康の維持増進に貢献できるような予防医学的姿勢を確立することも目標とする。	
	体育実技B	バレーボール、サッカー、テニス、バスケットボール、バドミントン、水泳などから1種目を選び、その競技のルール、マナー、特徴を学び、基本的技術を修得する。身体を動かすことをとおして心身の健康をはかると同時に、コミュニケーション能力を高めることを狙うが、さらに、生涯にわたってスポーツを継続して行う態度を養成し、それによって自分や家族の健康の維持増進に貢献できるような予防医学的姿勢を確立することも目標とする。 上記『体育実技A』を修得後、『体育実技A』で選択しなかった種目を選んで、履修する。	
	野外実習A	数日間の合宿によってスキーやスクーバーダイビングを集中的に実習する科目である。それぞれのスポーツのルール、マナー、特徴を学び、各受講者のレベルに合った技術を修得する。合宿をとおして友人と接し、絆を深め、学生生活を一層充実させることを狙うが、生涯にわたって健康と体力の保持増進に役立てることができるような技術と習慣の獲得も目標とする。 開講する科目は「スキー」、「スクーバーダイビング」など。	
	野外実習B	数日間の合宿によってスキーやスクーバーダイビングを集中的に実習する科目である。それぞれのスポーツのルール、マナー、特徴を学び、各受講者のレベルに合った技術を修得する。合宿をとおして友人と接し、絆を深め、学生生活を一層充実させることを狙うが、生涯にわたって健康と体力の保持増進に役立てることができるような技術と習慣の獲得も目標とする。 開講する科目は「スキー」、「スクーバーダイビング」など。 上記『野外実習A』を修得後、『野外実習A』で選択しなかった種目を選んで、履修する。	

授 業 科 目 の 概 要

(文学部歴史文化学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学共通科目 課題(テーマ)科目	第1群	地域・国家・民族の考察A	<p>沖縄について、日本文化に影響を与えた中国文化について、日本の各時代の地域(村落と都市)について、オランダと日本の関係について、明治維新における国家の形成についてなど、担当教員のそれぞれの研究分野から材をとった授業によって、地域の問題、国家の問題、民族の問題、あるいはそれらの相互関係について考えるための道具立てや方法を修得する。 開講するテーマは「沖縄の歴史と文化」、「タイの言語文化」、「中国地域文化論」、「日蘭交渉史」、「日本の歴史地理」、「明治維新と国家形成」など。</p>	
	地域・国家・民族の考察B	<p>沖縄について、日本文化に影響を与えた中国文化について、日本の各時代の地域(村落と都市)について、オランダと日本の関係について、明治維新における国家の形成についてなど、担当教員のそれぞれの研究分野から材をとった授業によって、地域の問題、国家の問題、民族の問題、あるいはそれらの相互関係について考えるための道具立てや方法を修得する。 開講するテーマは「沖縄の歴史と文化」、「タイの言語文化」、「中国地域文化論」、「日蘭交渉史」、「日本の歴史地理」、「明治維新と国家形成」など。 上記『地域・国家・民族の考察A』を修得後、『地域・国家・民族の考察A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。</p>		
	第2群	女性・子ども・老人への視点A	<p>日本の子どもの歴史、19世紀イギリスのジェンダー、日本の女性史、街中での子供観察など、担当教員のそれぞれの研究分野から材をとった授業によって、今もって成人男性中心の社会に生きているとも言える私たちが見落としがちな視点、すなわち女性の視点、子どもの視点、老人の視点に気づくことで、女性・子ども・老人への視点を獲得し、社会のさまざまな問題がそれまでとは異なって見えてくることを学ぶ。 開講するテーマは「『フルハウス』に見る子ども心」、「ジェンダー史」、「チャイルドウォッチングで知る子ども心」、「日本こども史」など。</p>	
	女性・子ども・老人への視点B	<p>日本の子どもの歴史、19世紀イギリスのジェンダー、日本の女性史、街中での子供観察など、担当教員のそれぞれの研究分野から材をとった授業によって、今もって成人男性中心の社会に生きているとも言える私たちが見落としがちな視点、すなわち女性の視点、子どもの視点、老人の視点に気づくことで、女性・子ども・老人への視点を獲得し、社会のさまざまな問題がそれまでとは異なって見えてくることを学ぶ。 開講するテーマは「『フルハウス』に見る子ども心」、「ジェンダー史」、「チャイルドウォッチングで知る子ども心」、「日本こども史」など。 上記『女性・子ども・老人への視点A』を修得後、『女性・子ども・老人への視点A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。</p>		
	第3群	人権・民主主義・平和を考えるA	<p>本講義は、平和学の入門講座として、日本が関わる戦争・暴力の具体的な問題について、多角的な分析を行いつつ、平和の創造への考察を深める。まず「核問題からの平和学」というテーマで、とりわけ原爆・核兵器を含む核問題と向き合ってきた人類社会の歩みを跡づけながら、被爆70年後の現状と課題を多面的に考察していく。つぎに「原発問題からの平和学」というテーマで、とりわけ原子力発電・放射能被曝を含む核問題と向き合ってきた人類社会の歩みを跡づけながら、福島原発事故後の現状と課題を多面的に考察していく。 開講するテーマは「平和学A」、「平和学B」など。</p>	
	人権・民主主義・平和を考えるB	<p>本講義は、平和学の入門講座として、日本が関わる戦争・暴力の具体的な問題について、多角的な分析を行いつつ、平和の創造への考察を深める。まず「核問題からの平和学」というテーマで、とりわけ原爆・核兵器を含む核問題と向き合ってきた人類社会の歩みを跡づけながら、被爆70年後の現状と課題を多面的に考察していく。つぎに「原発問題からの平和学」というテーマで、とりわけ原子力発電・放射能被曝を含む核問題と向き合ってきた人類社会の歩みを跡づけながら、福島原発事故後の現状と課題を多面的に考察していく。 開講するテーマは「平和学A」、「平和学B」など。 上記『人権・民主主義・平和を考えるA』を修得後、『人権・民主主義・平和を考えるA』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。</p>		

授 業 科 目 の 概 要

(文学部歴史文化学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学共通科目 課題(テーマ)科目	第4群	現代社会の諸問題A	<p>「〈個人の自由・権利〉と〈共同体秩序の維持〉のどちらを優先するか」という対立軸によってグローバリゼーション、ナショナリズム、宗教紛争などの政治的諸問題を考えたり、「〈理性と社会進歩を導きの糸とする啓蒙思想〉か〈啓蒙の一面性や弊害を指摘し伝統への回帰を説く保守的反啓蒙思想〉か」という対立軸で戦後日本社会から現在のオタク文化や自閉化した社会までを考えたり、気候変動から歴史の動きを考えたり、生協活動から現代社会の諸相を見たりするなど、現代社会の諸問題を考える新しい視座を学ぶ。</p> <p>開講するテーマは「環境政策と環境行政」、「気候と変動論から考える日本史」、「生協社会論」、「現代日本経済」、「秩序と公共性の思想」など。</p>	
		現代社会の諸問題B	<p>「〈個人の自由・権利〉と〈共同体秩序の維持〉のどちらを優先するか」という対立軸によってグローバリゼーション、ナショナリズム、宗教紛争などの政治的諸問題を考えたり、「〈理性と社会進歩を導きの糸とする啓蒙思想〉か〈啓蒙の一面性や弊害を指摘し伝統への回帰を説く保守的反啓蒙思想〉か」という対立軸で戦後日本社会から現在のオタク文化や自閉化した社会までを考えたり、気候変動から歴史の動きを考えたり、生協活動から現代社会の諸相を見たりするなど、現代社会の諸問題を考える新しい視座を学ぶ。</p> <p>開講するテーマは「環境政策と環境行政」、「気候と変動論から考える日本史」、「生協社会論」、「現代日本経済」、「秩序と公共性の思想」など。</p> <p>上記『現代社会の諸問題A』を修得後、『現代社会の諸問題A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。</p>	
	第5群	異文化・世界にふれるA	<p>アメリカ現代文化における思春期の表象について、現代日本文化における「少女像」の変遷について、ヨーロッパの建築文化について、イギリスの階級文化について、日本の西洋化について、異文化としての子どもについてなど、担当教員のそれぞれの研究分野から材をとった授業によって、異文化および異世界を理解することの出来る能力を養う。</p> <p>開講するテーマは「海外インターンシップ準備講座」、「解釈学」、「現代文化における思春期の表象」、「西洋文化史」、「中国少数民族」、「東方キリスト教の世界」、「文学と社会」、「文化と環境」、「歴史都市」など。</p>	
		異文化・世界にふれるB	<p>アメリカ現代文化における思春期の表象について、現代日本文化における「少女像」の変遷について、ヨーロッパの建築文化について、イギリスの階級文化について、日本の西洋化について、異文化としての子どもについてなど、担当教員のそれぞれの研究分野から材をとった授業によって、異文化および異世界を理解することの出来る能力を養う。</p> <p>開講するテーマは「海外インターンシップ準備講座」、「解釈学」、「現代文化における思春期の表象」、「西洋文化史」、「中国少数民族」、「東方キリスト教の世界」、「文学と社会」、「文化と環境」、「歴史都市」など。</p> <p>上記『異文化・世界にふれるA』を修得後、『異文化・世界にふれるA』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(文学部歴史文化学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 課題(テーマ)科目	第6群	自己・人間をみつめるA	この科目は、自分を見つけること、ひいては人間を見つけることを学生に促すような、さまざまな仕掛けのある授業である。「愛」や「ことば」をテーマに、異分野の複数教員がパネラーとなって問題提起をして学生によるディスカッションを行い、そのなかで級友や自分の意外な側面を知る。「将棋」や「囲碁」を媒介にして級友や教員や自分の隠れた性格を知る。さまざまな文章を書き、それについてみんなのまえて講評を受けることによって自分を知る。論語を読んで、自分を見つけることを学ぶ。開講するテーマは「《愛》について」、「現代の大学」、「ことばと人間」、「大学生のための文章表現入門」、「文章の書き方」、「ボランティア」、「論語」、「囲碁と将棋」、「農林漁業と人間関係」など。
	自己・人間をみつめるB	この科目は、自分を見つけること、ひいては人間を見つけることを学生に促すような、さまざまな仕掛けのある授業である。「愛」や「ことば」をテーマに、異分野の複数教員がパネラーとなって問題提起をして学生によるディスカッションを行い、そのなかで級友や自分の意外な側面を知る。「将棋」や「囲碁」を媒介にして級友や教員や自分の隠れた性格を知る。さまざまな文章を書き、それについてみんなのまえて講評を受けることによって自分を知る。論語を読んで、自分を見つけることを学ぶ。開講するテーマは「《愛》について」、「現代の大学」、「ことばと人間」、「大学生のための文章表現入門」、「文章の書き方」、「ボランティア」、「論語」、「囲碁と将棋」、「農林漁業と人間関係」など。上記『自己・人間をみつめるA』を修得後、『自己・人間をみつめるA』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	
	第7群	キャリアデザインA	大学は学生にとって社会への移行を直前に控えた最終の学校教育である。本講義は学校から社会へ移行していく学生が主体的に自らのキャリアを形成していくことができるよう、現代社会における労働や雇用問題等を取り上げながら、複数の視点から自らの考えを分類、整理し発言する力や自己アイデンティティの形成、他者との相互関係のなかでの学びのありようなどキャリア形成のための基礎的な能力や態度の育成を目指す。
	キャリアデザインB	産業構造や雇用形態、個々人のライフコースの変容により将来を予測することが非常に困難になりつつある現代において主体的にキャリアを形成していくことは非常に重要である。本講義では、現代社会において求められている能力や多様化するライフコース、企業や産業の動向などを学ぶと同時に自らの経験や考え方を整理することにより主体的な将来展望の構築とそのための行動を促す。	
	第8群	全学共通特殊講義A	野外自然観察の方法全般について基礎的な知識と技能を身につけること、あるいは報告書をまとめる能力を身につけること、それがこの科目の目的である。生物(植物・動物)、地学(地形・地質)など、自然科学の複数分野を材料にして、実際に野外に出てフィールドワークを行ったり、実験室でまとめたり、レポートをもとにディスカッションを行ったりする。開講するテーマは「自然観察フィールドワーク」、「科学する」など。
	全学共通特殊講義B	野外自然観察の方法全般について基礎的な知識と技能を身につけること、あるいは報告書をまとめる能力を身につけること、それがこの科目の目的である。生物(植物・動物)、地学(地形・地質)など、自然科学の複数分野を材料にして、実際に野外に出てフィールドワークを行ったり、実験室でまとめたり、レポートをもとにディスカッションを行ったりする。開講するテーマは「自然観察フィールドワーク」、「科学する」など。上記『全学共通特殊講義A』を修得後、『全学共通特殊講義A』で選択しなかったテーマを選んで、履修する。	
	教職課程専門科目	日本国憲法	わが国の憲法を理解するための基礎知識として、欧米で生まれた近代憲法の法思想的背景を理解することが重要である。この知識を基礎として、国民権主義などの基本原理、三権分立に基づく統治機構、そして憲法の保障する人権という観点から分類・整理して説明をする。それぞれの項目について通説的意義を説明するが、人権裁判の現状を検討したり憲法改正を考察できるように、母法といえるアメリカや諸外国における理解との相違を比較検討し、また新しい問題の現状などについてもできるだけ言及する。

授 業 科 目 の 概 要			
(文学部歴史文化学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎教育科目 選択必修科目	基礎英語A	英語の語彙力が弱く、文の要素や構成の仕方が理解できていないために、英文の意味を理解し損ねたり、英語表現を組み立てられなかったりする学生を対象として、「実際に理解したり表現したりするのに役立つ」という視点から英語の基礎を習得・補強することを目標とする。英語の基本的な語彙や文法を初歩的なレベルから分かりやすく解説し、できるだけ多くの学習教材を計画的にこなす集中的な訓練を行うことによって、基礎的な英語力を養成することを目指す。	
	基礎英語B	「基礎英語A」の授業目標を踏襲し、基礎的な英語力の定着をはかるための多様な訓練を行う。すなわち、英語の語彙力が弱く、文の要素や構成の仕方が理解できていないために英語に苦手意識を感じている学生を対象として、英語の基本的な語彙や文法を初歩的なレベルから分かりやすく解説し、できるだけ多くの学習教材をこなす集中的な訓練を積み重ねることによって、基礎的な英語力を養成し、今後の英語学習への意欲を喚起することを目指す。	
	英語リーディングA	英語の発音や英文を読むための文法を確認すると共に、パラグラフごとに要旨を捉える力を養成するための多様な基礎訓練を行うことにより、英語の読解力を高めることを目標とする。具体的には、ストーリー展開を楽しめるようないくつかの短い物語を用いて、登場人物の役割読みを含む英文の音読、基本的な単語・熟語・会話表現などの習得、英文を読む時の問題解決型の文法の解説と復習、パラグラフごとに要旨を捉えて自分の言葉でまとめる練習などを行う。	
	英語リーディングB	「英語リーディングA」で培った英語の読解力をさらに強化することを目標として、多様な基礎訓練を行う。「英語リーディングA」に引き続き、ストーリー展開を楽しめるような物語の登場人物の役割読みを含む英文の音読、基本的な単語・熟語・会話表現などの習得、英文を読む時の問題解決型の文法の解説と復習、パラグラフごとに要旨を捉えて自分の言葉でまとめる練習などを行う。さらに、ストーリー展開を追いながらあらすじを英語で表現する練習なども行う。	
	口語英語A	英会話の基礎技能を身につけるための多様な訓練を行うことによって、リスニング力・スピーキング力を強化することを目標とする。具体的には、語彙力を身につける練習（例：英文雑誌などを利用する）、身の回りのことを英語で表現する練習（例：英文日記などを利用する）、リスニング力をつける練習（例：朗読CDなどの音声教材を利用する）、自分の意見を英語で発表する練習などを組み合わせて、総合的に会話能力を養成する。また、補足として、基本的な文法の確認や異文化理解に役立つような解説も行う。	
	口語英語B	「口語英語A」で培った英語の会話能力をさらに強化することを目標として、リスニング力・スピーキング力の向上のための多様な訓練を行う。「口語英語A」に引き続き、語彙力を身につける練習、身の回りのことを英語で表現する練習、リスニング力をつける練習、自分の意見を英語で発表する練習などを組み合わせて、総合的に英会話能力の向上をはかる。また、補足として、基本的な文法の確認や異文化理解に役立つような解説も行う。	
	総合英語A	英語を学ぶ上で大切な4技能（スピーキング力・リスニング力・ライティング力・リーディング力）のうち2つ以上の技能を組み合わせて学習し、バランスのとれた英語力を養成することを目標とする。どの技能に焦点を当てるかは担当教員の裁量による。例えば、英文を読み、その内容について英語で議論する練習（リーディング力とスピーキング力の養成）、音声教材を聞き取り、その要約を英語で書く練習（リスニング力とライティング力の養成）などを行う。	
	総合英語B	「総合英語A」の学習方法を踏襲して、総合的な英語力をさらに強化することを目標とする。すなわち、英語の4技能（スピーキング力・リスニング力・ライティング力・リーディング力）のうち、担当教員の裁量によって2つ以上の技能を任意に組み合わせて学習する。例えば、英文を読み、その内容について英語で議論する練習（リーディング力とスピーキング力の養成）、音声教材を聞き取り、その要約を英語で書く練習（リスニング力とライティング力の養成）などを行う。	

授 業 科 目 の 概 要

(文学部歴史文化学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基礎 教育 科目	選 択 必 修 科 目	時事英語A	歴史・文化・政治・経済・社会・スポーツなどのさまざまな分野に関する新聞・雑誌・ウェブサイトの記事やテレビニュースを教材として用い、現代社会の動向を追いながら、英語の運用能力を養成することを目標とする。必要に応じて基礎的な文法や特殊な語法を確認しながら、英文記事や英語放送のニュースの概要を的確に把握する力、様々な分野に関する語彙力、ニュースの内容を踏まえて自分の意見を英語で発信する力を養成するための訓練を行う。	
		時事英語B	「時事英語A」の学習方法を踏襲して、より高い英語の運用能力を身につけることを目標とする。すなわち、歴史・文化などのさまざまな分野に関する新聞・雑誌・ウェブサイトの記事やテレビニュースを教材として用い、現代社会の動向を理解しながら、英文記事や英語放送のニュースの概要あるいは自分が特に求める情報を的確かつ迅速に把握する力、様々なトピックに関する語彙力、多様なトピックについて英語で議論する力を養うための訓練を行う。	
		英米文化表現A	音楽や映画などの視聴覚教材を用いて、英語圏の諸外国の多様な文化や慣習に触れ、楽しみながら、英語の運用能力を養うことを目標とする。英語の歌詞・映画のセリフ・映像のナレーションなどの聞き取り練習、それらの音声資料を文字に起こしたスクリプトを読む練習、教材の中に出てくる表現を用いた英会話や英作文の練習、重要語句の確認などを通じて、総合的な英語力の向上を目指す。音声（文字）資料を理解するための文法や語法の確認も行う。	
		英米文化表現B	「英米文化表現A」の学習方法を踏襲して、より高い英語の運用能力を身につけることを目標とする。すなわち、音楽や映画などの視聴覚教材を用いて、英語圏の諸外国の多様な文化や慣習に対する理解を深めると共に、英語の歌詞・映画のセリフ・映像のナレーションなどの聞き取り練習、それらの音声資料のスクリプトを読む練習、教材の中に出てくる表現を用いた英会話や英作文の練習、重要語句の確認などを行い、総合的な英語力の増強を目指す。	
		英米作品講読A	現代英語で書かれた英米を中心とする文学作品を素材に基礎的な英語力の定着をはかることを目標とする。大学生として知っておくべき基本的な単語、慣用句、語法を本文の具体的な場面を通じて習得しつつ読解力の向上をはかり、英語で文学作品を読む楽しさを知り、英語学習のモチベーションを高めることを目指す。多様なヒューマン・スキルを描き出す文学作品によって効果的な読解のポイントへの理解を深め、文学作品の鑑賞力の伸展をはかり、英語力の再構築を行う。	
		英米作品講読B	「英米作品講読A」の授業目標を踏襲し、現代英語で書かれた英米を中心とする文学作品を素材に英語力の増強をはかる。文学作品は字句通りの意味のレベルと背後の言外の意味のレベルが重なり合った複合的なメッセージを持つ。例えば、比喩表現がそうした機能の特徴的に示すが、その具体例が多様に描かれた文学テクストを通じて、コミュニケーションの基本をなす読解力を養成しつつ、英語の運用能力の拡充をはかり、あわせて大学生にふさわしい知性と感性を培うことを目指す。	
		現代英語応用A	これまでに習得した英語の知識を実際の使用の場面で応用できる力を養うことを目標とする。特に現代社会の第一線で英語の母語話者が実際に使用している英語を検証し、それを理解できるようにするための様々な訓練を行う。具体的には、海外の英語ニュース番組を聞いて理解する練習を通じて、英語のニュースを理解するのに必要な語彙力（英字新聞などを使用して増強する）、母語話者向けのニュース英語のスピードに対応するリスニング力、ニュースの背景知識などを身につけることを目指す。	
		現代英語応用B	「現代英語応用A」の授業目標を踏襲し、英語の母語話者向けのテレビニュースなどを聞いて、理解・要約する訓練を行う。「現代英語応用A」に引き続き、英語のニュースを理解するために必要な語彙力（英字新聞などを使用して増強する）、母語話者向けのニュース英語のスピードに対応するリスニング力、ニュースの背景知識などを身につける練習をする。発展的な内容として、イギリス・アメリカだけでなく、オーストラリア・アジアなどの英語ニュースも扱う。	

授 業 科 目 の 概 要

(文学部歴史文化学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基礎 教育 科目	選択 必修 科目	上級英語A	1年次・2年次に身につけた基礎的な英語力を基盤として、特定の分野に特化した教材を用いながら、その内容に応じた英語力を強化することを目標とする。その一例が英文法を英語で理解することを目指した授業である。当該授業では、英語を外国語として学ぶ学習者のために平易な英語で書かれた英文法のテキストを読みながら、英語の基本的な構造と表現法を今までとは違った観点から体系的に整理しながら理解し、実際に使えるようにするための練習を行う。	
		上級英語B	「上級英語A」の学習方法を踏襲して、より高い英語力を養成することを目標とする。すなわち、1年次・2年次に身につけた基礎的な英語力を基盤として、特定の分野に特化した教材を用い、その内容に応じた英語力を強化することを目指す。例えば、英語を外国語として学ぶ学習者のために平易な英語で書かれた英文法のテキストを読みながら、英語の基本的な構造と表現法を体系的に理解し、実際に使えるようにするための練習などをさらに積み重ねていく。	
		フランス語基礎1A	「フランス語基礎1A」は、「フランス語基礎2A」とあわせて履修する初心者のための授業である。日常的に使用される表現やそれに関わる言葉のしくみ、文化事情を勉強し、半年後には実用フランス語技能検定試験5級程度の力を身につけることを目標とする。簡単な表現に触れながら、綴りと音の規則、名詞と冠詞、現在形の動詞の活用、簡単な疑問文・否定文の作り方、形容詞の変化等を学んでいくが、まずはフランス語に親しむことが目標である。	
		フランス語基礎1B	前期の「フランス語基礎1A」を引き継ぎ、また同時にセット履修する「フランス語基礎2B」と連携しながら授業を進める。初級文法をひと通り学ぶ。冠詞の仲間、命令文、動詞の種類と文型、目的語の代名詞、複合過去形の動詞の活用等を勉強し、フランス語でわかること、言えることを増やす。授業の到達目標は、(1) 日常表現を聞き取り、話すことができる、(2) ことばのしくみがわかり、応用できる、(3) 実用フランス語検定5級以上の実力を確保することである。	
		フランス語基礎2A	「フランス語基礎2A」は、「フランス語基礎1A」とあわせて履修する初心者のための授業である。日常的に使用される表現やそれに関わる言葉のしくみ、文化事情を勉強し、半年後には実用フランス語技能検定試験5級程度の力を身につけることを目標とする。簡単な表現に触れながら、綴りと音の規則、名詞と冠詞、現在形の動詞の活用、かんたんな疑問文・否定文の作り方、形容詞の変化等を学んでいくが、まずはフランス語に親しむことが目標である。	
		フランス語基礎2B	前期の「フランス語基礎2A」を引き継ぎ、また同時にセット履修する「フランス語基礎1B」と連携しながら授業を進める。初級文法をひと通り学ぶ。冠詞の仲間、命令文、動詞の種類と文型、目的語の代名詞、複合過去形の動詞の活用等を勉強し、フランス語でわかること、言えることを増やす。授業の到達目標は、(1) 日常表現を聞き取り、話すことができる、(2) ことばのしくみがわかり、応用できる、(3) 実用フランス語検定5級以上の実力を確保することである。	
		フランス語初級1A	教室内で学んだフランス語が実際の場で使えるという実感を味わいながら、文法知識の習得のみに偏らない初級フランス語の力をつけることを目標に授業を進める。聞く、話す、読む、書くという言語行為の全てをまんべんなく繰り返し行えるような授業を実施する。具体的には、毎回必ず声に出してフランス語を発音し、理解した文法事項が日常生活や旅行などで活かせるように簡単な文章を組み立てたり頻度の高い言い回しを覚えていくように努める。実用フランス語技能検定試験5級合格程度、あるいはそれ以上の力がつくことを目指す。	
		フランス語初級1B	前期の「フランス語初級1A」を引き継ぎ、実際の場で使えることが実感できるようなフランス語の授業を行う。実用フランス語技能検定試験5級以上の力がつくことを目指して学習する。授業の到達目標は、(1) フランス以外でフランス語を使用する国々についての知識を習得すること、(2) 教科書に書かれているフランス語を基にして自分自身で文章を組み立てること、(3) フランス語の音読がさらに流暢になることである。	

授 業 科 目 の 概 要

(文学部歴史文化学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基礎 教育 科目	選択 必修 科目	フランス語初級 2 A	教室内で学んだフランス語が実際の場で使えるのだという実感を味わいながら、文法知識の習得のみに偏らない初級フランス語の力をつけることを目標に授業を進める。聞く、話す、読む、書くという言語行為の全てをまんべんなく繰り返し行えるような授業を行う。具体的には、毎回必ず声に出してフランス語を発音し、理解した文法事項が日常生活や旅行などで生かせるように簡単な文章を組み立てたり頻度の高い言い回しを覚えてゆくように努める。実用フランス語技能検定試験 5 級合格程度、あるいはそれ以上の力がつくことを目指す。	
		フランス語初級 2 B	前期の「フランス語初級 2 A」を引き継ぎ、実際の場で使えることが実感できるようなフランス語の授業を行う。実用フランス語技能検定試験 5 級以上の力がつくことを目指して学習する。授業の到達目標は、(1) フランス以外でフランス語を使用する国々についての知識を習得すること、(2) 教科書に書かれているフランス語を基にして自分自身で文章を組み立てること、(3) フランス語の音読がさらに流暢になることである。	
		フランス語中級 1 A	聞く、話す、読む、書くというフランス語の 4 技能を総合的に養う授業である。フランス文化のさまざまな面に触れながら、これまでに学習した文法の確認、日常生活での会話、長文の理解などを行う。授業の到達目標は、(1) フランス語を正確に音読できるようになること、(2) 簡単な日常会話ができるようになること、(3) 辞書を参照すれば、だいたいのフランス語の文章を理解できるようになることである。授業は演習形式で進められ、練習問題、仏文和訳、フランス語による質疑応答などが作業の中心になる。	
		フランス語中級 1 B	前期の「フランス語中級 1 A」を引き継ぎ、聞く、話す、読む、書くというフランス語の 4 技能を総合的に養う授業を行う。フランス文化のさまざまな面に触れながら、これまでに学習した文法の確認、日常生活での会話、長文の理解などを行う。授業の到達目標は、(1) フランス語を正確に音読できるようになること、(2) 簡単な日常会話ができるようになること、(3) 辞書を参照すれば、だいたいのフランス語の文章を理解できるようになることである。授業は演習形式で進められ、練習問題、仏文和訳、フランス語による質疑応答などが作業の中心になる。	
		フランス語中級 2 A	フランス語の基礎を実際に使えるフランス語にするために、フランス語のさまざまな文章にふれたり、聞き取りや、会話の練習を行う。6 月には、実用フランス語技能検定試験 4 級取得レベルを目指す。フランス語文法を使いこなし、簡単な日常会話ができ、聞き取れるフランス語力を身につける。演習形式や、会話練習などでは、グループ、ペア練習を行う。また、聞き取り強化のため、音楽を聴いたり、映像を見て、聞き取り練習を行う。	
		フランス語中級 2 B	前期の「フランス語中級 2 A」を引き継ぎ、フランス語のさまざまな文章にふれたり、聞き取りや、会話の練習を行う。11 月には実用フランス語技能検定試験 3 級取得レベルを目指す。フランス語文法を使いこなし、簡単な日常会話ができ、聞き取れるフランス語力を身につける。演習形式や、会話練習などでは、グループ、ペア練習を行う。また、聞き取り強化のため、音楽を聴いたり、映像を見て、聞き取り練習を行う。	
		フランス語中級 3 A	1 年次に週 2 回あるいは 3 回の授業でフランス語を学んだ人のための 2 年目の科目。1 年次に学んだ基本的な表現の応用で、聞く、話す、読む、書く練習をしながら、実践の自信をつける。実用フランス語技能検定試験 4 級対策も行う。自分の背景や身の回りの状況、直接的な必要性のある領域の事柄に関して、フランス語で情報を理解し、交換もできる力を身につける。	
		フランス語中級 3 B	前期の「フランス語中級 3 A」を引き継ぎ、1 年次に週 2 回あるいは 3 回の授業でフランス語を学んだ人のために開講する 2 年目のクラスである。1 年次に学んだ基本的な表現の応用で、聞く、話す、読む、書く練習をしながら、実践の自信をつける。実用フランス語技能検定試験 4 級対策も行う。自分の背景や身の回りの状況、直接的な必要性のある領域の事柄に関して、フランス語で情報を理解し、交換もできる力を身につける。	
		フランス語中級 4 A	これまでに学んできたフランス語の基礎的な知識やコミュニケーション能力を活用しながら、日常的によく使われる表現とそれにまつわる文の仕組み、文化事情をじっくり学ぶことを目指す。聞く、話す、読む、書く能力が総合的に身につくように、授業を進め、実用フランス語技能検定試験に対応できる総合的なフランス語力を養う。「フランス語中級 3 A」や「フランス語中級 3 B」とあわせて履修することが望ましい。	

授 業 科 目 の 概 要

(文学部歴史文化学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基礎 教育 科目	選択 必修 科目	フランス語中級 4 B	前期の「フランス語中級 4 A」を引き継ぎ、これまでに学んできたフランス語の基礎的な知識やコミュニケーション能力を活用しながら、日常的によく使われる表現とそれに関わる文の仕組み、文化事情をじっくり学ぶことを目指す。聞く、話す、読む、書く能力が総合的に身につくように授業を進め、実用フランス語技能検定試験に対応できる総合的な指導を行う。「フランス語中級 3 A」や「フランス語中級 3 B」とあわせて履修することが望ましい。	
		フランス語上級 1 A	聞く、話す、読む、書くというフランス語の4技能の能力を高め、実際に使える「力」を身につけるため、フランス語のさまざまな文章にふれたり、聞き取りや、会話の練習を行う。6月には、履修者全員が実用フランス語技能検定試験3級合格を目指す。さらに次年度には2級合格につながるように指導する。授業は対話主体の演習形式で行う。実用フランス語技能検定試験の過去問題や、フランスの現代社会がわかる文章のヒヤリングなどにも取り組む。	隔年
		フランス語上級 1 B	前期の「フランス語上級 1 A」を引き継ぎ、聞く、話す、読む、書くというフランス語の4技能の能力を高め、実際に使える「力」を身につけるため、フランス語のさまざまな文章にふれたり、聞き取りや、会話の練習を行う。11月には、履修者全員が実用フランス語技能検定試験準2級取得を目指す。さらに次年度には2級合格につながるように指導する。授業は対話主体の演習形式で行う。実用フランス語技能検定試験の過去問題や、フランスの現代社会がわかる文章のヒヤリングなどにも取り組む。	隔年
		フランス語上級 2 A	聞く、話す、読む、書くというフランス語の4技能の能力を高め、実際に使える「力」を身につけるため、フランス語のさまざまな文章にふれたり、聞き取りや、会話の練習を行う。6月には、履修者全員が実用フランス語技能検定試験3級合格を目指す。さらに次年度には2級合格につながるように指導する。授業は対話主体の演習形式で行う。実用フランス語技能検定試験の過去問題や、フランスの現代社会がわかる文章のヒヤリングなどにも取り組む。	隔年
		フランス語上級 2 B	前期の「フランス語上級 2 A」を引き継ぎ、聞く、話す、読む、書くというフランス語の4技能の能力を高め、実際に使える「力」を身につけるため、フランス語のさまざまな文章にふれたり、聞き取りや、会話の練習を行う。11月には、履修者全員が実用フランス語技能検定試験準2級取得を目指す。さらに次年度には2級合格につながるように指導する。授業は対話主体の演習形式で行う。実用フランス語技能検定試験の過去問題や、フランスの現代社会がわかる文章のヒヤリングなどにも取り組む。	隔年
		ドイツ語基礎 1 A	「ドイツ語基礎 1 A」は、「ドイツ語基礎 2 A」とあわせて履修する初心者のための授業である。初めて学ぶドイツ語の文法と会話、読解を綿密かつ丁寧に学ぶことを目標としている。A B Cから現在形までの文法事項に範囲をしばり、丹念に繰り返しながら授業を進める。最終的には、ドイツ語技能検定試験5級合格程度の語学力を目指す。また、環境問題から食べ物にいたるまで、さまざまなドイツの文化・政治・風俗などを紹介し、語学だけでなく、ドイツを総合的に理解することにも努める。	
		ドイツ語基礎 1 B	前期の「ドイツ語基礎 1 A」を引き継ぎ、また同時にセット履修する「ドイツ語基礎 2 B」と連携しながら授業を進める。A B Cから現在形までの文法事項に範囲をしばり、丹念に繰り返しながら学んでいく。12月初旬に実施されるドイツ語技能検定試験5級または4級受検を視野に入れ、それに合格する程度のドイツ語能力の育成を目指す。また、環境問題から食べ物にいたるまで、さまざまなドイツの文化・政治・風俗などを紹介し、語学だけでなく、ドイツを総合的に理解することにも努める。	
		ドイツ語基礎 2 A	「ドイツ語基礎 2 A」は、「ドイツ語基礎 1 A」とあわせて履修する初心者のための授業である。二つの「基礎」の授業で、主に文法や読解を修め、さらに実践的なコミュニケーションを学ぶ。各授業でバランスを取りながら、ドイツ語の文法・読解・会話をより綿密かつ丁寧に学ぶことを目標とする。授業の到達目標は、ドイツ語技能検定試験5級合格程度の語学力を目指す。また、環境問題から食べ物にいたるまで、さまざまなドイツの文化・政治・風俗などを紹介し、語学だけでなく、ドイツを総合的に理解することにも努める。	
		ドイツ語基礎 2 B	前期の「ドイツ語基礎 2 A」を引き継ぎ、また同時にセット履修する「ドイツ語基礎 1 B」と連携しながら授業を進める。A B Cから現在形までの文法事項に範囲をしばり、丹念に繰り返しながら学んでいく。12月初旬に実施されるドイツ語技能検定試験5級または4級受検を視野に入れ、それに合格する程度のドイツ語能力の育成を目指す。また、環境問題から食べ物にいたるまで、さまざまなドイツの文化・政治・風俗などを紹介し、語学だけでなく、ドイツを総合的に理解することにも努める。	

授 業 科 目 の 概 要

(文学部歴史文化学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基礎 教育 科目	選択 必修 科目	ドイツ語初級 1 A	ドイツ語の基礎としての初級文法・表現を学ぶ。まずドイツ語の音とリズムに馴れることから始まり、ドイツ語の基本的文構造を理解し、習得することを目指す。授業の到達目標は、(1)ドイツ語が音読できること、(2)ドイツ語の基本文法を習得し運用できるようになること、(3)平易なドイツ語の文章を読解できるようになることである。また、ドイツ語を学ぶと同時に、各章ごとにテーマとして取り上げられたドイツ語圏の社会・文化についても、説明・補足し、理解を深めていく。	
		ドイツ語初級 1 B	前期の「ドイツ語初級 1 A」を引き継ぎ、ドイツ語の基礎としての初級文法・表現を学ぶ。まずドイツ語の音とリズムに馴れることから始まり、ドイツ語の基本的文構造を理解し、習得することを目指す。授業の到達目標は、(1)ドイツ語が音読できること、(2)ドイツ語の基本文法を習得し運用できるようになること、(3)平易なドイツ語の文章を読解できるようになることである。また、ドイツ語を学ぶと同時に、各章ごとにテーマとして取り上げられたドイツ語圏の社会・文化についても、説明・補足し、理解を深めていく。	
		ドイツ語初級 2 A	週 1 回の授業でドイツ語の初級文法を学び、無理なく平易な文法や会話を着実に身につけていく。授業の到達目標は、(1)正しくドイツ語を発音すること、(2)ドイツ語の初級文法の前半をマスターすること、(3)挨拶や自己紹介など、ドイツ語で簡単な会話ができることである。なお、文法事項の説明は授業形式で行うが、練習問題は演習形式で行う。また、ペアでの会話練習も行い、必要に応じて CD や DVD を使用する。	
		ドイツ語初級 2 B	前期「ドイツ語初級 2 A」を引き継ぎ、週 1 回の授業でドイツ語の初級文法を学び、無理なく平易な文法や会話を着実に身につけていく。授業の到達目標は、(1)正しくドイツ語を発音すること、(2)ドイツ語の初級文法の前半をマスターすること、(3)挨拶や自己紹介など、ドイツ語で簡単な会話ができることである。なお、文法事項の説明は授業形式で行うが、練習問題は演習形式で行う。また、ペアでの会話練習も行い、必要に応じて CD や DVD を使用する。	
		ドイツ語中級 1 A	ドイツ語の聴く、話す、読む力をバランス良く学び、ドイツ語を自力で運用する能力を養う。1 年時に習ったドイツ語を、復習しながら、さらに接続法までの文法事項を学ぶ。その際には、CD や DVD を活用し、そこで話されるドイツ語を聴き、自分でも話すことができるように心がける。その作業を通じて、正確な発音を身につけ、ドイツ語のやさしい文章を読み書きできるようにする。最終的な到達目標は、ドイツ圏に旅行しても困らない程度のドイツ語力を得ることである。	
		ドイツ語中級 1 B	前期「ドイツ語中級 1 A」を引き継ぎ、ドイツ語の聴く、話す、読む力をバランス良く学び、ドイツ語を自力で運用する能力を養う。1 年時に習ったドイツ語を、復習しながら、さらに接続法までの文法事項を学ぶ。文法を理解した後、ドイツのメルヘンや、音楽などのヨーロッパ文化に関するやさしい文章を読む。その際には、CD や DVD を活用し、そこで話されるドイツ語を聴き、自分でも話すことができるように心がける。その作業を通じて、正確な発音を身につけ、ドイツ語のやさしい文章を読み書きできるようにする。	
		ドイツ語中級 2 A	これまでに学習した文法事項を適宜復習しながら、接続法までの文法事項を身につけていく。また、文字的な知識のインプットだけに偏らないよう、発音、聞き取り、会話などの練習にも時間を割く。授業の到達目標は、(1)既に学んだ文法事項を振り返り、自分の到達度を確認するとともに、不足している部分を補う、(2)新たな文法事項を学び、語彙や表現の幅を広げる、(3)ドイツ語圏の文化や社会への興味・関心をさらに深めることである。授業ではペアまたはグループによる練習も行う予定である。	
		ドイツ語中級 2 B	前期「ドイツ語中級 2 A」を引き継ぎ、これまでに学習した文法事項を適宜復習しながら、接続法までの文法事項を身につけていく。また、文字的な知識のインプットだけに偏らないよう、発音、聞き取り、会話などの練習にも時間を割く。授業の到達目標は、(1)既に学んだ文法事項を振り返り、自分の到達度を確認するとともに、不足している部分を補うこと、(2)新たな文法事項を学び、ドイツ語の基本文法に関する学習の仕上げを行うこと、(3)ドイツ語検定などにも対応できる総合的なドイツ語力を養うこと、(4)ドイツ語圏の文化や社会への興味・関心をさらに深めることである。	

授 業 科 目 の 概 要

(文学部歴史文化学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基礎 教育 科目	選択 必修 科目	ドイツ語中級 3 A	実際に現地で使える表現を養う授業を行う。具体的には、(1) 日常的な様々なシチュエーション(レストラン・電車・ショッピング・招待・自己紹介など)で表現できるように、実際の場面を想定しながら練習をする、(2) E-MAIL、葉書、お祝いのメッセージなどを書く練習をする、(3) ドイツのビデオを見て、日独の文化の違いを取り上げ学ぶ。授業の到達目標は、実際に現地で使えるドイツ語を身につけることである。	
		ドイツ語中級 3 B	前期「ドイツ語中級 3 A」を引き継ぎ、実際に現地で使える表現を養う授業を行う。具体的には、(1) 日常的な様々なシチュエーション(レストラン・電車・ショッピング・招待・自己紹介など)で表現できるように、実際の場面を想定しながら練習をする、(2) E-MAIL、葉書、お祝いのメッセージなどを書く練習をする、(3) ドイツのビデオを見て、日独の文化の違いを取り上げ学ぶ。授業の到達目標は、実際に現地で使えるドイツ語を身につけることである。	
		ドイツ語中級 4 A	これまでに学習した文法事項を適宜復習しながら、新たな文法事項を身につけ、「使える力」として定着させる。授業の到達目標は、(1) 既に学んだ文法事項を振り返り、自分の到達度を確認するとともに、不足している部分を補う、(2) 新たな文法事項を学び、語彙や表現の幅を広げるとともに、これらを積極的に使う、(3) ドイツ語圏の文化や社会への興味・関心をさらに深めることである。また、DVDなどの映像資料を用い、ドイツ語圏の文化や社会に親しむ機会も設ける予定である。	
		ドイツ語中級 4 B	前期「ドイツ語中級 4 A」を引き継ぎ、これまでに学習した文法事項を適宜復習しながら、接続法までの文法事項を新たに身につけていく。また、文字的知識のインプットだけに偏らないよう、発音、聞き取り、会話などの練習にも時間を割きたい。授業の到達目標は、(1) 既に学んだ文法事項を振り返り、自分の到達度を確認するとともに、不足している部分を補う、(2) 新たな文法事項を学び、ドイツ語の基本文法に関する学習の仕上げを行う、(3) ドイツ語検定などにも対応できる総合的なドイツ語力を養う、(4) ドイツ語圏の文化や社会への興味・関心をさらに深めることである。	
		ドイツ語上級 1 A	ドイツ語初級～中級文法の復習をしながら、ドイツ語による表現能力とドイツ語読解能力の向上を目指す。コンピュータ教材を用いて、聞く力と発音の向上につとめ、さらに簡単なテキストを読む作業を行って、ドイツ語の総合的な運用能力を高める。簡単な記事の見出しと大意を把握する読解能力、および、実用的な構文を頭に入れ、自分の考えをある程度までドイツ語で話す力を養成することが目標である。また、インターネットのサイトを活用し、現代ドイツの諸情報を得るとともに、実用的なドイツ語に触れる機会を多く作る。	
		ドイツ語上級 1 B	前期の「ドイツ語上級 1 A」を引き継ぎ、ドイツ語初級～中級文法の復習をしながら、ドイツ語による表現能力とドイツ語読解能力の向上を目指す。コンピュータ教材を用いて、聞く力と発音の向上につとめ、さらに簡単なテキストを読む作業を行って、ドイツ語の総合的な運用能力を高める。簡単な記事の見出しと大意を把握する読解能力、および、実用的な構文を頭に入れ、自分の考えをある程度までドイツ語で話す力を養成することが目標である。	
		ドイツ語上級 2 A	総合的な口頭・聴解・作文の学習活動を通して、幅広いコミュニケーション能力を習得する。文法を復習して、さらに自分の意見がドイツ語で表現できるようになることを目指す。また、ドイツ語の語彙を増やし運用能力を上達させるために、聞き取り練習や課題の添削も行う。毎週、数人の学生にいくつかの単語を選んで、例文を作ってもらい、受講生は選んだ単語の複数形、過去分詞等を書き、例文と単語の翻訳もして、全部メールで担当教員に提出する。次回の授業の冒頭で、この宿題の結果を音読してもらい、教員が訂正、指導する。	
		ドイツ語上級 2 B	前期の「ドイツ語上級 2 A」を引き継ぎ、総合的な口頭・聴解・作文の学習活動を通して、幅広いコミュニケーション能力を習得する。文法を復習して、さらに自分の意見がドイツ語で表現できるようになることを目指す。また、ドイツ語の語彙を増やし運用能力を上達させるために、聞き取り練習や課題の添削も行う。毎週、数人の学生にいくつかの単語を選んで、例文を作ってもらい、受講生は選んだ単語の複数形、過去分詞等を書き、例文と単語の翻訳もして、全部メールで担当教員に提出する。次回の授業の冒頭で、この宿題の結果を音読してもらい、教員が訂正、指導する。	

授 業 科 目 の 概 要

(文学部歴史文化学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基礎 教育 科目	選択 必修 科目	中国語基礎 1 A	「中国語基礎 1 A」は、「中国語基礎 2 A」とあわせて履修する初心者のための授業である。はじめに中国語の発音を学ぶ。中国語は発音が良くないと上達は望めないため、授業中には大きな声で発音し、早いうちに発音を習得する。同時に中国語の文の組み立てを学ぶ。練習問題で本文や例文に出てきた単語を使って繰り返し練習し、簡単な会話ができ、文章が読めるようにすることを目指す。授業の到達目標は、中国語検定試験準 4 級に合格できるレベルに達することである。	
		中国語基礎 1 B	前期の「中国語基礎 1 A」を引き継ぎ、また同時にセット履修する「中国語基礎 2 B」と連携しながら授業を進める。「中国語基礎 1 A」で学んだ発音が正しくできているかをチェックしながら授業を進める。さらにいろいろな文の組み立てを学び、それを多くの練習問題を通して身につける。その際、各課の課文を暗記することにより、表現の幅が広がる。「復習」の課で文章体にも慣れ、学んだことを定着させることに努める。「中国語基礎 1 A」に引き続き、発音練習をしながらテキスト本文を覚える。また、文法は項目ごとについている練習問題を行い、その場で理解する。	
		中国語基礎 2 A	「中国語基礎 2 A」は、「中国語基礎 1 A」とあわせて履修する初心者のための授業である。まず中国語の基本的な特質を理解し、その発音を習得する。その後、中国語の基礎を文法と文型を中心に学び、中国語の表現の構造を理解することに努める。最後にこれらを通して中国語を読み、書き、聞き、話すための基礎力を養成し、同時に様々な領域で日本と深い関係をもつ中国の社会と文化に対する関心と理解を深める。「中国語基礎 1 A」と同一の教科書を使用し、一続きのものとして授業を行なう。	
		中国語基礎 2 B	前期の「中国語基礎 2 A」を引き継ぎ、また同時にセット履修する「中国語基礎 1 B」と連携しながら授業を進める。まず中国語の基本的な特質を理解し、その発音を習得する。その後、中国語の基礎を文法と文型を中心に学び、中国語の表現の構造を理解することに努める。最後にこれらを通して中国語を読み、書き、聞き、話すための基礎力を養成し、同時に様々な領域で日本と深い関係をもつ中国の社会と文化に対する関心と理解を深める。「中国語基礎 1 B」と同一の教科書を使用し、一続きのものとして授業を行なう。	
		中国語初級 1 A	ピンイン（中国式ローマ字）の音読練習から始め、単語を覚えた後、文を正確に読めるように指導する。また同時に、練習問題も解きながら、実践・応用力も身につけていく。授業の到達目標は、(1) ピンインを正確に発音すること、(2) 発音を聞いて、ピンインが書け、意味がわかることである。上記 2 つをクリアするためには、中国語の音に関心を持つことが大事である。日本語に近い音もあれば、全くない音もあるので、根気強く練習する。	
		中国語初級 1 B	前期の「中国語初級 1 A」を引き継ぎ、ピンイン（中国式ローマ字）の音読練習から始め、単語を覚えた後、文を正確に読めるように指導する。また同時に、練習問題も解きながら、実践・応用力も身につけていく。授業の到達目標は、(1) ピンインを正確に発音すること、(2) 発音を聞いて、ピンインが書け、意味がわかることである。上記 2 つをクリアするためには、中国語の音に関心を持つことが大事である。日本語に近い音もあれば、全くない音もあるので、根気強く練習する。	
		中国語初級 2 A	中国語初級の語学力を基礎にして、中国語能力を測るバロメーターである「中国語検定試験」に合格できる実力を養成する。主に前期は準 4 級を目標とする。授業の到達目標は、(1) 中国語検定試験準 4 級レベルの文法事項や発音（ピンイン）を正確に把握し、活用できること、(2) 中国語検定試験準 4 級レベルの語彙を身につけることである。授業は、最初に授業形式で文法事項などの説明を行うが、暗記に結びつく会話練習なども行う。その後、その文法事項に基づいた検定試験の過去問題（模擬テスト）を解いてもらい、教師が採点したのち解説を行う。	
		中国語初級 2 B	前期の「中国語初級 2 A」を引き継ぎ、中国語初級の語学力を基礎にして、中国語能力を測るバロメーターである「中国語検定試験」に合格できる実力を養成する。レベルは 4 級を目標とする。授業の到達目標は、(1) 中国語検定試験準 4 級レベルの文法事項や発音（ピンイン）を正確に把握し、活用できること、(2) 中国語検定試験準 4 級レベルの語彙を身につけることである。授業は、最初に授業形式で文法事項などの説明を行うが、暗記に結びつく会話練習なども行う。その後、その文法事項に基づいた検定試験の過去問題（模擬テスト）を解いてもらい、教師が採点したのち解説を行う。	

授 業 科 目 の 概 要

(文学部歴史文化学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 教育 科目	中国語中級 1 A	中国語の基礎学習を一通り終え、さらに語彙、文法、作文、読解などの面に力をいれ、リスニングを含める総合的な力を高めたいという学習者のための授業である。授業の中で、身近で多彩な話題をテーマに、実用的な表現を数多く盛り込んでいる。中国語の資格試験にも対応できるように配慮して、中国語検定試験4級ないし3級合格を目指す。授業の到達目標は、(1) 会話力、作文力、読解力などの強化によって、「聞く」「話す」「読む」「書く」「訳す」の力を養うこと、(2)、(1)のために豊富な単語量とさまざまな文型・文法を学習することである。	
	中国語中級 1 B	前期の「中国語中級 1 A」を引き継ぎ、中国語の基礎学習を一通り終え、さらに語彙、文法、作文、読解などの面に力をいれ、リスニングを含める総合的な力を高めたいという学習者のための授業である。授業の中で、身近で多彩な話題をテーマに、実用的な表現を数多く盛り込んでいる。中国語の資格試験にも対応できるように配慮して、中国語検定試験4級ないし3級合格を目指す。授業の到達目標は、(1) 会話力、作文力、読解力などの強化によって、「聞く」「話す」「読む」「書く」「訳す」の力を養うこと、(2)、(1)のために豊富な単語量とさまざまな文型・文法を学習することである。	
	中国語中級 2 A	この授業は中国語検定試験4級合格を目指す授業である。4級は第2外国語の1年次の学習終了程度のレベルであり、試験はリスニングと筆記のどちらも100点満点である(合格ラインは60点)。授業では毎回リスニングの鍛錬をする。筆記は教師が各文法事項をしっかりと説明し、練習問題で確認する。検定試験で問われ易い事項を重点的に指導する。リスニングは過去問を毎回繰り返し聞き、確実に聞き取れるように鍛錬する。筆記は先ず教師が教科書に沿って文法の説明をし、その後練習問題や過去問を解く。	
	中国語中級 2 B	前期の「中国語中級 2 A」を引き継ぎ、中国語検定試験4級合格を目指す。検定を控えた後期は、練習問題や過去問など、より実践的な内容となるだろう。4級は第2外国語の1年次の学習終了程度のレベルであり、試験はリスニングと筆記のどちらも100点満点である(合格ラインは60点)。授業では毎回リスニングの鍛錬をする。筆記は教師が各文法事項をしっかりと説明し、練習問題で確認する。検定試験で問われ易い事項を重点的に指導する。リスニングは過去問を毎回繰り返し聞き、確実に聞き取れるように鍛錬する。	
	中国語中級 3 A	中国人教員が担当する中級レベルの中国語の授業である。一年次に学んだ基礎をもとに、更なる上達を目指す。ネイティブの中国語に慣れるために、可能な限り中国語で授業を行う。中国語の読解力、聞く力、話す力などの更なる向上を目指す。授業ではテキストを読んでもらったり、質疑応答を行ったりし、生徒と教師とのやりとりを重視する。授業の冒頭で、前回の授業の小テストを行う。予習・復習して授業に臨むこと。また、テキスト付属のCDを最大限に活用する。	
	中国語中級 3 B	前期の「中国語中級 3 A」を引き継ぎ、中国人教員が担当する中級レベルの中国語の授業である。一年次に学んだ基礎をもとに、更なる上達を目指す。ネイティブの中国語に慣れるために、可能な限り中国語で授業を行う。中国語の読解力、聞く力、話す力などの更なる向上を目指す。授業ではテキストを読んでもらったり、質疑応答を行ったりし、生徒と教師とのやりとりを重視する。授業の冒頭で、前回の授業の小テストを行う。予習・復習して授業に臨むこと。また、テキスト付属のCDを最大限に活用する。	
	中国語中級 4 A	前年度までに培った入門・初級レベルを基に、「発音・ヒアリング・講読」を中級レベルの語学力に引き上げる。到達目標は中級(中国語検定試験3級)レベルである。先ず、音源からピンインに起こし、手交するピンイン文によって間違いを自身で矯正する。これを漢字になおし、日本語に訳す。訳の間違いは語法が分かっていないことから起こる。易しく語法を教授する。余った時間で中級レベルの問題(発音を聞いてピンイン・漢字で起こし、板書の上、穴埋めや語順などの設問)に解答していく。	
	中国語中級 4 B	前期の「中国語中級 4 A」を引き継ぐクラスである。前年度培った入門・初級レベルを基に、「発音・ヒアリング・講読」を中級レベルの語学力に引き上げる。到達目標は中級(中国語検定試験3級)レベルである。先ず、音源からピンインに起こし、手交するピンイン文によって間違いを自身で矯正する。これを漢字になおし、日本語に訳す。訳の間違いは語法が分かっていないことから起こる。易しく語法を教授する。余った時間で中級レベルの問題(発音を聞いてピンイン・漢字で起こし、板書の上、穴埋めや語順などの設問)に解答していく。	

授 業 科 目 の 概 要

(文学部歴史文化学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基礎 教育 科目	選択 必修 科目	中国語上級 1 A	中国語の総合力をアップさせることを目標とする。一課ごとに「ポイントと本文」、「トレーニングと会話」の二授業ずつに分けて行う予定である。こうすることで単に内容を理解するだけでなく、読むスピードのアップを意識し、自然な会話を身につけていくことを目指す。教員からの一方通行の授業ではなく、受講生の授業への積極的な参加が期待されている。	隔年
		中国語上級 1 B	前期の「中国語上級 1 A」を引き継ぎ、中国文化を深く知ると同時に、中国語の総合力を養っていく。中国語の「聞く、話す、読む、書く」の総合力をアップさせることを目標とする。一課ごとに「ポイントと本文」、「トレーニングと会話」の二授業ずつに分けて行う予定である。こうすることで単に内容を理解するだけでなく、読むスピードのアップを意識し、自然な会話を身につけていくことを目指す。教員からの一方通行の授業ではなく、受講生の授業への積極的な参加が期待されている。	隔年
		中国語上級 2 A	中国語の基礎学習を一通り終え、さらに語彙、文法などの面に力をいれ、リスニングの力を高めたいという学習者のための授業である。授業の中で、身近で多彩な話題をテーマに、実用的な表現を数多く盛り込んでいる。中国語の資格試験にも対応できるように配慮して、中国語検定試験 2 級合格を目指す。授業の到達目標は、(1) 聞く能力を強化することで、「話す」「読む」「訳す」などの力を養うこと、(2) 豊富な単語量とさまざまな文型・文法を学ぶことである。	隔年
		中国語上級 2 B	前期の「中国語上級 2 A」を引き継ぎ、さらに語彙、文法などの面に力をいれ、リスニングの力を高めたいという学習者のための授業である。授業の中で、身近で多彩な話題をテーマに、実用的な表現を数多く盛り込んでいる。中国語の資格試験にも対応できるように配慮して、中国語検定試験 2 級合格を目指す。授業の到達目標は、(1) 聞く能力を強化することで、「話す」「読む」「訳す」などの力を養うこと、(2) 豊富な単語量とさまざまな文型・文法を学ぶことである。	隔年
		韓国語基礎 1 A	「韓国語基礎 1 A」は、「韓国語基礎 2 A」とあわせて履修する初心者のための授業である。韓国語は日本語と文法的に非常に似ている。まず、ハングル文字と発音を学ぶ。正確な発音の習得を心がけたうえで基本文法や文型を学習する。文字と発音の学習ではハングル文字を正確に読み書きできるように練習する。韓国語の読み書きと基礎文法の習得を通じて、基本的な韓国語の理解と日常会話が可能になることを目標とする。	
		韓国語基礎 1 B	前期の「韓国語基礎 1 A」を引き継ぎ、また同時にセット履修する「韓国語基礎 2 B」と連携しながら授業を進める。「韓国語基礎 1 B」では、文法と会話を学ぶ。文法と会話の学習では基礎的な文法と日常会話の練習を通じて身につけていく。韓国語の読み書きと基礎文法の習得を通じて、基本的な韓国語の理解と日常会話が可能になることを目標とする。	
		韓国語基礎 2 A	「韓国語基礎 2 A」は、「韓国語基礎 1 A」とあわせて履修する初心者のための授業である。韓国語は日本語と文法的に非常に似ている。まず、ハングル文字と発音を学ぶ。正確な発音の習得を心がけたうえで基本文法や文型を学習する。文字と発音の学習ではハングル文字を正確に読み書きできるように練習する。韓国語の読み書きと基礎文法の習得を通じて、基本的な韓国語の理解と日常会話が可能になることを目標とする。	
		韓国語基礎 2 B	前期の「韓国語基礎 2 A」を引き継ぎ、また同時にセット履修する「韓国語基礎 1 B」と連携しながら授業を進める。「韓国語基礎 2 B」では、文法と会話を学ぶ。文法と会話の学習では基礎的な文法と日常会話の練習を通じて身につけていく。韓国語の読み書きと基礎文法の習得を通じて、基本的な韓国語の理解と日常会話が可能になることを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要

(文学部歴史文化学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基礎 教育 科目	選択 必修 科目	ロシア語基礎 1 A	「ロシア語基礎 1 A」は、「ロシア語基礎 2 A」とあわせて履修する初心者のための授業である。はじめてロシア語を学ぶ人がロシア語アルファベットに親しみ、発音の特性と規則を学び、基本単語を覚えながら初級文法の基礎を修め、短文の読解と日常の会話に最低必要な語学力を身につけられることを目指す。教科書と併せ、NHKのロシア語講座の教材とビデオ教材を利用して、現在のロシア社会に触れる機会を持たせる。授業の到達目標は、自分の意思をある程度ロシア語で表現できる能力の習得である。なお、授業では各課ごとに教科書に沿った解説を行った後、テキストの音読及び講師・受講生及び受講生間の会話を行う。	
		ロシア語基礎 1 B	前期の「ロシア語基礎 1 A」を引き継ぎ、また同時にセット履修する「ロシア語基礎 2 B」と連携しながら授業を進める。ロシア語の基本単語を覚えながら初級文法の基礎を修め、短文の読解と日常の会話に最低必要な語学力を身につけられることを目指す。授業の到達目標は、自分の意思をある程度ロシア語で表現できる能力の習得である。なお、授業では各課ごとに教科書に沿った解説を行った後、テキストの音読及び講師・受講生及び受講生間の会話を行う。	
		ロシア語基礎 2 A	「ロシア語基礎 2 A」は、「ロシア語基礎 1 A」とあわせて履修する初心者のための授業である。はじめてロシア語を学ぶ人がロシア語アルファベットに親しみ、発音の特性と規則を学び、基本単語を覚えながら初級文法の基礎を修め、短文の読解と日常の会話に最低必要な語学力を身につけられることを目指す。教科書と併せ、NHKのロシア語講座の教材とビデオ教材を利用して、現在のロシア社会に触れる機会を持たせる。到達目標は、自分の意思をある程度ロシア語で表現できる能力の習得である。	
		ロシア語基礎 2 B	前期の「ロシア語基礎 2 A」を引き継ぎ、また同時にセット履修する「ロシア語基礎 1 B」と連携しながら授業を進める。ロシア語の基本単語を覚えながら初級文法の基礎を修め、短文の読解と日常の会話に最低必要な語学力を身につけられることを目指す。授業の到達目標は、自分の意思をある程度ロシア語で表現できる能力の習得である。	
		イタリア語初級 A	イタリア語は日本人にとって比較的敷居の低い言語といえる。発音も日本語と似た音が多く、綴り字の読み方も基本はローマ字読みである。ただし、それなりにマスターすると、日本語はもとより、英語ともかなり異なる点が多々ある。そうした点に注意し、着実にこの言語を身につけることによって、英語だけでは見えてこない、世界へのはば広い視野を獲得する。授業はテキストと音源を用いた暗記練習が基本となる。学生同士の会話練習も含め、授業中に可能な限り覚えるよう努める。	
		イタリア語初級 B	前期の「イタリア語初級 A」を引き継ぎ、行われる授業である。イタリア語は日本人にとって比較的敷居の低い言語といえる。発音も日本語と似た音が多く、綴り字の読み方も基本はローマ字読みである。ただし、それなりにマスターすると、日本語はもとより、英語ともかなり異なる点が多々ある。そうした点に注意し、着実にこの言語を身につけることによって、英語だけでは見えてこない、世界へのはば広い視野を獲得する。授業はテキストと音源を用いた暗記練習が基本となる。学生同士の会話練習も含め、授業中に可能な限り覚えるよう努める。	
		スペイン語基礎 1 A	「スペイン語基礎 2 A」とあわせて履修する初心者のための授業である。スペイン語は、スペインだけでなく、メキシコやペルーなどのラテンアメリカ諸国を中心に世界で4億人以上の人々が使っている言語である。この授業は初学者を対象として、スペイン語の基礎力を総合的に身につけることを目的としている。そのために、基本文法の理解、語彙の強化、コミュニケーション技術の習得を柱として進めていく。また、スペイン語圏の音楽、食文化、スポーツ、習慣などについても授業の中で紹介し、言葉の背景である社会や文化についての理解も深めていく。	
		スペイン語基礎 1 B	前期の「スペイン語基礎 1 A」を引き継ぎ、また同時にセット履修する「スペイン語基礎 2 B」と連携しながら授業を進める。初学者を対象として、スペイン語の基礎力を総合的に身につけることを目的としている。そのために、基本文法の理解、語彙の強化、コミュニケーション技術の習得を柱として進めていく。また、スペイン語圏の音楽、食文化、スポーツ、習慣などについても授業の中で紹介し、言葉の背景である社会や文化についての理解も深めていく。	

授 業 科 目 の 概 要

(文学部歴史文化学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基礎 教育 科目	選択 必修 科目	スペイン語基礎 2 A	「スペイン語基礎 1 A」とあわせて履修する初心者のための授業である。スペイン語は、スペインだけでなく、メキシコやペルーなどのラテンアメリカ諸国を中心に世界で4億人以上の人々が使っている言語である。初学者を対象として、スペイン語の基礎力を総合的に身につけることを目的としている。そのために、基本文法の理解、語彙の強化、コミュニケーション技術の習得を柱として進めていく。また、スペイン語圏の音楽、食文化、スポーツ、習慣などについても授業の中で紹介し、言葉の背景である社会や文化についての理解も深めていく。	
		スペイン語基礎 2 B	前期の「スペイン語基礎 2 A」を引き継ぎ、また同時にセット履修する「スペイン語基礎 1 B」と連携しながら授業を進める。初学者を対象として、スペイン語の基礎力を総合的に身につけることを目的としている。そのために、基本文法の理解、語彙の強化、コミュニケーション技術の習得を柱として進めていく。また、スペイン語圏の音楽、食文化、スポーツ、習慣などについても授業の中で紹介し、言葉の背景である社会や文化についての理解も深めていく。	
		スペイン語中級 A	この授業は、基礎文法を土台とした会話能力の向上を目的としている。そのため、会話の相手の言葉を的確に理解する「聞く」力と、豊かな表現でこれに回答する「話す」力を養うことに重点を置く。具体的にはスポーツ、食べ物、旅行、音楽など身近なテーマを設定し、自分の考えを表現するだけでなく、会話の相手の発言を理解し、また様々な質問をして双方向の会話となるように練習する。授業ではペアあるいはグループによる会話の練習が中心となる。	
		スペイン語中級 B	前期の「スペイン語中級 A」を引き継ぎ、行われる授業である。この授業は、基礎文法を土台とした会話能力の向上を目的としている。そのため、会話の相手の言葉を的確に理解する「聞く」力と、豊かな表現でこれに回答する「話す」力を養うことに重点を置く。具体的にはスポーツ、食べ物、旅行、音楽など身近なテーマを設定し、自分の考えを表現するだけでなく、会話の相手の発言を理解し、また様々な質問をして双方向の会話となるように練習する。授業ではペアあるいはグループによる会話の練習が中心となる。	
		ポルトガル語初級 A	教養としてのポルトガル語を学ぶ。語学を“語楽”に思える、つまり発想の転換が出来るような授業を行う。ポルトガル語の“イロハ”に触れ、それを口頭で言い表せることを目指す。日常生活上、最低限度必要と考えられる会話表現をテーマに据えて授業を展開していく。また、堅苦しい形式ではなく語学サロンのような雰囲気のもと、気楽に楽しく授業に参加できるように努める。	
		ポルトガル語初級 B	前期の「ポルトガル語初級 A」を引き継ぎ、行われる授業である。教養としてのポルトガル語を学ぶ。語学を“語楽”に思える、つまり発想の転換が出来るような授業を行う。ポルトガル語の“イロハ”に触れ、それを口頭で言い表せることを目指す。日常生活上、最低限度必要と考えられる会話表現をテーマに据えて授業を展開して行く。また、堅苦しい形式ではなく語学サロンのような雰囲気のもと、気楽に楽しく授業に参加できるように努める。	
		海外研修英語	国際交流センター主催の留学派遣制度を利用し、本学英語圏の協定校であるベルビュー・カレッジ（アメリカ）、リーズ大学（イギリス）、モナッシュ大学（オーストラリア）等及びその他教授会で認定した留学先で取得した単位を本学の単位として振替、認定するための科目として置く。この科目は、留学を通して、早期に英語圏の文化とエネルギーを肌で感じ、現地の人たちと交流を深めることによりグローバルな視野を身につけられることを目標としている。	
		海外研修中国語	国際交流センター主催の留学派遣制度を利用し、本学中国語圏の協定校である北京外国語大学（中国）、上海師範大学（中国）、厦門大学（中国）、輔仁大学（台湾）、国立中山大学（台湾）等及びその他教授会で認定した留学先で取得した単位を本学の単位として振替、認定するための科目として置く。この科目は、留学を通して、早期に中国語圏の文化とエネルギーを肌で感じ、現地の人たちと交流を深めることによりグローバルな視野を身につけられることを目標としている。	

授 業 科 目 の 概 要

(文学部歴史文化学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 教育 科目	選択 科目	情報処理A	この授業では、Word文書やExcelワークシートを作成できるだけでなく、それらを正しく管理できるようになること、パソコンの持つ広いポテンシャル(可能性)を感じ取ることを目標とする。 1. USBメモリの使い方とファイル管理法 2. 電子メール添付ファイルの送り方 3. Wordを使ったレポート作成およびポスター作成(ネット情報も活用する) 4. Excelによるデータ解析(アンケート集計をする)
	情報処理B	この授業では、Word文書やExcelワークシート、メディアプレーヤーなど複数のソフトウェアを組み合わせることで1つのモノを作成できるようになること、音楽CDの作成を通して、著作権について正しく理解することを目標とする。 1. Excelを使ったより進んだデータ解析 2. レンタルしたCDから録音→オリジナルベストCDを作成 3. パワーポイントでCDラベルをデザイン 4. Wordの差し込み印刷機能を使って、年賀状作成 5. パワーポイントでのスライドショー作成とプレゼンテーション	
	情報処理C	この授業では、Webページ作成ソフトを使わず、基本的なWebページを作成できるようになること、HTMLやCSSについて解説してあるWebページや書籍などを参考にできる基本的な知識を身につけることを目標とする。 1. Webページ(いわゆるホームページ)を作成する方法を学ぶ 2. Webページの文書を構築するHTMLを理解する 3. WebページをデザインするCSS(スタイルシート)を学ぶ 4. 時間が許せば、スマホアプリへ応用する	
	情報処理D	この授業では、ExcelとVBAの関係をきちんと理解すること、プログラミングの作法で、自分がやりたいことを論理的に記述できるようになること、プログラムの持つ可能性を感じ取ることを目標とする。 WindowsパソコンとExcelのVBA(Visual Basic for Applications)を用い、コンピュータにさまざまなことをさせるプログラミングを行い、最終的には簡単なゲームを作り上げる。	

授 業 科 目 の 概 要			
(文学部歴史文化学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 教 育 科 目	必 修 科 目	<p>歴史文化学入門A</p> <p>同時に、学科の1年生全体を5クラスに分けて、クラスごとに新入生に対する初年次教育を行う。最初は、全体でのオリエンテーションで始めたあと、各クラス1名の担任がクラス形成や高校時代とは違う大学生としての細かい生活態度など、具体的な指導を行う。次に、専門教員5人がひとり一人、1つずつのクラスを回るオリジナル方式で、それぞれの観点から「歴史文化学とは何か」に関する授業を行って、最後はクラス担任が締める。この講義を通して、歴史文化学科の学生として充実したスタートを切ることを目標とする。</p> <p>（授業計画：共同1回およびオムニバス方式（10回）を含む全15回）</p> <p>（3 武藤 慎一・4 湯城 吉信・6 落合 義明・7 久住 真也・8 野瀬 元子／1回）（共同）</p> <p>5人の担任による、5クラス合同でのオリエンテーションを実施。</p> <p>（3 武藤慎一／2回） 「歴史文化学とは何か—東西文化（西洋史・西洋文化史）の観点から」</p> <p>（4 湯城吉信／2回） 「歴史文化学とは何か—東西文化（東洋史・東洋文化史）の観点から」</p> <p>（6 落合 義明／2回） 「歴史文化学とは何か—日本史（日本古代・中世史）の観点から」</p> <p>（7 久住 真也／2回） 「歴史文化学とは何か—日本史（日本近世・近代史）の観点から」</p> <p>（8 野瀬元子／2回） 「歴史文化学とは何か—観光歴史学の観点から」</p>	共同（一部）・オムニバス形式（一部）
		<p>歴史文化学入門B</p> <p>「歴史文化学入門A」の学習成果に接続する形で、同時に5クラスに分けて、クラスごとに初年次教育を行う。前半は、各クラス1名のクラス担任が担当で始めたあと、各コースの専門教員5人がひとり一人、毎回1つずつのクラスを回るオリジナル方式で授業を行って、コース選択に向けて、各コースの専門内容の紹介を行う。後半は、クラス担任が歴史文化学への入門教育を行い、最後は学科の1年生全体で、次年度のコース分けに向けての準備を行う。この講義を通して、各自が自分の興味関心に気づくことと、学問研究への導入を目標とする。</p> <p>（授業計画：オムニバス方式（5回）および共同1回を含む全15回）</p> <p>（3 武藤慎一／1回） 「歴史文化学とは何か—東西文化（西洋史・西洋文化史）の観点から」</p> <p>（4 湯城吉信／1回） 「歴史文化学とは何か—東西文化（東洋史・東洋文化史）の観点から」</p> <p>（6 落合 義明／1回） 「歴史文化学とは何か—日本史（日本古代・中世史）の観点から」</p> <p>（7 久住 真也／1回） 「歴史文化学とは何か—日本史（日本近世・近代史）の観点から」</p> <p>（8 野瀬元子／1回） 「歴史文化学とは何か—観光歴史学の観点から」</p> <p>（2 武藤 慎一・3 湯城 吉信・6 落合 義明・7 久住 真也・8 野瀬 元子／1回）（共同）</p> <p>5人の担任による、次年度（2年次）のコース分けについての説明を実施。</p>	オムニバス形式（一部）・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要 (文学部歴史文化学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	必修科目	基礎演習A	歴史文化学入門の学習成果を発展させる形で、各コースの5人の教員が担当する5つの文献のうち1つを選び、それを読解する作業を行うが、自分の所属するコースの文献を選ぶのが望ましい。それぞれの文献を専門分野とする教員の指導による少人数の演習の中で、自らの興味関心を発展させることを主眼として、さまざまな文献にも触れてみることで、歴史文化学への深い関わりを促していく。この演習を通して、講義形式による知識の吸収だけではなく、自ら文献資料を扱う姿勢を涵養することを目標とする。
		基礎演習B	基礎演習Aの学習成果に接続する形で、各コースの5人の教員が担当する5つの文献のうち1つを選び、それを読解する作業を行うが、基礎演習Aで自分の所属するコースの文献を選ばなかった場合は、必ずその中から選ぶ。それぞれの文献を専門分野とする教員の指導による少人数の演習の中で、さまざまな文献に触れてみることを主眼として、自らの興味関心も発展させることで、歴史文化学への幅広い関わりを促していく。この演習を通して、相異なる多様な文献資料を扱う姿勢を涵養することを目標とする。
		専門演習	基礎演習の学習成果を発展させる形で、各専門分野に分かれて、3つの専門コースの要となる、演習形式の授業を行う。各専門分野の研究の手ほどきをして、卒業研究作成に向けて予備的な訓練を行うが、その具体的な方法は専門内容により大きく異なる。ただ、教員による指導だけではなく、各学生の主体的な参加・発表はもとより、学生相互の質疑応答により、授業を進めていくことは共通している。この授業を通して、主体的な研究姿勢を醸成することを目標とする。
		卒業研究	専門演習の成果を発展させる形で、各テーマを専門とする教員が、4年間の歴史文化学修得の集大成となる卒業研究作成を指導すると共に、学生相互の研究発表の質疑応答により、卒業研究を改善していく。卒業研究とは何かの説明から始まって、論文執筆を始めとする卒業研究作成の仕方の説明、テーマ選定、研究計画書の作成、先行研究の読解、資料の収集、資料の分析、題目の決定、卒業研究の構成、中間発表、本文の執筆、注や文献表等の整備、研究結果の検証、プレゼンテーション等によって、各自の卒業研究を完成させることを目標とする。
専門教育科目	選択必修科目	専門基礎科目	
		日本史概説A	原始、古代ヤマト政権から織豊政権の時代までの通史を学習する。その際、高校時代の日本史授業の復習を兼ねるだけでなく、暗記学習とは異なる日本史の諸問題を考える方法を身につけることを目的とする。日本史全体の大きな流れを意識し、各時代の特徴や、元号や社会制度などの基本的な問題を学び、各時代の政治と社会、文化の関係も視野に入れる。本授業は2年次の「日本古代・中世史研究A・B」、「日本古代・中世史料講読A・B」につなげるものである。
		日本史概説B	徳川幕府の時代から現代までの通史を学習する。その際、高校時代の日本史授業の復習を兼ねるだけでなく、暗記学習とは異なる日本史の諸問題を考える方法を身につけることを目的とする。日本史全体の大きな流れを意識しつつ、とくに近世初頭の貿易振興政策から「鎖国」政策にいたる流れを理解し、さらに近現代の日本と周辺諸国、世界との関係について政治や文化の観点を中心に理解を深める。本授業は2年次の「日本近世・近代史研究A・B」、「日本近世・近代史料講読A・B」につなげるものである。
		西洋史概説A	西洋とは何かという問いから始めて、共和制、封建制、君主制、専制など統治制度や社会構造、文化や宗教の多様性と共通性に注目しながら、古代ギリシア・ローマから、中世カトリック圏、ビザンツ帝国、モスクワ大公国までを辿り、さらに近現代への転換を見通し、最後に答えを出していく。カトリック圏と正教圏を共に取り上げ、相互の特徴を明らかにする。この講義を通して、西洋諸国の政治的社会的、文化的相違や相互の影響だけではなく、近代世界を生みだし、その多様性と共通性を育てた土壌を把握させることを目標とする。
		西洋史概説B	近現代における西洋文明の影響力、近代を生み出した社会的規律化とその起源の問題から始めて、ルネサンス・宗教改革の時代から啓蒙主義・市民革命へと進む近代化、社会的規律化に始まる近代的諸価値のロシアなどへの拡大を辿る。さらに、近代の展開と変化の視点から、民主化やナショナリズムの成長、グローバル化、全体主義や社会主義国が提示した諸問題を追い、西洋とは何かという問いへの答えを確認していく。この講義を通して、近世から近代、現代への変化、近現代世界の共通性と多様性を把握させることを目標とする。
東洋史概説A	中国を中心とする東アジアの歴史を古代から唐宋期まで扱う。具体的には、夏殷周王朝、春秋戦国時代、秦による統一、漢代(前漢、後漢)、三国の分裂、南北朝時代、隋唐から五代十国、宋(北宋、南宋)までの時代を扱う。各王朝の興亡、各時代の特徴、文化の特徴を理解する。特に、異民族の影響や周辺国との関係に留意する。この講義を通して、東アジア諸国の共通性、相違、相互の影響や伝統を作り上げた土壌を把握させることを目標とする。		

授 業 科 目 の 概 要				
(文学部歴史文化学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	選択必修科目	専門基礎科目	東洋史概説B	中国を中心とする東アジアの歴史を明代から現代まで扱う。具体的には、明朝から、清朝を経て、中華民国、中華人民共和国までの歴史を扱う。各王朝の興亡、各王朝の特徴、文化の特徴を理解する。特に、異民族の影響や周辺国との関係に留意する。近代においては日本との関係は言うまでもなく、西洋との関係にも留意する。この講義を通して、東アジア諸国の近世から近現代への変化、近現代世界の共通性と多様性を把握させることを目標とする。
			宗教学概説A	「宗教」とは何か、という問いから始めて、世界の中の宗教に目を向け、現代日本文化の中の宗教的なものを省みることによって、その登場人物や宗教学の方法、宗教現象、宗教知、宗教の発見から発展段階、諸宗教の共通性、分類、身体性、日本の宗教史、という宗教の諸相をめぐり、最後に答えを出していく。この講義を通して、東西の主要な宗教が各場面で見せる姿を手がかりにして、諸宗教の独自性、宗教間の共通性を把握させることを目標とする。
			宗教学概説B	現代日本文化の中の宗教的表象に気づくところから始めて、現代の世界文化や地域文化との関わり、多宗教共生、個人と集団という宗教と社会との関係、死と生、情と感、善と悪、信と行、覚と意、という宗教の諸相をめぐり、世界の中の他なるものを探究していくことで、「宗教」とは何か、という問いへの答えを確認していく。この講義を通して、東西の主要な宗教が各場面で見せる姿を比較しながら、諸宗教の特徴、宗教間の関係性を把握させることを目標とする。
			西洋文化史概説A	古代・中世の西洋文化史を扱う。本講義では、古代ギリシア文化、古代ローマ文化、ビザンツ文化、中世西洋文化について概観する。特に、哲学とキリスト教との出会いと融合という観点から、西洋文化の深化過程を辿る。人間中心の哲学と神中心のキリスト教のぶつかり合いが西洋文化にどう影響したのか。この問題を考えることによって、一般に知られていない西洋文化の奥行きを知ることができる。この講義を通して、古代・中世の西洋文化史をめぐる理解を深めることを目標とする。
			西洋文化史概説B	近世以降の西洋文化史についての講義を行う。まずルネサンスと宗教改革の考察から始め、近世以降の西洋文化における人間理解が、神中心的なものから、人間中心的なものになっていったことを論じる。そして、そうした人間理解のもとで展開した思想や文学、芸術を具体的に見てゆく。そのなかで西洋文化とキリスト教の関わりも扱う。政治や経済との関係や、西洋文化の他地域への伝播にも注意を向けさせる。この講義を通して、西洋文化の特殊性と普遍性を理解させることを目標とする。
			東洋文化史概説A	東アジアを中心に東洋文化の基礎を扱う。まず、東アジア文化の形成を確認した上で、古代から元代まで中国や朝鮮半島を中心に、社会と文化などを概観する。また、儒教文化、道教文化や成立背景、さらに当時の中国社会における仏教文化伝播の意義とその影響、また朝鮮半島や日本文化形成との関わりを考察していく。この講義を通して、東アジア文化の普遍性と特殊性を把握した上で、自国の文化を再認識すると共に、その変容プロセスを理解することを目標とする。
			東洋文化史概説B	東アジアを中心に東洋文化の基礎を扱う。まず、東アジア文化の発展を確認した上で、明代から近現代までの中国や朝鮮半島を中心に、社会と文化などを概観する。また、朱子学や陽明学の成立背景、さらに西洋文明の伝播が、当時の中国社会に及ぼした影響、また朝鮮半島や日本、ベトナムの文化形成との関わりを考察していく。この講義を通して、東アジア文化の普遍性と特殊性を把握した上で、自国の文化を再認識すると共に、その変容プロセスを理解することを目標とする。
			観光歴史学概説A	一般に歴史学は、論文や書籍を通じての公表や、講演等による口頭発表等によってその研究成果を社会に還元するが、本学が初めて提唱する「観光歴史学」にあつては、歴史上の事件等を実際にその現地に赴いて学ぶとともに、歴史学研究成果を観光に現象させて社会に還元するという新たな視点がその特徴である。「観光歴史学概説A」では、こうした「観光歴史学」が持つ特質を既存の歴史学と比較し、その社会的な使命を確認する。2年次以降、観光歴史学コースを志望する学生はもとより、他コースを志望する学生にも履修を勧める。
			観光歴史学概説B	「観光歴史学概説B」では、「観光歴史学概説A」を引き継ぐかたちで個別の具体的な事例を取り上げて、「観光歴史学」という新たな研究領域ひいては学問領域が持つ特質を明らかにする。また、教員からの講義が中心となるが、個別の具体的な事例をめぐっては、受講生との現地調査やディスカッション等も適宜実施し、新しい学問領域である「観光歴史学」が持つ豊かな可能性を授業を通じて探求していく。2年次以降、観光歴史学コースを志望する学生はもとより、他コースを志望する学生にも履修を勧める。

授 業 科 目 の 概 要 (文学部歴史文化学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	専門基礎科目	日本考古学概説A	国内の観光を学んでいく上で、全国に数多く存在する国指定史跡、特に考古学的な発掘調査によってその存在が明らかになった遺跡の例を挙げるまでもなく、考古学に関する正しい知識を身につけ、発掘調査された遺跡を正確に理解していくことは極めて重要である。「日本考古学概説A」では、考古学という学問の基本的な性格や遺跡の調査・研究方法を学び、旧石器時代から近・現代に至るまでの遺跡を正確に理解出来るような知識を身につける。本授業は2年次からの「世界遺産と観光研究A・B」につながるものである。	
		日本考古学概説B	「日本考古学概説A」を引き継ぐかたちで、「日本考古学概説B」では、縄文時代の代表的集落である青森県三内丸山遺跡や、弥生時代の代表的集落遺跡である佐賀県吉野ヶ里遺跡、奈良県明日香村の古代遺跡群等、実際に国内の観光地となっている遺跡や、大東文化大学東松山キャンパスの近郊に所在する各時代の遺跡について詳細かつ具体的に学び、それぞれの遺跡を観光の視点から評価出来るような考古学的な視点と知識を養うことを目的とする。本授業は2年次からの「世界遺産と観光研究A・B」につながるものである。	
	専門支援科目	選択必修科目	漢文入門A	漢文の言語としての特徴を理解し、中国や日本及び東アジア全域で漢文がどのような役割を果たしてきたのかを知ることを主題とする。また、実際にどのような漢文文献があるのかを理解し、基本的な辞書や参考書とその使い方を学び、漢文を読む方法を身につける。特に、日本においてどのように漢文が用いられていたかを知り、「訓読」という読解法について、その方法と日本文化に対する影響など文化史的意義とを理解する。この講義を通して、漢文の本質及び関連文献の概要を知ることが目標とする。
			漢文入門B	漢文読解力の基礎を養う。中国の各時代における思想、歴史、文学関係の基本的文献を取り上げる他、日本など中国周辺国の漢文文献も扱う。時代と地域を越えて共通するものを理解する一方、各時代、各時代および各分野による漢文の違いも理解する。特に、日本の漢文文献については、日本語の干渉による変則的な点があることを理解する。また、古代から現代にかけての日本語への影響を理解し、今後の漢字使用を考える契機とする。この演習を通して、漢文読解の方法を身につけることを目標とする。
		専門支援科目	漢文基礎A	漢文入門の学習成果を発展させる形で、実際の漢文作品に触れ、実際に読む練習をすることで、漢文を読解する力を養う。特に、中国の古代から近代にかけての思想、歴史に関わる文献を中心に扱う。思想では、諸子百家（孔子、孟子、荀子、老子、荘子、韓非子、墨子、孫子など）や朱子学、陽明学、歴史では、『史記』を始めとする史書を扱う。また、漢字の特徴を理解し、字体の弁別方法など漢文を読む上での技術についても講義する。この講義を通して、漢文読解の基礎を身につけることを目標とする。
			漢文基礎B	漢文入門の学習成果を発展させる形で、実際の漢文作品に触れ、実際に読む練習をすることで、漢文を読解する力を養う。特に、中国古代から近代にかけての文学作品（詩経、楚辞、唐詩、宋詞、唐宋八家文、志怪小説など）や中国以外の漢文文献（日本、朝鮮半島など）を中心に扱う。散文、韻文それぞれにどのようなジャンルがあるかを知り、それぞれの文体の特徴を理解する。この講義を通して、最終的には句読点のない白文を読む練習ができるようにすることを目標とする。
		西洋古典語入門1A	古典ラテン語の文化と初級文法への案内を行う。古典ラテン語で書かれている様々な文献、例えば、キケロやセネカなどの文献内容を分かりやすく紹介しながら、それに関連する初級文法の項目を扱う。本講義では、辞書の引き方や参考書の使用法などを知り、簡単なラテン語テキストを読んでみることに挑戦する。この講義を通して、ラテン語の幅広い文化と関連づけることによって、古典ラテン語の文化的世界が持つ魅力に触れ、その初級文法の入門部分を理解することを目標とする。	
		西洋古典語入門2A	古典ギリシア語の文化と初級文法への案内を行う。古典ギリシア語で書かれている様々な文献、例えば、ホメロスやプラトンなどの文献内容を分かりやすく紹介しながら、それに関連する初級文法の項目を扱う。本講義では、辞書の引き方や参考書の使用法などを知り、簡単なギリシア語テキストを読んでみることに挑戦する。この講義を通して、ギリシア語の幅広い文化と関連づけることによって、古典ギリシア語の文化的世界が持つ魅力に触れ、その初級文法の入門部分を理解することを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
(文学部歴史文化学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	選択必修科目	専門支援科目	西洋古典語基礎 1 B	「西洋古典語入門 1 A」の学習成果を発展させる形で、古典ラテン語の初級文法を扱う。ラテン語を習得することは、ローマ文化圏の思想、歴史、文学を知る上で重要である。本講義では、初級文法を一通り無理のないペースで学習し、辞書を用いてラテン語テキストを自力で読めるようにすることを旨とする。そのためにも、できるだけ多くの単文に触れ、実際に読解してみることに挑戦する。この講義を通して、古典ラテン語読解の基礎となる初級文法を確実に身につけ、持続的学習を可能にすることを目標とする。
			西洋古典語基礎 2 B	「西洋古典語入門 2 A」の学習成果を発展させる形で、古典ギリシア語の初級文法を扱う。ギリシア語を習得することは、ギリシア語文化圏の思想、歴史、文学を知る上で重要である。本講義では、初級文法を一通り無理のないペースで学習し、辞書を用いてギリシア語テキストを自力で読めるようにすることを旨とする。そのためにも、できるだけ多くの単文に触れ、実際に読解してみることに挑戦する。この講義を通して、古典ギリシア語読解の基礎となる初級文法を確実に身につけ、持続的学習を可能にすることを目標とする。
			観光英語 A	「観光英語 A・B」では、一般的な英会話とは異なり、私たちが国外の諸国を訪れて観光する際の英会話や、日本に観光に訪れた外国の方々を案内する際の英会話に必要な、基本的な英語力の習得を目指す。「観光英語 A」では、高校時代までに培ってきた受講生各人の英語力を確認した後、習熟度別にグループを編成して、英会話を中心とした本格的な「観光英語」の習得の基礎となる英語力の獲得と、最も基礎的な英会話能力の獲得を目標とした授業を実施する。本授業は 3 年次以降の「上級観光英語 A・B」につなげるものである。
			観光英語 B	「観光英語 B」では、「観光英語 A」を引き継ぐかたちで、例えば私たちがロンドンやニューヨーク等を訪れて観光する際の英会話や、東京や京都の観光に訪れた訪日外国人旅行者の方々を案内する際の英会話といった、実際に英会話を必要とする「観光の現場」を設定し、「観光英語 A」よりは、より実践的な「観光英語」力の習得を目標とした授業を実施する。授業の終盤では、実際に近郊の観光地を訪ねて、外国の方々との英会話にもチャレンジする。本授業は 3 年次以降の「上級観光英語 A・B」につなげるものである。
			上級観光英語 A	「上級観光英語 A」では、「観光英語 A・B」で学んだことを基本として、「観光の現場」はもとより、旅行に先立つ宿泊の手配や鉄道・航空機の手配、あるいは旅行代理店でのツアーの予約にかかる英会話に始まり、旅行中の駅・空港や宿泊先での英会話に至るまで、観光を目的とした実際の旅行に必要な英会話を想定した英語力の習得を目的とする。当演習では、主に外国人の国内旅行（インバウンド）を前提とした英会話を学ぶ。本授業は、「観光歴史学実習 A・B」を履修する上で必要な能力である語学学習につながるものである。
			上級観光英語 B	「上級観光英語 B」では、「観光英語 A・B」、「上級観光英語 A」で学んだことを基本として、「観光の現場」はもとより、旅行に先立つ宿泊の手配や鉄道・航空機の手配、あるいは旅行代理店でのツアーの予約にかかる英会話に始まり、旅行中の駅・空港や宿泊先での英会話に至るまで、観光を目的とした実際の旅行に必要な英会話を想定した英語力の習得を目的とする。当演習では、主に国外への旅行（アウトバウンド）を前提とした英会話を学ぶ。本授業は、「観光歴史学実習 A・B」を履修する上で必要な能力である語学学習につながるものである。
			添乗英語 A	「添乗英語 A」では、主に旅行会社が企画したツアーに同行する添乗員に必要な英会話能力を習得する。また、本授業の履修により、英会話のみならず、受講生は実際の添乗業務の全般についても併せて具体的に学ぶ。特に、添乗業務には不可欠な旅行者からのクレーム対応の学習は重要である。当演習では、まず外国人の国内旅行（インバウンド）を前提とした添乗業務に必要な英会話能力の基礎を習得することを目標とする。本授業は、「観光歴史学実習 A・B」を履修する上で必要な能力である語学学習につながるものである。
			添乗英語 B	「添乗英語 B」では、主に旅行会社が企画したツアーに同行する添乗員に必要な英会話能力を習得する。また、本授業の履修により、英会話のみならず、受講生は実際の添乗業務の全般についても併せて具体的に学ぶ。特に、添乗業務には不可欠な旅行者からのクレーム対応の学習は重要である。「添乗英語 B」では「添乗英語 A」を引き継ぐかたちで、国外への旅行（アウトバウンド）を想定して実戦的な英会話能力を習得することを目標とする。本授業は、「観光歴史学実習 A・B」を履修する上で必要な能力である語学学習につながるものである。

授 業 科 目 の 概 要 (文学部歴史文化学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 教 育 科 目	選 択 必 修 科 目	日 本 史 コ ー ス 科 目	日本古代・中世史研究A	1年次の「日本史概説A・B」で学んだ知識のうえに、日本古代・中世史を学ぶ上で不可欠な代表的研究史や論争点について学び、個々の学説の妥当性などについて検討する。とりわけ日本という国号が定まった時代から鎌倉時代までの政治や社会、文化を中心に講義していく。この授業を通して、当該期を深く理解する上での様々な視点や能力を身につけることができる。本授業は、3年次の「鎌倉時代史研究A・B」、「戦国時代史研究A・B」につなげるものである。
			日本古代・中世史研究B	1年次の「日本史概説A・B」で学んだ知識のうえに、さらに日本古代・中世史を学ぶ上で不可欠な代表的研究史や論争点について学び、個々の学説の妥当性などについて検討する。とりわけ南北朝時代から織豊政権までの政治や社会、文化を中心に講義していく。この授業を通して、当該期を深く理解する上での様々な視点や能力を身につけることができる。本授業は、3年次の「鎌倉時代史研究A・B」、「戦国時代史研究A・B」につなげるものである。
			日本近世・近代史研究A	1年次の「日本史概説A・B」で学んだ知識をもとに、日本近世から近代史の専門研究の現状と成果を学ぶことを目的とする。授業では東アジアの中での日本の歴史的動向について、近世後期の徳川幕府の時代から、明治政府の時代を中心に政治や外交を中心に、文化の側面にも注目して講義する。それによって、周辺諸国との関係の重要性と今日的課題の理解を深めることを目的とする。本授業は、3年次の「江戸文化史研究」、「明治維新史研究A・B」、「昭和史研究A・B」につなげるものである。
			日本近世・近代史研究B	1年次の「日本史概説A・B」で学んだ知識をもとに、日本近世から近代史の専門研究の成果を学ぶことを目的とする。授業では東アジアの中での日本の歴史的動向について、日清戦争以後、世界大戦にいたる時期を中心に、政治、外交、社会の分野を中心に講義する。それによって、周辺諸国との関係の重要性と今日的課題の理解を深めることを目的とする。また、本授業は3年次の「江戸文化史研究」、「明治維新史研究A・B」、「昭和史研究A・B」につなげるものである。
			日本古代・中世史史料講読A	1年次の「日本史概説A・B」で学んだ知識をもとに、日本古代・中世史の基礎史料の訓読・解釈の方法を習得することを目的とする。授業は予習した部分を皆で輪読し、正確に読解できているかどうか確認する。その過程で辞書や参考書など基本的文献を知り、その用い方を身につける。これらを通じて、当該期特有の史料の読み方を理解し、問題点を発見する能力を見つけることができるようになる。本授業は、3年次の「日本古代・中世史史料演習A・B」、日本古代・中世史をテーマとする専門演習につなげるものである。
			日本古代・中世史史料講読B	「日本古代・中世史史料講読A」の成果をもとに、より幅広い史料を読み、解釈することで様々な問題を発見する能力を養う。授業では、予習した部分を皆で輪読し、正確に読解できているかどうか確認することで、訓読、解釈、考察を中心とした力を養う。また、予習の過程で得た問題点について説明を加えつつ皆で議論し、当該期の史料に関する問題点を、より深く考察する力を養う。本授業は、3年次の「日本古代・中世史史料演習A・B」、日本古代・中世史をテーマとする専門演習につなげるものである。
			日本近世・近代史史料講読A	1年次の「日本史概説A・B」で学んだ知識をもとに、日本近世以降の歴史史料の読解能力を身につけることを目的とする。まず、この時代の史料の特徴を学び、その上で実際に、史料を輪読形式で読み進めていくが、あらかじめ指定した箇所を予習し、皆で正確に読解できているかどうか確認していく。初めは、活字の史料を題材に基礎的な読み方を学び、次に近世以降のくずし字の読解に進む。本授業は、3年次の「日本近世・近代史史料演習A・B」、日本近世以降の時期をテーマとする専門演習につなげるものである。
			日本近世・近代史史料講読B	「日本近世・近代史史料講読A」で養った史料読解力をもとに、より難易度の高い活字史料やくずし字などの史料を読む能力を身につける。同時に、史料読解を通じて、同時代の史料の特徴をより深く理解し、問題点を発見する能力を養う。授業は、あらかじめ指定した部分を予習し、正しい読解ができているかどうか確認し、さらに読解の過程で得た問題点について議論する。本授業は、3年次の「日本近世・近代史史料演習A・B」、日本近世以降の時期をテーマとする専門演習につなげるものである。
			鎌倉時代史研究A	2年次の「日本古代・中世史研究A・B」で学んだ知識のうえに、平安時代末期から鎌倉幕府の誕生にいたる過程において、天皇・上皇や貴族、武士団の状況、社会では新仏教の誕生や文化の展開状況などの歴史事象や代表的論争点について学び、個々の学説の妥当性などについて検討する。この授業を通して、当該期を深く理解する上での様々な視点や能力を身につけることができる。本授業は、日本古代・中世をテーマとする専門演習、4年次の「卒業研究」とつながるものである。

授 業 科 目 の 概 要

(文学部歴史文化学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門 教育 科目	選択 必修 科目	日本 史 コ ー ス 科 目	鎌倉時代史研究B	2年次の「日本古代・中世史研究A・B」で学んだ知識のうえに、都市鎌倉の発展過程や文化の状況、鎌倉時代の周辺諸国との対外関係、さらに幕府滅亡にいたる朝廷の動向や社会状況など、政治を中心にした歴史事象と学説史上の論争点などを深く学び、個々の学説の妥当性について検討する。この授業を通して、当該期を深く理解する上での専門的な視点や能力を身につけることができる。本授業は、日本古代・中世史をテーマとする専門演習、4年次の「卒業研究」とつながるものである。
			戦国時代史研究A	2年次の「日本古代・中世史研究A・B」で学んだ知識のうえに、日本史上の大きな政治・社会構造の転換期にあたる戦国時代に注目し、室町幕府の誕生から崩壊、地域の大名たちの動向などの歴史事象や代表的論争点について学び、個々の学説の妥当性などについて検討する。この授業を通して、当該期を深く理解する上での様々な視点や能力を身につけることができる。本授業は、日本古代・中世史をテーマとした専門演習、4年次の「卒業研究」とつながるものである。
			戦国時代史研究B	2年次の「日本古代・中世史研究A・B」で学んだ知識のうえに、戦国時代を中心とした専門研究の現状、問題点を学ぶ。具体的には15世紀の地方都市の様相や経済について、あわせて織豊政権の誕生などの歴史事象や代表的論争点について学び、個々の学説の妥当性などについて検討する。この授業を通して、当該期を深く理解する上での様々な視点や能力を身につけることができる。本授業は、日本古代・中世史をテーマとした専門演習、4年次の「卒業研究」とつながるものである。
			江戸文化史研究	2年次の「日本近世・近代史研究A・B」で学んだ基礎のうえに、江戸時代の都市社会とそこから生み出される文化について考察する。特に世界有数の大都市であった江戸に焦点を当て、その文化の展開を通時的に追い、各時代の特徴を把握する。加えて、江戸という近世都市の社会構造と特質を考え、江戸の文化現象を社会的背景から理解し、近代以降の都市文化に継承にされた側面について理解を深める。本授業は、日本近世以降の時期をテーマとした専門演習、4年次の「卒業研究」とつながるものである。
			明治維新史研究A	2年次の「日本近世・近代史研究A・B」で学んだ成果のうえに、専門的観点から明治維新の基本的な流れと、研究史について学ぶ。まず、戦前以来の明治維新史研究の流れを概観しつつ、研究の現状について学ぶ。そして、具体的に近世後期、幕末のペリー来航から王政復古までの政治の基本的な流れを押さえ、政治・外交上の諸問題や社会状況に目を配りながら、近代の日本について認識を深めることを目的とする。本授業は日本近世以降の時期をテーマとする専門演習、4年次の「卒業研究」とつながるものである。
			明治維新史研究B	2年次の「日本近世・近代史研究A・B」で学んだ成果のうえに、専門的観点から明治維新の基本的流れと研究史を学ぶ。特に明治維新の時期区分について代表的な学説を学び、全体像を把握する。そして、具体的に王政復古から西南戦争までの政治の基本的な流れを押さえ、政治・外交を中心に、文明開化、「国民」の形成という諸問題に目を配りながら、近代の日本についての認識を深めることを目的とする。本授業は、日本近世以降の時期をテーマとする専門演習、4年次の「卒業研究」とつながるものである。
			昭和史研究A	2年次の「日本近世・近代史研究A・B」で学んだ成果のうえに、戦前期の昭和史について政治・外交面を中心に専門的観点から通史的に学び、論争点などにも注目する。昭和天皇が摂政から天皇へと即位する昭和初期から、太平洋戦争開戦頃までを対象とする。近代国家として欧米列強と肩を並べるまでに成長した日本が、なぜ戦争への道を突き進むことになったのかを中心に、国際関係を常に意識しながら授業を進めていく。本授業は、日本近世以降の時期をテーマとする専門演習、4年次の「卒業研究」とつながるものである。
			昭和史研究B	2年次の「日本近世・近代史研究A・B」で学んだ成果のうえに、昭和戦中期から戦後にいたる時期を専門的観点から通史的に学ぶ。戦中期は社会史分野にも注目し、戦争と社会との関係を理解し、戦後は平和国家としての日本の歩みについて、政治外交史面を中心に学ぶ。特にアメリカとの関係を軸にアジア諸国との国交回復の過程などを詳しく見ていくことで、今日の国際問題の根源を歴史学の視角から把握できるようにする。本授業は、日本近世以降の時期をテーマとする専門演習、4年次の「卒業研究」とつながるものである。

授 業 科 目 の 概 要			
(文学部歴史文化学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	日本史コース科目	日本古代・中世史史料演習A	2年次の「日本古代・中世史史料講読A・B」で学んだ知識のうえに、古代・中世の原文書(古文書)の熟覧を通して、くずし字読解の能力を身につける。受講生が自ら辞書などを引いて史料と格闘し、現在の漢字に直して報告する。以上の作業を通して、古代・中世特有の文字の読み方や古文書の様式や機能論に習熟する。授業は予習を前提に、輪読や発表を主として進めていく。本授業は、日本古代・中世史をテーマとする専門演習、4年次の「卒業研究」とつながるものである。
		日本古代・中世史史料演習B	「日本古代・中世史史料演習A」の成果のうえに、さらに史料の読解力を深めるための報告を行うとともに、絵図・古写真をもとにフィールドワークを行い、各自が歴史の追体験をし、伝統的景観を復原するための視座を養う。授業では、予習を前提とした史料やテーマの発表とともに、多くの文化財・歴史遺産の事前調査を行い、実際の巡検ならびに分析結果をまとめ、報告し合うことで、地域の歴史への愛着を高める。本授業は、日本古代・中世史をテーマとする専門演習、4年次の「卒業研究」とつながるものである。
		日本近世・近代史史料演習A	2年次の「日本近世・近代史史料講読A・B」で学んだ知識をもとに、より実践的に日本近世以降の史料の読解、さらに、実際に史料を研究において用いる際の方法や史料批判などについて重点的に学ぶ。授業では史料の読解をもとに、関係するテーマを選定して報告者が発表し、皆で議論する。それらを通じて、この時代の歴史的な特質を理解することを目指す。本授業は、日本近世以降の時期をテーマとする専門演習、4年次の「卒業研究」とつながるものである。
		日本近世・近代史史料演習B	「日本近世・近代史史料演習A」の成果のうえに、さらに、史料読解をもとに、より専門的な力を養うことを目的とし、実際に原文書に触れる機会などを通じて、原文書を扱う際の注意点や利用方法、さらに整理、保存状況など幅広く学ぶ。より実践的な作業を通じて、当該期の史料への理解力を深め、応用力を高めるのが目的である。授業は予習を前提とした史料やテーマの発表も並行して行っていく。本授業は、日本近世以降の時期をテーマとする専門演習、4年次の「卒業研究」とつながるものである。
		江戸文化史演習	3年次の「江戸文化史研究」で学んだ成果のうえに、江戸の文化を読み解くためのさまざまな資・史料を紹介し、その形態や取り扱い方、調べ方を学ぶ。そして、これら史資料を理解するうえで必要な文献読解力を養う。また、江戸文化への認識を深めるためフィールドワークを数回実施し、そのレポートを素材に文化財の意義や保存問題なども含め議論する。本授業は日本近世以降の時期をテーマとした専門演習、4年次の「卒業研究」とつながるものである。
		西洋古代・中世史研究A	「西洋史概説A・B」の学習成果を発展させる形で、西洋史の起源の問題から、西洋文明揺籃期のギリシア史、ヘレニズム期、古代末期を経て、古代終焉の問題、ビザンツ帝国期まで、ギリシア語圏(東欧)を中心に扱う。ギリシア世界とは何か、という問いから始めて、オリエント・ペルシア世界、ケルト・ラテン世界、ユダヤ・シリア世界、アフリカ・アラブ世界、ゲルマン・スラブ世界という、周辺との関わりを切り口にして、古代・中世史上のテーマを論じる。この講義を通して、史料読解から研究論文作成までの道筋を辿らせることを目標とする。
	東西文化コース科目	西洋古代・中世史研究B	「西洋史概説A・B」の学習成果を発展させる形で、共和制ローマの起源の問題から、地中海世界の統合、ローマ帝国の繁栄、キリスト教の発展と古代末期、中世ヨーロッパ世界の成立、キリスト教世界の成熟、都市共同体の形成、西欧諸国の発展、カトリック教会の危機と改革、ルネサンスと宗教改革の幕開けまで、ラテン語圏を中心に扱う。ラテン世界とは何か、という問いから始めて、古代・中世史上のテーマを論じる。この講義を通して、史料読解から研究論文作成までの道筋を辿らせることを目標とする。
		西洋近世・近代史研究A	「西洋史概説A・B」の学習成果を発展させる形で、近世を中心に扱う。近世とは何かという問いから始めて、ルネサンスや宗教改革から絶対王政を経て、市民革命に至る頃の西欧諸国と、当時唯一の正教国で西欧化改革が行われていたロシアとの比較や、外交関係、戦争、相互の影響に留意しながら、社団や身分、近代化、表象、記憶などを切り口に、近世史上のテーマについて論じる。この講義を通して、史料読解から研究論文作成までの道筋を辿らせることを目標とする。
		西洋近世・近代史研究B	「西洋史概説A・B」の学習成果を発展させる形で、近代を中心に扱う。近代とは何かという問いから始めて、市民革命からナポレオン戦争、ウィーン体制、ナショナリズムの発生と興隆に至る頃までの西欧諸国とロシアとの比較や、外交関係、戦争、相互の影響に留意しながら、国民、民族、帝国、近代化、表象、記憶などを切り口に、近代史上のテーマについて論じる。この講義を通して、史料読解から研究論文作成までの道筋を辿らせることを目標とする。

授 業 科 目 の 概 要 (文学部歴史文化学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	東西文化 コース 科目 選択 必修 科目	東洋古代・中世史研究A	「東洋史概説A・B」の学習成果を発展させる形で、中国を中心とする東アジアの歴史を先秦時代から隋唐時代まで扱う。具体的には、殷周、春秋戦国時代から、秦漢帝国を経て、魏晋南北朝、隋唐帝国までの歴史を扱う。中国を中心とした東アジア世界の各王朝の興亡や文化について扱い、特に東洋古代・中世史の核となる中華思想および冊封体制について理解させる。この講義を通して、中国と日本との関係を東アジア世界全体の動きの中で位置づけられるようになることを目標とする。
		東洋古代・中世史研究B	「東洋史概説A・B」の学習成果を発展させる形で、アケメネス朝ペルシア帝国（紀元前550～紀元前330年）からサーサーン朝ペルシア帝国（224年～651年）時代を中心に栄えたイラン系民族の観点から、西アジアとその周辺の古代・中世史を扱う。特に、イラン高原と中央アジアのイラン文化の中心となったゾロアスター教と古代・中世ペルシア語を取り上げる。この講義を通して、古代オリエントとイスラーム時代を架橋するイラン文明を軸に、各時代の特徴を総合的に把握することを目標とする。
		東洋近世・近代史研究A	「東洋史概説A・B」の学習成果を発展させる形で、中国を中心とする東アジアの近世・近代史を扱う。明朝および清朝が、どのように勃興し、繁栄し、やがては衰退したのか、その過程を追い、また政治、社会、経済の状況を鑑みながら理解する。また、この地域において西洋との接触により近代化が迫られた状況を知り、近代化の実際とその直面した問題を理解する。特に日本と周辺地域の交流など相互の関係を視野に入れる。この講義を通して、中国と日本との関係を東アジア世界全体の動きの中で位置づけられるようになることを目標とする。
		東洋近世・近代史研究B	「東洋史概説A・B」の学習成果を発展させる形で、近世・近代の西アジアとその周辺のイスラーム諸帝国、具体的には中央アジアのティムール帝国とその後鼎立した3ハン国、南アジアのムガル帝国、イランのサファヴィー朝とカージャール朝、トルコのオスマン帝国について、詳細な歴史を辿っていく。これらの諸帝国の間の関係について、さらに、19世紀のイスラーム諸帝国が「西洋の衝撃」にどのように対応したのかについても扱う。この講義を通して、イスラーム世界の近世・近代史を俯瞰できる視点を養うことを目標とする。
		宗教史研究	「宗教学概説A・B」の学習成果を発展させる形で、前近代を中心とする歴史に力点を置いて宗教を考察する。世界には人類の歴史と共に複数の宗教が存在している。世界の各宗教は歴史に関わりを持ちながら、競争や発展、あるいは淘汰されてきたが、宗教研究にとってその現象と事実に関する考察は必須である。この講義を通して、哲学的、社会学的、心理学的など多様な分野で行われてきた宗教研究における、歴史的研究の意義や成果、今後の可能性などについて理解することを目標とする。
		仏教史研究	「宗教学概説A・B」の学習成果を発展させる形で、インドから中国の仏教思想史を中心に扱う。インドでヴェーダやウパニシャドといった宗教思想を基盤に仏教が成立し、その初期の仏教思想がいかに変化・発展して部派の仏教、大乘仏教が成立し発展し、それらが伝播した中国でその伝統的思想、歴史的背景の下でいかに中国的仏教として発展するかを論じる。この講義を通して、仏教という宗教のイメージを更新し、思想が地域や時代によって変化するダイナミズムを理解させることを目標とする。
		現代史研究	「西洋史概説A・B」と「東洋史概説A・B」の学習成果を発展させる形で、帝国主義時代から、2度の世界大戦、冷戦時代を経てその終結までの歴史を扱う。現代においては、それ以前と比べて、世界の各国はより緊密に結ばれており、ある国家・地域の歴史もグローバルな世界史の中に位置づけられなければならない。こうした視点に立ちつつ、ヨーロッパとアジアの双方にまたがるロシア・ソ連と米国を軸に、東西世界の歴史的展開を論じる。この講義を通して、世界史を一体として把握すると共に、現在の国際情勢を歴史的に見る視点を養うことを目標とする。
		交流史研究A	「西洋史概説A・B」と「東洋史概説A・B」の学習成果を発展させる形で、明清時代中国とヨーロッパとの交流史を中心に扱う。まずヨーロッパのグローバルな経済的、政治的拡大と、中国を中心とする東アジア朝貢・冊封体制との接触の過程を辿る。さらに文化交流にも焦点を当て、宣教師によって伝わった「西学」＝西洋科学が、中国にいかに受容、利用されたのか、その一方でヨーロッパに伝わった中国思想が、啓蒙思想家らにいかなる影響を与えたのか見ていく。この講義を通して、この時期の双方向的交流について理解を深めることを目標とする。

授 業 科 目 の 概 要 (文学部歴史文化学科)					
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
専 門 教 育 科 目	選 択 必 修 科 目	東 西 文 化 コ ー ス 科 目	交流史研究B	「東洋史概説A・B」と「日本史概説A・B」の学習成果を発展させる形で、古代から現代までの東洋における交流史を扱う。日本と関係の深い東アジア世界を中心に、各時代における交流の具体的な例を取り上げて考察を加える。例えば、朝貢貿易、鄭和の遠征などによって実際にどのような交流が行われていたのかを理解し、文物の交流、思想、宗教などの交流の実態を明らかにする。この講義を通して、東洋における交流の幅広さと奥深さを理解させることを目標とする。	
			シルクロード史研究A	「西洋史概説A・B」と「東洋史概説A・B」の学習成果を発展させる形で、古代から中世までのシルクロード史を扱う。シルクロードで想起されがちな陸路によるものだけではなく、海路による東西交流も対象とする。最古の交流から始まり、ローマ・インド間の海上交易、中央アジアを中心とした陸上交易、それを一変させた中世イスラーム帝国期、ユーラシアを股にかけたモンゴル帝国期とその後まで、その主要な担い手を切り口にして、前近代の東西交渉史を辿っていく。この講義を通して、東西交渉の幅広さと奥深さを理解させることを目標とする。	
			シルクロード史研究B	「西洋史概説A・B」と「東洋史概説A・B」の学習成果を発展させる形で、16世紀以降のロシア、中央アジア、中国を中心とした、近世・近代のユーラシア東西を結ぶ陸上貿易と、それに伴う交流、つまり近世・近代のシルクロードがどのようなものだったかについて解説する。近年の研究によれば、海上貿易が盛んになる大航海時代以降も、ユーラシア東西の陸上貿易は衰退することなく、活発に貿易が行われていたことが明らかになっている。この講義を通して、近世・近代の多面的な東西交渉の様子を理解することを目標とする。	
			ギリシア・ラテン文化史研究	「西洋文化史概論A・B」の学習成果を発展させる形で、キリスト教と並んで西洋文明の基層をなす、ギリシア・ラテン文化史を扱う。まず、ギリシア語・ラテン語自体の特徴から始めて、文字文明、最古の文化、古代ギリシア世界の理論知、雄弁術（レトリック）、芸術、ヘレニズム文化、古代ローマ世界の実践知、ギリシア文化とラテン文化の相互関係、周辺文化との関係、中世ラテン文化の展開、という歴史を辿り、古代から近現代までの影響を論じる。この講義を通して、西洋文化を表面的理解に留まらず、深く理解させることを目標とする。	
			キリスト教史研究	「宗教学概説A・B」の学習成果を発展させる形で、キリスト教についての知識と理解を深める講義を行う。原始教会の成立から公会議による教義の定式化に至る過程を概観した上で、中世から近代にかけてのキリスト教の歴史を、西洋を中心として中東やコーカサス、アジアまでも含めた「ユーラシア」という枠組みの中で辿っていく。この講義を通して、キリスト教の教義や諸教会の歴史について広汎かつ正確な知識を与えるだけでなく、「キリスト教世界」の多様性についての理解を深めることを目標とする。	
			中国文化史研究	「東洋文化史概論A・B」の学習成果を発展させる形で、言語、思想、文学、芸術など中国文化を巡る諸相についてその歴史的事象を扱う。漢字を始めとする文字、儒教や仏教などの思想、宗教、詩や小説といった文学作品、書道、絵画、陶器などの芸術は国と地域を越えて広く浸透した。その共通性と地域による特徴とを具体的な事例を用いながら比較の手法などを用いて理解する。この講義を通して、中国文化の特徴やこれを鏡として日本文化の特徴がどこにあるのか、相対的に理解できることを目標とする。	
			西洋史史料演習	「西洋史概説A・B」の学習成果を発展させる形で、近世以降を中心とする西洋史を、史料を媒介としてより深く、能動的に理解することを旨とする。この演習で取り上げる史料は、英語を中心とする外国語文献のほか、日本語によるヨーロッパ旅行記などである。本演習は、それぞれの受講者が担当部分を概要にまとめた上で分析し、その概要・分析を教員及び、ほかの受講者の前で発表する形式を取る。この演習を通して、特定の史料を他史料と突き合わせながら、批判的に読解する姿勢を学ぶことを目標とする。	
			東洋史史料演習	「東洋史概説A・B」の学習成果を発展させる形で、中世以前を中心とする東洋史を、史料を媒介としてより深く、能動的に理解することを旨とする。この演習で取り上げる史料は、十八史略を始めとした漢籍である。本演習は、それぞれの受講者が担当部分を書き下し文、及び現代日本語訳に改めた上で分析し、その訳文・分析を教員及び、ほかの受講者の前で発表する形式を取る。この演習を通して、特定の史料を他史料と突き合わせながら、批判的に読解する姿勢を学ぶことを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要 (文学部歴史文化学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	東西 文化 コー ス 科目	比較文明論演習A	「西洋史概説A・B」と「東洋史概説A・B」の学習成果を発展させる形で、東西の歴史を別個に扱うだけではなく、総合的な見地に立って諸文明を扱い、それらを比較していく。現代文明は唯一の文明ではなく、その1つであるという認識から出発して、世界の文明の起源から古代オリエント文明、中国文明、インド文明、西洋文明の成立、キリスト教文明の展開までを時系列に沿って扱うと共に、共時的な視点から各文明間の連続性と非連続性に注目していく。この演習を通して、現代文明を再認識できる複眼的な視座を涵養することを目標とする。
		比較文明論演習B	「西洋史概説A・B」と「東洋史概説A・B」の学習成果を発展させる形で、東西の歴史を別個に扱うだけではなく、総合的な見地に立って諸文明を扱い、それらを比較していく。未来に向けて、「文明の衝突」を克服するためにも、過去の中世イスラーム文明の成立から、日本文明、ビザンツ・ロシア文明、アフリカ文明、南米文明、近代西欧文明を時系列に沿って扱うと共に、共時的な視点から各文明間の共通点と相違点に注目していく。この演習を通して、現代文明を再認識できる複眼的な視座を涵養することを目標とする。
		東西文化特別演習A	「西洋文化史概論A・B」と「東洋文化史概論A・B」の学習成果を発展させる形で、西洋文化と東洋文化のどちらか一方ではなく、双方を交差させることで、東西文化交流史を掘り下げて扱う。東洋人が東洋や西洋について語っている史料を読み解くことによって、東洋人が東洋文化および西洋文化をどのように捉えてきたかを理解する。本演習では、英語や中国語で書かれた史料も多く扱うが、史料は原語のまま理解し、説明も原語を取り入れて行うことを目指す。この演習を通して、外国語の活用能力を高め、文化を相対的に見る視点を育成することを目標とする。
		東西文化特別演習B	「西洋文化史概論A・B」と「東洋文化史概論A・B」の学習成果を発展させる形で、西洋文化と東洋文化のどちらか一方ではなく、双方を交差させることで、東西文化交流史を掘り下げて扱う。東洋文化関連文献の翻訳や西洋の史料の中に描かれた東洋イメージを読み解くことによって、西洋側の東洋体験と東洋文化の西洋への影響史の痕跡を辿る。本演習では、西洋から見た東洋文化研究を言語上も実践させるため、説明も基本的にはすべて英語を中心とする外国語により行う。この演習を通して、各自の「東西文化の融合」を具現化していくことを目標とする。
		旅行業務概論A	旅行業務、特に利用者の多様なニーズに応じて、ますます多様化し充実度を深めている国内での旅行業務に関心を寄せる学生を対象に、基本的に現場で必要とされている知識や能力等を概説する。「旅行業務概論A」では、旅行業務に携わる上で必要となる、国内での旅行業務に関する諸法令と、これに関わる約款について詳細に学ぶ。なお、講義は、受講者の習熟度を適宜把握しながら実施し、必要に応じてグループ等を編成して受講生全体の習熟度が上がるよう工夫する。
		旅行業務概論B	旅行業務、特に利用者の多様なニーズに応じて、ますます多様化し充実度を深めている国内での旅行業務に関心を寄せる学生を対象に、基本的に現場で必要とされている知識や能力等を概説する。「旅行業務概論B」では、「旅行業務概論A」を引き継ぐかたちで、国内旅行業の実務について詳細かつ具体的に学ぶものとする。なお、講義は、受講者の習熟度を適宜把握しながら実施し、必要に応じてグループ等を編成して受講生全体の習熟度が上がるよう工夫する。
	観光 歴史 学 コー ス 科目	旅行業・観光事業の現状と課題研究A	国内外において人々の観光を大きく支えているのがツーリズム産業であり、その中には大小様々な旅行会社をはじめ、宿泊産業、運輸業、観光による地域振興を担う自治体などが密接に関わっている。「旅行業・観光事業の現状と課題研究A・B」では、こうしたツーリズム産業の現状を学ぶとともに、グローバル化し多様化する国内外の観光の中にあつて、旅行業・観光事業が抱えている課題も学ぶ。「旅行業・観光事業の現状と課題研究A」では、主に国内外の観光事情と、地域主導の着地型観光を含む旅行業・観光事業の現状と課題を概観する。
		旅行業・観光事業の現状と課題研究B	「旅行業・観光事業の現状と課題研究A」を承けて、「旅行業・観光事業の現状と課題研究B」では、国内のツーリズム産業の具体的なシステム、特に旅行業が必要とする知識・技能・資格等について具体的に学ぶものとする。中でも、国内で旅行業務を取り扱う営業所で選任の必要があるため国家試験が実施されている国内旅行業務取扱管理者・総合旅行業務取扱管理者や、旅行会社が企画したツアーに同行する添乗員に必要な国内旅程管理主任者・総合旅程管理主任者等の資格について詳しく説明する。

授 業 科 目 の 概 要			
(文学部歴史文化学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 選択必修科目 観光歴史学コース科目	観光と現代社会研究A	2007年1月より観光立国推進基本法が施行され、その翌年には観光庁が新たに設置されるなど、近年、我国では観光の果たす役割が大いに注目されている。また、2020年には東京オリンピックも開催される予定であり、現代社会において観光が果たす役割は、ますます重要になるものと思われる。「観光と現代社会研究A」では、現代社会にあつて国内外の観光が果たす役割を、社会状況を踏まえて概観し、併せてその将来を展望する。本授業は、4年次の「卒業研究」につながるものである。	
	観光と現代社会研究B	「観光と現代社会研究A」を引き継ぐかたちで、個別具体的な事例を取り上げて、国内外において観光が果たす役割を、社会状況を踏まえて概観する。講義形式の授業であるが、受講生によるグループ研究発表なども適宜実施し、受講生がこの問題に主体的に取り組むことが出来るような授業とする。また授業中に、実際に新たな取り組みをしている方を特別講師として招聘し、具体的な事例を紹介していただく機会も予定している。本授業は、4年次の「卒業研究」につながるものである。	
	世界遺産と観光研究A	今日の観光を考える際に、国内外で最も関心を集めているUNESCOの世界遺産(文化遺産・自然遺産)について、(1)世界遺産の基本的な概要と、(2)世界遺産を対象とした観光の現状と課題を学ぶ。特に「世界遺産と観光研究A」では、主に国外の世界遺産を講義の対象とし、世界史の流れの中でそれぞれの世界遺産の位置と文化史的価値を理解していく。個々の世界遺産については講義のみならず豊富な映像資料等を活用して、学生の理解を深めていく。本授業は、4年次の「卒業研究」につながるものである。	
	世界遺産と観光研究B	「世界遺産と観光研究B」では、「世界遺産と観光研究A」を引き継ぐかたちで、主に国内の世界遺産を講義の対象とし、日本史の流れの中でそれぞれの文化遺産を理解するとともに、自然遺産については、その景観を知るだけでなく、南北に細く延びて様々な気候・地形からなる日本列島の自然環境との関係を具体的に理解出来るようにする。講義に際しては、豊富な映像資料等を活用する。本授業は、4年次の「卒業研究」につながるものである。	
	博物館概論A	今日、国内外に存在する博物館(美術館・動物園・水族館等を含む)は、歴史学においては資・史料の保存機関として、また、観光学においては観光の対象として、それぞれに重要な役割を果たしている。「博物館概論A・B」では、本学博物館学講座で学芸員資格関連科目を履修していない歴史文化学科の学生が、博物館に関する基本的な知識を学び、博物館に対する理解を深めていけるような講義を提供する。「博物館概論A」では、博物館法の規程を中心に博物館に関する基本的な知識を学ぶ。本授業は、本学博物館学講座で学芸員資格を履修していない学生を対象とする。	
	博物館概論B	「博物館概論B」では、「博物館概論A」で学んだことを基礎として、世界の博物館史、および日本の博物館史の講義を通じて、国内外の博物館に関する幅広い知識を習得するとともに、時代とともに変化してきた博物館の役割を具体的に学ぶ。また、観光の対象として国内外で人気を集めている博物館・美術館についての情報も併せて習得する。講義形式の授業であるが、大東文化大学板橋キャンパスに近接する博物館に実際に足を運んでの授業も実施する。本授業は、本学博物館学講座で学芸員資格を履修していない学生を対象とする。	
	日本観光史研究A	現代社会における観光の在り方を考えようとする際には、日本に於ける観光の歴史を学び、それぞれの時代にどのような社会的要請の下に観光が展開したのか、そしてその特質は何であったのか等について具体的に学ぶことが大切である。「日本観光史研究A」では、交通手段が未発達であった前近代社会を対象として、寺社参詣や「花見」「紅葉狩」に代表される春夏秋冬の自然を楽しむ物見遊山などを中心に、その歴史を具体的な史・資料や絵画作品等から学ぶ。本授業は、日本観光史をテーマとする専門演習、4年次の「卒業研究」につながるものである。	
	日本観光史研究B	「日本観光史研究A」を引き継ぐかたちで、「日本観光史研究B」では、急激に西洋文化が移入された近代社会以降、今日に至るまでを対象として、交通機関の発達や情報伝達手段の発展等を背景に日本の観光がどのように成長し多様化してきたのかを概観する。講義中心の授業であるが、受講生の理解をより具体的に深めるためには、実際に近郊の観光地や博物館を見学する校外学習の機会も重要であり、こうした授業も適宜実施していく予定である。本授業は、日本観光史をテーマとする専門演習、4年次の「卒業研究」につながるものである。	

授 業 科 目 の 概 要 (文学部歴史文化学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 教 育 科 目	選 択 必 修 科 目	観光歴史学コース科目 世界観光史研究A	現代社会における観光の在り方を考えようとする際には、日本のみならず世界における観光の歴史を学び、それぞれの時代にそれぞれの地域の人々が、どのような社会的要請の下に観光を行ったのかを学ぶことが大切である。「世界観光史研究A」では、世界史の流れに即して、古代以来の聖地巡礼や、近代のグランドツアー等、世界に於ける観光の歴史を具体的な史・資料から学ぶ。また、授業では豊富な映像資料等を活用して、受講生の理解を深めていくものとした。本授業は、4年次の「卒業研究」につなげるものである。
		世界観光史研究B	「世界観光史研究A」を引き継ぐかたちで、「世界観光史研究B」では、個別具体的な地域や事例を取り上げて、観光がそれぞれの時代の人々にとってどのような存在であったのかを考える。こうした問題を理解するためには、世界各地の宗教史や交通史を学ぶことも必要不可欠であり、適宜、特別講義を設ける予定である。また、受講生の理解をより具体的に深めていくために、世界各地の観光の歴史を知るために有益な映像資料等も多用していく予定である。本授業は、4年次の「卒業研究」につなげるものである。
		ミュージアムと観光研究A	講義形式の授業形態とするが、一部、実習形態の授業も含む。世界的に見ても、日本には全国に数多くの博物館が存在し、生涯学習の拠点として活動している。またこれらの博物館は、地域の観光に際しても重要な役割を果たしており、時には、北海道・旭山動物園や石川県・金沢21世紀美術館のように、その博物館への訪問が観光のメインとなるものも生まれている。「ミュージアムと観光研究A」では、国内の博物館と観光との関係を具体的な事例から学ぶ。本授業は、ミュージアムをテーマとする専門演習、4年次の「卒業研究」につながるものである。
		ミュージアムと観光研究B	講義形式の授業形態により、「ミュージアムと観光研究A」を承けて、国内外各地の観光地と、そこに所在する博物館・美術館の具体的な事例を取り上げて、両者の有機的な関係を学ぶ。実際に現地を訪れることは難しいため、映像資料を多用して理解を深めていくものとする。また、近年盛行している博物館・美術館巡りをメインとした海外旅行企画等の具体的な分析も行い、受講生とのディスカッション等を通じて現状の分析を行うとともに、新たな可能性を検討する。本授業は、ミュージアムをテーマとする専門演習、4年次の「卒業研究」につながるものである。
		観光歴史学実習A	観光プランの立案等に際しては、実際に現地を足を運ぶことが不可欠である。本演習では、歴史学・博物館学を専攻する教員の引率の下に、埼玉県川越市をはじめとする近郊の観光地に実際に足を運び、様々な史跡・博物館・商業施設等を実際に体験することから、観光歴史学を具体化する方法（研究・観光計画立案・事業企画提案等）を学ぶ。「観光歴史学実習A」では、教員の企画したプランを体験する。校外学習が中心となるため、2時限連続の授業を行う。本授業は4年次の「卒業研究」につなげるものである。
		観光歴史学実習B	「観光歴史学実習A」を引き継ぐかたちで、歴史学・博物館学を専攻する教員の引率の下に、埼玉県川越市をはじめとする近郊の観光地に実際に足を運び、様々な史跡・博物館・商業施設等を実際に体験することから、観光歴史学を具体化する方法（研究・観光計画立案・事業企画提案等）を学ぶ。「観光歴史学実習B」では、受講生の企画したプランを体験する。校外学習が中心となるため、2時限連続の授業を行う。本授業は4年次の「卒業研究」につなげるものである。
	選 択 科 目	人文地理学概説A	人文地理学の基礎・基本を講義するとともに、地理教育に必要な地域のとらえ方や課題探究の方法についてもふれていく。Aではまず、古代からの地理学の発達をとらえる。次に、日本各地の地域の実態や課題について具体的に上げるとともに、地域に生活する人々がどのように諸課題に取り組んでいるかを考える。また、地理学の発達と密接な関係がある地図についても適宜とりあげ、読図などの技能も身につけられるようにする。
		人文地理学概説B	人文地理学の発達とともに、地域のとらえ方や課題探究の方法がどのように変化しているかについてもふれていく。Bではおもに世界各地の地域の実態や課題について取り上げるとともに、地域に生活する人々がどのように諸課題に取り組んでいるかを考える。また、現代世界における地球的課題についてもとりあげ、日本をはじめとして世界的な協力が必要な現状についてもふれる。近年の地理学にとって重要な役割を果たしているGISについてもふれる予定である。

授 業 科 目 の 概 要			
(文学部歴史文化学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	選 択 科 目	自然地理学概説A	自然地理学は人の居住する地表面付近の自然環境・現象を探究する分野である。本講義では、日本国内の山地・平野・海岸などにみられる地形の成り立ちや形成要因、水の循環と流出、気候の特徴について学ぶ。中学社会・高校地理の教科書に出てくる山地・平野・海岸などの「地形」の形成プロセス、日本の「水循環・流出」「気候」の特徴を理解し、それらをわかりやすく説明できるようになることを目標とする。PCプロジェクターとパワーポイントを使用し、写真や図を活用しながらプレゼンテーション形式で進める。
		自然地理学概説B	本講義は、主に地球規模で変動するプレートの動きに伴う山地の形成、火山、気候のしくみ、海岸の地形、気候の影響を受けている地形としてサンゴ礁や氷河・周氷河地形の成り立ち・形成要因を学ぶ。中学社会、高校地理の教科書に出てくる「自然現象」「地形」について、それらの発生メカニズムや形成プロセスを理解し、その特徴をわかりやすく説明できるようになることを目標とする。PCプロジェクターとパワーポイントを使用し、写真や図を活用しながらプレゼンテーション形式で進める。
		地誌学概説A	地誌学とは、地域を記述するとともに、地域から考えていく学問である。その基礎・基本を講義するとともに、地理教育に必要な地域のとらえ方や課題探究の方法についてもふれていく。Aではおもに世界各国の地域の実態や課題についてふれるとともに、地域に生活する人々がどのように諸課題に取り組んでいるかを考える。さらに国を越えた地球的課題についても取り上げる。最終的には受講者が具体的な地域をとりあげ、課題探究のための方法を習得することを目的とする。
		地誌学概説B	地誌学とは、地域を記述するとともに、地域から考えていく学問である。その応用・発展を講義するとともに、地域のとらえ方や課題探究の方法についてもふれていく。Bではおもに日本各地の地域の実態や課題についてふれるとともに、地域に生活する人々がどのように諸課題に取り組んでいるかを考える。最終的には受講者が具体的な地域をとりあげ、課題を設定し、調査するといった課題探究のための方法を習得することを目的とする。
		行政法概説A	私たちの周りには、生命、財産の安全や適切な生活環境が保たれるように様々な行政活動が行われている。こうした行政活動は公益の確保を目的として行われるが、時として私たちの権利を制約して一方的、形式的に行なわれることもある。そこで、こうした行政活動が不当に行われ私たちの生活を脅かすことのないよう法律によって行政を統制する原理が確保されている。この授業では、こうした行政活動を統制する法律である行政法について、その原理や基本的理念を学ぶ。
		行政法概説B	私たちの周りには、さまざま行政活動が展開され、それを適切にコントロールするために行政法が定められていること及びその基本的理念について行政法概説Aで学び理解していることを前提として、この授業では、こうした行政活動が不当に行われ、私たちの生活が脅かされた場合の救済の仕組みである行政不服申立てや行政訴訟の基本的理念やその発動の要件等について学ぶ。また、こうした行政活動により受けた損害の回復の仕組みである国家賠償や損失補償についても学ぶ。
		政治学概説A	この講義では、20世紀に存在した3種の政治体制（自由民主主義体制・社会主義体制・全体主義体制）の誕生と発展、およびこれらの体制間に生じた世界大戦や冷戦の展開などを歴史の流れに沿って概説する。その中では、特に自由民主主義体制の発展過程に焦点を当て、今日の先進諸国の政治の基盤となっている諸制度がいかなる経緯を経て発展してきたのかについて考察する。また国家形成・国民形成の過程についても概説し、現代のグローバリゼーション/ローカリゼーション、および移民問題などとの関連についても考察する。
		政治学概説B	この講義では、現代の先進諸国の政治の基本的な仕組みを理解することを目標として、政党・政党システム、選挙制度、立法府—行政府間の関係、中央—地方関係、福祉国家諸制度などの具体的な制度について、国ごとの差異を比較・考察する。また講義の後半では、70年代の石油ショック以後の政治・経済環境の変化に焦点を当て、グローバリゼーションと国民国家の揺らぎ、財政と社会保障制度のバランスの見直し、など現代の先進諸国が直面している諸問題についても概説を行う。

授 業 科 目 の 概 要				
(文学部歴史文化学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門 教育 科目	選択 科目	地方自治概説A	地方分権や市町村合併により地方自治をとりまく状況は大きく変化し、私たち自身のあり方、私たちが暮らす地域社会のあり方、さらには地方自治体のあり方が問われている。また、私たちと自治体との関係についても再構築が求められている。この講義では、地方自治をめぐる基礎的知識や思考様式を提供し、みなさんと一緒に考えていく。 なお、地方自治概説Aでは、総論的なテーマ、具体的には、広報・広聴、住民参加、市町村合併、地方分権改革、自治体議会、等について講義をおこなっていく。	
		地方自治概説B	地方分権や市町村合併により地方自治をとりまく状況は大きく変化し、私たち自身のあり方、私たちが暮らす地域社会のあり方、さらには地方自治体のあり方が問われている。また、私たちと自治体との関係についても再構築が求められている。この講義では、地方自治をめぐる基礎的知識や思考様式を提供し、みなさんと一緒に考えていく。 なお、地方自治概説Bでは、各論的なテーマ、具体的には、都市内分権、自治体職員の資質と能力、いくつかのまちづくりの実践、等について講義をおこなっていく。	
		行政学概説A	現代国家における政府の行政機構の働きを、政治システム全体の中に位置づけて理解することをめざす。そのために、現代の自由主義的民主主義体制における公共政策の立案・決定・実施・フィードバックのサイクルの中で行政機関が果たしている役割、個々の行政機関と執政部との関係、行政機関相互間の関係、行政機関と議会との関係、行政機関と利益集団との関係、行政機関と対象者の間の関係などにつき、実例にもとづいて理論的に整理する。	
		行政学概説B	現代国家における行政機構の作動上の特徴および諸問題について、主として、行政機構の活動が集团的・組織的活動であるという面から検討する。マックス・ウェーバーの官僚制組織についての理念型およびアメリカ行政学における古典的組織論について説明したうえで、現実の組織運営において観察されてきた現象（たとえばセクショナリズム、あるいはストリート・レベルの官僚制をめぐる諸問題など）について論じる。	
		社会学概説A	社会学の課題を「社会関係を焦点としつつ諸現象を解明すること」として捉え、その基本的発想が社会問題の解明と解決策の提言にどう寄与するかを示す。社会関係を構成する社会的行為に焦点を当て、その諸類型と、個々の行為類型を相互に比較することから導かれる論点（利害と理念、心情倫理と責任倫理、意識的動機と無意識的欲望など）を解説し、それらを適用するかたちで現今の日本社会が直面する諸問題を取り上げて分析し、解決策を探る。	
		社会学概説B	社会的行為を個人のうちで束ねる「役割」概念の諸相（役割取得の重要性と危険性、役割葛藤、役割距離など）を論じるとともに、社会集団を「役割のネットワーク」として捉え、社会集団が成立・持続・変容していくメカニズムを、役割の安定化効果と不確実性に焦点を当てつつ明らかにする。親密な小集団（家族等）、アソシエーション、官僚制などの集団諸類型を比較検討し、それぞれが社会において果たす機能と、個人に与える利得と負荷について検討する。	
		経済学概説A	本授業は、経済学のうち、外国との財・サービスの取引について考える国際貿易論について、理論的側面を学習する。ミクロ経済学概念・手法を用いて、国際貿易の構造と特徴を説明できることを目標とする。国際貿易の理論に関する教科書を輪読し、事前に決められた報告者がレジュメを作成、準備し、発表を行うことを授業の形態とする。教員はそれを受けて、補足説明を行い、受講生全員で問題点等についてディスカッションを行う。取り上げるトピックとして、比較優位と国際貿易、不完全競争下における貿易政策等があげられる。	
		経済学概説B	「経済学概説A」を承けて、本授業では歴史、制度的面を学習する。第一に国際貿易モデルを応用・分析し、考察することで、現実の国際貿易問題に対する自分の意見を述べるができる、第二に現代の国際貿易システムが内包している諸問題を批判的に検討し、今後の国際貿易システムの姿について議論した上で、自分の意見を述べることを目標とする。授業の形態は概説Aを踏襲する。取り上げるトピックスとして、日本のTPP参加問題、WTO・FTA交渉と農業問題等があげられる。	
		哲学概説A	本講義では、「哲学とは何か」についてのたんなる知識だけではなく、客観的理解に基づいた主体的考察を特徴とする自由な学としての哲学の本質を伝えることを目標とする。そのために授業計画では、哲学史・哲学諸分野の学説の紹介に加え、自由論述を課して受講者の積極的参加を促す。哲学概説Aでは、とくにソクラテス以前の哲学の始原に遡り、哲学者たちが挑んだ知の変革を受講者にも追体験してもらおう。授業形態は、講義を基本としつつも、受講者の討議を適時加える。	

授 業 科 目 の 概 要 (文学部歴史文化学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門 教育 科目	選 択 科 目	哲学概説 B	授業目標と授業形態は、哲学概説 A と同じ。哲学概説 B の授業計画では、とくに17世紀の科学革命とそれに伴う知の地殻変動を分析するために、デカルト、パスカルの詳細な読解を通して「哲学する」ことの実践的訓練を行う。その体験を踏まえて現代の諸問題について、さまざまな思考実験を試み、その知見を元に独断的世界観と独善的人間観を超えた新たな哲学知の可能性を考察する。	
		倫理学概説 A	臓器移植や環境問題といった具体的問題に関わる「応用倫理学」が注目を浴びて久しい。しかし、こうした場面であっても、それが医学でも法学でも社会学でもなく、高校の科目である「倫理」とも異なる、「倫理学」という独自の学問的立場からのアプローチであることの意味を理解していることが大前提となる。つまり、そもそも「倫理的にものを考えるとはどういうことか」について、ひととおりの理解を得ておく必要がある。本講義では、この点をめぐって、指定教科書（前半）に沿って考えていく。	
		倫理学概説 B	「倫理学概説 B」では、「倫理学概説 A」に引き続き、「倫理的にものを考えるとはどういうことか」について、ひととおりの理解を得ることを目指す。その際、主として18世紀の思想家イマヌエル・カントの倫理思想を題材とする。具体的には、「倫理学概説 A」で使用する指定教科書（後半）に沿って考えていく。また、教科書で直接扱われない話題についてもプリント等で適宜補足する。	
		教科教育法（社会） A	中学社会科の教育法について、教科としての社会科の存在意義や、社会科教員にもとめられる資質などについて考え、そうした理念を基礎に、明確な教材観と指導方法に基づいた授業づくりを学ぶ。また、学生が受講した当時の中学社会とは、学習指導要領の内容・教科書の内容に差がでているので、中学校高等学校で学んだ社会科の内容をふりかえりつつ、再学習を行い、討論などをおこない、教材への理解を深める。そのことにより、より深い教材観を養える様にする。	
		教科教育法（社会） B	中学社会科の教育法について、学習指導要領をふまえた「社会科」の意義と目的について明言できるようにする。中学校教科内容に基づいた教材作り、特にアクティブラーニング教材作成について、実践的に、かつ深く学ぶ。中学校社会の内容に基づいた、また、中学生対象とした博物館利用法、施設見学法などについても具体的な指導法について学ぶ。さらに、野外調査や文献調査法についても、義務教育の範囲での安全性も踏まえた上での指導法について学ぶ。	
		教科教育法（社会） C	「教科教育法（社会） A・B」をふまえ、自分なりの課題を持って、社会科教育の目標を理解し、教育実践の事例を分析し、社会科の授業プランを作成できるようにする。地理・歴史・公民それぞれの分野において、新聞などを使った近代的・社会的な問題の教材化についても学ぶ。社会科を通じて、将来の市民としての自覚を促すとともに、国内外の現代的な社会問題にも目を向けて議論できるようにする。グローバル化社会に対応できる社会科教員としての基礎的な学力を養成する。	
		教科教育法（社会） D	「教科教育法（社会） A・B」をふまえ、自ら立てた授業計画をもとに、学習指導要領にそった年間指導計画・学習指導案を作成できるようにする。さらに、社会科見学・修学旅行などを利用した年間指導計画のたて方、生徒の学力状況をふまえた学習指導案の作成、模擬授業などを実際に行い、相互評価しあうことを通じて、具体的な指導方法のスキルの向上を図る。板書の書き方、インターネットの利用法などにもふれ、社会現象や社会問題を教材として用いることができるようにする。初等教育社会との系統性についても学ぶ。	
		教科教育法（地理歴史） A	高校地理歴史分野について、創造的な授業づくりの基礎を培う。社会科の全体像を視野に入れつつ、教科研究、授業研究、研究課題の探求をおこない、理論と方法の両面を身につける。中学社会からの系統を学び、また、他教科との比較も行い、総合的な高校地理歴史分野の内容について、深く理解できるようにする。地理については、地図の読み方、教材作成のしかたなどについても学ぶ。歴史については、高校時代の学習空白域を埋め、世界史・日本史双方について再学習する。	
		教科教育法（地理歴史） B	高校地理歴史分野の年間指導計画・学習指導案・模擬授業案の作成を行う。さらに、模擬授業と相互評価・討論をとおして、学びの継続性と学びの協同性を体得する。アクティブラーニング教材となるような、野外調査や文献調査の教材開発についても学ぶ。世界史・日本史さらに地理情報を総合的に学び、それぞれの関連性についても討論を行い、学びを深める。さらに、公民分野との関連性についても学び、歴史総合に対応できる様な近代史の指導法についても理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要 (文学部歴史文化学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	(活動 コース)	フィールドワーク A 本学への新入の留学生を対象にして、日本人学生（本学東松山キャンパス）について、実際に日本人学生にインタビューをして理解する。授業では、毎回さまざまなトピックを取り上げ、日本人学生の回答と留学生の回答の比較から、日本人学生の大学生活を送る上での価値観について、クラス全体で考えていく。コースの最後に、授業で考えた内容を参考に自分なりの日本人学生へのメッセージを発表してもらい、その発表の内容を日本語のレポートにして提出してもらう。	
	フィールドワーク B 本学入学後半年ないし1年以上の留学生を対象にして、日本人学生（本学東松山キャンパス）について、実際に日本人学生等にインタビューをして、より理解を深める。授業では、毎回さまざまなトピックを取り上げ、日本人学生の回答と留学生の回答の比較から、日本人学生の大学生活を送る上での価値観について、クラス全体で考えていく。コースの最後に、授業で考えた内容を参考に自分なりの日本人学生へのメッセージを発表してもらい、その発表の内容を日本語のレポートにして提出してもらう。		
外国人留学生に関する日本語科目等	(内容 コース)	日本の政治・経済・社会 A 近代日本が生んだ政治学・経済学等の名著を輪読し内容について討論する。受講者は毎回、次回部分を予習（500～800字の日本語で要約、重要だと思った文章、心の残った文章を数か所抜書き）して授業にのぞみ、授業では、教員がその部分の内容をかみくだいて説明する。社会科学の日本語を学ぶことで、日本語の専門的な研究書を読解するための日本語力を習得すること、社会科学をめぐる基礎知識を取得することを目的とする。	
	日本の政治・経済・社会 B 近代日本が生んだ文化人類学・民俗学等の代表的な著作を輪読し内容について討論する。受講者は毎回、次回部分を予習（500～800字の日本語で要約、重要であると思った文章、心の残った文章を数か所抜書き）して授業にのぞみ、授業では、教員がその部分の内容をかみくだいて説明する。社会科学の日本語を学ぶことで、日本語の専門的な研究書を読解するための日本語力を習得すること、社会科学をめぐる基礎知識を取得することを目的とする。		
	日本の文化・芸術 A この授業では、色々な切り口から「日本の文化」について考える。社会とライフスタイルに関するトピックを中心に、「日本文化」とは何なのか、その特徴や時代による変化、それが与える影響などについて考える。日本の文化に関する理解を深め、広い視点から考える力を身につける、様々な文化のあり方を理解できることを目的とする。トピックに関する講義と、それに関するディスカッションを行う。授業への積極的な参加を期待する。		
	日本の文化・芸術 B この授業では、色々な切り口から「日本の文化」について考える。「日本の文化・芸術 A」からさらに発展させ、社会とライフスタイルに関するトピックを中心に取り上げながらも、「日本文化」とは何なのか、その特徴や時代による変化、それが与える影響などについて、より考察を深める。日本の文化に関する理解を深め、広い視点から考える力を身につける、様々な文化のあり方を理解できることを目的とする。トピックに関する講義と、それに関するディスカッションを行う。授業への積極的な参加を期待する。		
	日本の歴史 A 古代から近世に至るまでの日本の歴史を、主な歴史的出来事や人物に焦点を当てながら紹介する。世界の中における日本という視点から、当時の日本社会について年代順に理解を深める。近世までの日本の歴史の流れを理解することが出来ること、当時の社会を形作った重要な出来事や思想、そしてその影響について理解を深めることが出来ることを目標とする。基本的に講義形式で行うが、簡単なディスカッションも含まれる場合がある。		
	日本の歴史 B 古代から近現代までの日本の歴史を、主な歴史的出来事や人物に焦点を当てながら「日本の歴史 A」では取り上げられなかった出来事や人物を紹介し、さらに日本の歴史について理解を深める。世界の中における日本という視点から、当時の日本社会について年代順に理解を深める。日本の歴史の流れを理解することが出来ること、当時の社会を形作った重要な出来事や思想、そしてその影響について理解を深めることが出来ることを目標とする。基本的に講義形式で行うが、簡単なディスカッションも含まれる場合がある。		
	現代日本の諸相 A 現代の日本社会に見られる様々な社会現象や問題を学生に紹介し、それらについて、読解やディスカッションをもとに、日本人の視点だけでなく外国人の視点も加えた、多角的な観点で考察する。現代日本社会が直面する重要な問題に意見できるようになることを目的とする。授業は英語を使用する。		

授 業 科 目 の 概 要			
(文学部歴史文化学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国人留学生に関する日本語科目等	(内容コース)	現代日本の諸相B	「現代日本の諸相A」で紹介したトピックに加え、現代の日本社会に見られる様々な社会現象や問題を学生に紹介し、それらについて、読解やディスカッションをもとに、日本人の視点だけでなく外国人の視点も加えた、多角的な観点で考察する。現代日本社会が直面する重要な問題に意見できるようになることを目的とする。授業は英語を使用して行う。
	(言語コース(発展))	理解とコミュニケーションA	大学の授業で発表をしたり、質問や意見を述べたりするために必要な基礎力を身につけ、日常生活でのコミュニケーション能力を上げる。そのために、新聞や雑誌等日本語で書かれたものを読み解く練習や、大学の授業での教員の講義や学生の発表の聞き取り、日常生活の様々な場面でのアナウンスや会話、書かれたもの等、生教材をもとに学習し練習する。本授業ではスピーチを主とし、多くの課題の発表に結びつけたペアワークやグループワークの活動に重きを置く。大学の授業に必要な、学生、教員間での聴解、読解、要約、ペアワーク、グループ学習、発表、発表を聞いて意見を言う、討論等のコミュニケーション能力を身につけることを目的とする。
		理解とコミュニケーションB	大学の授業で発表をしたり、質問や意見を述べたりするために必要な基礎力を身につけ、日常生活でのコミュニケーション能力を上げる。そのために、新聞や雑誌等日本語で書かれたものを読み解く練習や、大学の授業での教員の講義や学生の発表の聞き取り、日常生活の様々な場面でのアナウンスや会話、書かれたもの等、生教材をもとに学習し練習する。本授業ではプレゼンテーションを主とし、自分で決めたテーマの研究発表に結びつけた文献調査や質問紙調査、データ収集、分析、まとめの活動に重きを置く。研究発表のために必要な聴解、読解、要約、ペアワーク、グループ学習、発表、発表を聞いて意見を述べる、討論等のコミュニケーション能力を身につけることを目的とする。
		資料・文献読解A	日本語の文章の構造を意識しながら読むことを学ぶ。そのために、文章についての自分なりの「問い」を立て、その答えを探しながら読むための読み方(ストラテジー)を、クラスで話し合いながら練習する。特に、著者の主張が比較的分かりやすい短めの文章を使って、自分の読み方を意識する。文章の構造を読みとりながら内容を読み進めるストラテジーを身につけること、語彙や表現などの資料や文献の読解に必要な知識を増やすことを目的とする。
		資料・文献読解B	日本語の文章の構造を意識しながら読むことを学ぶ。そのために、文章についての自分なりの「問い」を立て、その答えを探しながら読むための読み方(ストラテジー)を、クラスで話し合いながら練習する。特に、著者が主張を構成的に組み立てている比較的長めの文章を使って、自分の読み方を意識する。文章の構造を読みとりながら内容を読み進めるストラテジーを身につけること、語彙や表現などの資料や文献の読解に必要な知識を増やすことを目的とする。
		日本語文章表現A	大学生として、また卒業後、社会で活躍するため、最低限身につけておかなければならない基礎的な日本語力およびレポートや小論文の書き方を養うことを目標とする。演習では毎回、テキストおよび毎回配付するプリント(漢字を含む)の練習問題を通して基礎力のアップを図っていく。また、原稿用紙等を書く作業を通して文章力アップを目指す。基本的な敬語を意識して使えるようになること、話し言葉と書き言葉を区別できるようになること、意見文を書けるようになることを目的とする。
		日本語文章表現B	大学の授業等で使われる文章表現を学習し、レポート、論文作成に必要なアカデミックリテラシー(読み書き能力)を身につける。前半の回では演習方式で様々な種類の文章を書く練習をし、後半の回でレポートの書き方を実際にレポート作成を通して学ぶ。レポート・論文作成に必要なアカデミックライティングの能力を習得すること、大学生として適切な語彙、文型を拡充することを目的とする。

設置の趣旨等を記載した書類 目次

①	設置の趣旨及び必要性	1
②	学部・学科等の特色	3
③	学部・学科等の名称及び学位の名称	3
④	教育課程の編成の考え方及び特色	4
⑤	教育組織の編成の考え方及び特色	8
⑥	教育方法、履修指導方法及び卒業要件	9
⑦	施設、設備等の整備計画	11
⑧	入学者選抜の概要	15
⑨	取得可能な資格	19
⑩	実習の具体的計画	19
⑪	企業実習（インターシップを含む。）や海外語学研修等の学外実習を 実施する場合の具体的計画	21
⑫	2以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画	23
⑬	管理運営	23
⑭	自己点検・評価	24
⑮	情報の公表	25
⑯	教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	27
⑰	社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	29

① 設置の趣旨及び必要性

1. 設置の趣旨及び必要性

昨今、平成32年の東京オリンピック開催を待たずして増加し続ける訪日外国人を始めとして、さまざまな国の人々と触れあう機会が増え、日本企業も海外進出が増えてグローバル化しつつある。このように、世界との間の垣根がますます低くなっていく時代だからこそ、あらためて未来指向の「歴史文化」という確かな拠り所の必要性が増している。例えば、インバウンドの観光客に日本の魅力を十分に知ってもらうには、まずは自ら日本の歴史・文化を深く知らなければならないし、観光客の文化的背景を知らなければ、相手が分かるようにそれを伝えることはできないからである。

このような社会の急激な変化に対して対応を迫られているのは、伝統的な「歴史学」も例外ではない。そこで、もちろん日本史を中心とする狭義の歴史学の確固たる地歩の上には、従来狭い「歴史学」の枠を超えて、文化を始めとした世界への広がりや観光を中心とする地域社会への応用も必要と考える。

そもそも、本学は「東西文化の融合」を建学の精神として、大正12年に前身の大東文化学院が開学して以来、具体的な文化としては東洋を中心に教育・研究を重ねてきたが、西洋文化も含む歴史分野において、それを追求できる専門学科を擁してこなかった。しかし本来、世界の歴史・文化を理解しなければ、日本のその本当の理解もかなわないはずである。そこで今回、建学以来の文学部を中心とするこれまでの関連領域の94年間の蓄積の上に立って、歴史分野においても社会的需要に応えようとするものである。

歴史文化学科を設置する文学部は、その教育研究上の目的を「人文諸科学に関する学識を修めることを通し、広い識見と深い洞察力をもち、人間の生き方やあり方を考究し、多様な現代社会ならびに国際社会の諸問題に対応できる人材を養成すること」とし、それに基づいた教育研究活動を行っている。その範囲は、文学分野はもとより、哲学・歴史・文化を取り扱う人文諸科学に及ぶ。歴史や文化に関する学識を修めるには、地域、国家や言語の枠を超えて、民族、宗教、習慣などを研究することが重要であるが、現在の日本文学科、中国文学科、英米文学科という学科体制は、地域と言語によって専攻が区分されており、総合的に歴史や文化を学修することが難しい。文学部内に本学科を設置することでこのような状況を改善し、逆に文学が取り扱ってきた分野においても、歴史文化的なアプローチが可能になり、文学部全体として学問の幅が広がるとともに、文学部のディプロマ・ポリシーに謳っている「国際社会に対する広い識見をもとに、周囲と力を合わせ、未来を創造していく過程に参加することができる」人材の育成に、さらに資することができる。と考える。

また、本学は最寄り駅の東武東上線高坂駅と東武練馬駅から、それぞれスクールバス10分程度の距離にある埼玉県東松山市と東京都板橋区にキャンパスを有しているが、ちょうどその中間に位置する埼玉県の川越市を始めとして、周辺には歴史文化に根ざした観光地

を数多く抱えている。しかし、これまでこうした観光地と歴史学との連携はほとんど取られてこなかった。そこで今回、それぞれの観光地を対象に歴史学と観光学を融合した教育研究を行い、この2分野間の橋渡しをすることで地域社会に貢献しようとするものである。

このような新たな試みをするためには、学問上の確かな礎に立つ必要がある。その要となるのが、やはり東西文化と観光歴史学の間立つ日本史である。日本全体の歴史理解を踏まえなければ、広く世界や日本の各地域の理解もできないからである。元々、日本史を中心とする歴史分野は、恒常的に一定の進学希望者が見込める分野だが、グローバル化と観光立国化が進む昨今の社会的状況を十分に踏まえて、平成30年4月より日本史を中心に東西文化と観光歴史学の領域と連携した、歴史文化学科を文学部に設置することにした。

2. 中心的な学問分野：歴史文化学

3. 養成する人材像（ディプロマ・ポリシー）

(1) 教育研究上の目的

歴史・文化に関する学識を修め、世界の中の日本を自覚し、多様な現代社会に対応できる能力を有する人材の養成を目的とする。

(2) ディプロマ・ポリシー

歴史文化学科は、卒業に必要な単位を取得し、以下に示すような能力を備えていると認められる学生に、卒業の認定を行い、学士（歴史文化学）の学位を授与する

1. 人文分野を始めとして、社会・自然分野に及ぶ確かな知性と鋭い感性を備えた、豊かな人間性を陶冶することができる。
2. 世界、日本、地域の歴史・文化に関する豊富な学識を修め、歴史的思考力を縦横に駆使して、それを行動の拠り所とすることができる。
3. 現代の多様な課題の発見・解決に主体的に取り組み、歴史文化学科で修得した専門性を総合して、新たな価値の創造に柔軟に活かすことができる。
4. 国際化が進む社会において、異なる立場にある者とも相互理解の上に立って、十分なコミュニケーションを取りながら、協働することができる。

(3) 卒業後の進路等

一般企業、旅行代理店、出版業界、教育・学習支援業、地方公務員、博物館の職員、図書館・学校図書室の職員、中学・高校の教員

② 学部・学科等の特色

「わが国の高等教育の将来像」（平成 17 年度中央教育審議会答申）に掲げられた「高等教育の多様な機能」のうち、③幅広い職業人養成が本学科の最も基本的な役割である。また、④総合的教養教育、⑦社会貢献機能もあわせて担っている。このことを踏まえ、歴史文化学科の特色を以下に述べる。

歴史文化学科では、「世界の中の日本」を自覚した、歴史文化学の専門能力を備えた人材を育成する。1 年次の「歴史文化学入門」を始めとする学科全体で共通する基盤の上に、学科全体の要としてオーソドックスな歴史を堪能できる日本史コース、本学の建学の精神である「東西文化の融合」を広く世界史分野で進める東西文化コース、歴史学分野では珍しい観光分野と融合した観光歴史学コースという、あまり類例を見ない顔ぶれのコースを用意して、世界・日本・地域の歴史文化が統合的に学べるようになっている。特に、ただ受け身の姿勢で授業を受けるだけではなく、自ら関心をもって学びとっていく姿勢を養うために、少人数の演習等による実践的な教育に力を入れる。

具体的には、2 年次にコース分けを行って、日本史コースでは自国の歴史を多様な観点から学び、東西文化コースでは主に「世界の中の日本」という視点で世界の歴史・文化を学び、現代の理解につなげる教育を、観光歴史学コースでは地域社会・自治体・企業との協働プロジェクトなど、フィールドワークを取り入れた教育を行うとともに、外国語教育など観光分野の人材育成と「国内旅行業務取扱管理者」資格取得支援を行う。早い段階から、自分の関心に近い専門分野を学べるのが本学科の特色だが、それと同時にコース分け後も 3・4 年次まで一貫して、他コースの授業も多く選択することが可能である。

③ 学部・学科等の名称及び学位の名称

本学科では、日本史を要として、広く東西文化や観光という文化を中心とする領域と関連づけて歴史学を教育研究するため、学科名称を「歴史文化学」とする。英語名称は、当該分野の国際的慣例に照らして、「Department of History and Culture」とする。同じく、学位の名称は「学士（歴史文化学）」とし、英語名称は「Bachelor of History and Culture」とする。

学科の名称	歴史文化学	「Department of History and Culture」
学位の名称	学士（歴史文化学）	「Bachelor of History and Culture」

④ 教育課程の編成の考え方及び特色

1. カリキュラム・ポリシー

歴史文化学科では、①3. のディプロマ・ポリシーで挙げた修得目標を実現するため、全学共通科目カリキュラム・ポリシー（【資料1】）、外国語科目（英語）カリキュラム・ポリシー（【資料2】）、外国語科目（英語以外）カリキュラム・ポリシー（【資料3】）及び以下の歴史文化学科カリキュラム・ポリシーに基づいて、カリキュラムを編成する。

1. まず、1年次の専門必修科目である「歴史文化学入門A・B」において、歴史文化学全般の導入教育を行い、1年次からの基礎的訓練の動機づけを図る。同時に、専門基礎科目で日本史、東西文化、観光歴史学の各コースの概要を周知し、専門支援科目で各コースの専門教育を支援する専門的な言語運用能力の養成を図ることで、2年次からのコース分けに備える。
2. さらに、1年次から2年次にかけては、語学科目を中心とした基礎教育科目で、国際社会に通用する国際感覚を身につけるとともに、専門教育の基礎となる多様な一般的語学力を身につける。また、多様な現代社会の諸問題に対応できるように、学科の枠を超えた全学共通科目で、人文・社会・自然諸科学にわたる幅広い教養の形成を図る。
3. そして、2年次には、専門教育として1年次に続いて専門支援科目の学修を深めると同時に、専門必修科目の「基礎演習」において、それぞれの関心に応じた演習科目を配当する。講義科目としても、1年次からの専門基礎科目に加え、コース分けが行われた後なので、学生が選択したコースに関する様々な専門的領域の研究成果を提示する研究科目を用意する。
4. 3年次では、2年次までの基礎的教育の学習成果を発展させて、専門科目を学ぶ。なかでも、専門必修科目の「専門演習」で、各コースそれぞれの専門性に応じた演習が行われる。このように、主体性、創造性や協働性を養うために演習を重視する本学科の立場から、3・4年次には他にも、各コース独自の演習・実習科目を提供する。
5. 3・4年次では、各コースの発展的内容を持つ多様な講義科目を設けて、学生の専門領域の学識を深めるとともに、他領域との交流・比較も行うことで、アナロジーやシナジー効果などによる、さらなる発展を図る。このように、本学科は2年次という比較的早い時期に各専門コースに分かれるという特徴を持つが、同時に3・4年次にいたるまで一貫して、多数の他コースの授業も受講できるという特徴もあわせ持っている。
6. 4年次では、4年間の学問研究の集大成として、「卒業研究」が行われる。各自が

指導教員のもとで、自分のコースの学問領域の中で、さらに特定の専門領域を選択して、これまでの学習成果を自らが選んだ具体的な研究テーマの深化のために活用していく。

2. 各科目区分と教育目標（ディプロマ・ポリシー）との主要な対応関係（カリキュラムマップ）

科目区分／修得する能力	人間性・ 教養	専門性・ 思考力	主体性・ 創造性	国際性・ 協働性	
全学共通科目	◎				
基礎教育科目				◎	
専門教育科目	専門必修科目		◎	○	
	専門支援科目		○	◎	
	専門基礎科目		◎		
	各コース科目 （講義）		◎		
	各コース科目 （演習）			◎	○
	各コース科目 （実習）			◎	○

◎ 主に該当する。

○ 該当する。

3. 必修科目・選択必修科目・選択科目の構成とその理由

歴史文化学科では、教育目的を達成するため、教育課程を全学共通科目、基礎教育科目、専門教育科目で編成する。全学共通科目とは、豊かな人間性を涵養するために、人文・社会・自然諸科学にわたる幅広い教養の形成を図るための科目である。基礎教育科目とは、国際化が進む社会において必要とされる国際性を身につけるため、外国語の運用能力を高めるための科目である。専門教育科目とは、歴史文化学の専門性を身につけるための科目である。具体的には、歴史・文化に関する豊富な学識を修めて、歴史的思考力を養成し、多様な課題の発見・解決に活かす創造性を養うための科目である。

専門教育科目には、学科全体で共通する科目と日本史、東西文化、観光歴史学の3コースごとのコース科目がある。共通する科目としては、専門必修科目、専門支援科目、専門基礎科目がある。専門必修科目とは、1年次から4年次までの全学年に配置され、歴史文化学科の学生全員が共通して修得しなければならない基幹科目である。とりわけ、「卒業

研究」は4年間の学問研究の集大成として、自ら発見した課題を解決に導く過程を実践する最重要科目である。専門支援科目とは、専門必修科目やコース科目を修得するために必要な専門的言語を習得するための科目である。専門基礎科目とは、歴史文化学の専門領域における、コースを超えて選択する概説・概論科目のことである。

コース科目とは、日本史、東西文化、観光歴史学の発展的な内容の専門教育科目である。なかでも、各コースの最新の専門的研究成果を提示する研究科目を中心とする講義科目、協働してコースの史資料の扱い方に習熟する演習科目、協働してコースの理論的知識や能力を実践に応用する能力を身につける実習科目に分けることができる。

以上の3つの科目区分（全学共通科目、基礎教育科目、専門教育科目）のそれぞれの科目は、履修方法の観点から必修科目、選択必修科目、選択科目に分類される。必修科目とは、歴史文化学科の学生全員が共通して修得しなければならない科目である。選択必修科目とは、歴史文化学科の学生全員が複数の科目のうち、一定以上の科目を必ず修得しなければならない科目である。選択科目とは、歴史文化学科の学生が選択できる科目である。

4. コースツリー（年次シーケンス）

歴史文化学科は、入学時は学科全体で1つの共通の枠しかない。従って1年次では、学科全体で共通の学修の基礎を学ぶとともに、2年次から3つのコースに分かれていくのに備えて、各自の関心や適性を見きわめるための期間と位置づけられる。

具体的には、まず専門共通科目の「歴史文化学入門A・B」で初年次教育を行い、大学生活のスタートを切るとともに歴史文化学共通の研究入門を行う。同時に、講義科目の「日本史概説A・B」、「日本考古学概説A・B」、「観光歴史学概論A・B」を始めとする専門基礎科目で日本史、東西文化、観光歴史学の各コースの概要を知って、その基礎を身につけることでコース分けに備える。特に、1年次からの幅広い研究分野に対応して、東西文化コース関連科目として、10科目の専門基礎科目（「西洋史概説A・B」「東洋史概説A・B」「宗教学概説A・B」「西洋文化概論A・B」「東洋文化概論A・B」）を用意している。そして、専門支援科目で専門教育を支援する専門的な語学力を身につける。さらに、語学科目を中心とした基礎教育科目で、国際社会に通用する国際感覚を身につけるとともに、専門教育の基礎となる実用的語学力を身につける。また、多様な現代社会の諸問題に対応できるように、学科の枠を超えた全学共通科目で、人文・社会・自然諸科学にわたる幅広い教養の形成を図る。

2年次では、1年次からの全学共通科目と基礎教育科目を修めるとともに、専門教育を本格化させる。具体的には、1年次から引き続いて専門支援科目を深めるとともに、2年次からは専門共通科目の「基礎演習」で、それぞれの専門的関心に応じた演習が始まる。それによって、具体的な文献資料にじっくりと接することで、資料の扱い方の基本を習得する。講義科目としては、1年次からの専門基礎科目を修めるとともに、各コースの最新の専門的研究成果を提示する研究科目が始まる。日本史コースでは、古代・中世史関係科

目（「日本古代・中世史研究A・B」）と近世・近代史関係科目（「日本近世・近代史研究A・B」）のように、それぞれ2科目ずつに大別できるが、日本史コースの史料重視の専門的特徴に鑑みて、それぞれ2科目ずつの演習科目（「日本古代・中世史史料講読A・B」「日本近世・近代史史料講読A・B」）も配置されている。東西文化コースでは、西洋史系4科目（「西洋古代・中世史A・B」「西洋近世・近代史A・B」）、東洋史系4科目（「東洋古代・中世史A・B」「東洋近世・近代史A・B」）に大別される。また、観光歴史学コースでは、6科目の研究科目（「世界遺産と観光研究A・B」「旅行業・観光事業の現状と課題研究A・B」「観光と現代社会研究A・B」）に加えて、概論科目も2科目（「旅行業務概論A・B」）用意されている。

3年次では、キャンパスも東松山キャンパスから板橋キャンパスに移動することで、歴史文化学科の独自開講科目としては、専門教育科目のみが開講される。なかでも、専門共通科目の「専門演習」で、各コースそれぞれの専門性に応じた演習が行われる。それによって、専門的な史資料にじっくりと接することで、その扱い方に習熟する。3・4年次では、日本史コースでは、2年次に引き続いて演習科目が配置され、古代・中世史関係と近世・近代史関係、それぞれ2科目ずつの史料演習（「日本古代・中世史史料演習A・B」「日本近世・近代史史料演習A・B」）が配置されている。東西文化コースでは、その幅広い研究対象領域に対応して、コース科目の史料演習も西洋史系科目1科目（「西洋史史料演習」）、東洋史系科目1科目（「東洋史史料演習」）が開講される。観光歴史学コースでは、コースを代表する特徴的な実習科目（「観光歴史学実習A・B」）が配されるとともに、1・2年次に引き続いて、観光歴史学コースの専門支援科目4科目（「上級観光英語A・B」「添乗英語A・B」）も開講される。

3・4年次の講義科目であるが、日本史コースでは、古代・中世史関係4科目（「鎌倉時代史研究A・B」「戦国時代史研究A・B」）と近世・近代史関係5科目（「江戸文化史研究」「明治維新史研究A・B」「昭和史研究A・B」）が開講されるとともに、関連する内容に演習科目1科目（「江戸文化史演習」）も用意されている。東西文化コースでは、2年次にすでに開講されていた西洋史系科目、東洋史系科目がそれぞれ2科目ずつ（「ギリシア・ラテン文化史研究」「キリスト教史研究」と「仏教史研究」「中国文化史研究」）が開講されるとともに、新たにこの西洋と東洋相互の交流史を扱う東西交渉系科目が6科目（「宗教史研究」「現代史研究」「交流史研究A・B」「シルクロード史研究A・B」）が開講される。東西交渉系科目としては、この研究科目に加えて「比較文明論演習A・B」を含む4科目の演習科目も用意されているが、なかでも英語を中心とする外国語だけで行われる「東西文化特別演習A・B」が特徴的である。観光歴史学コースでは、6科目の研究科目（「日本観光史研究A・B」「世界観光史研究A・B」「ミュージアムと観光研究A・B」）に加えて2科目の概論科目（「博物館概論A・B」）が開講される。本学科は、2年次という比較的早期に各専門コースに分かれる特徴を持つが、同時に3・4年次にいたるまで一貫して、多数の他コースの授業も受講できるという特徴を持っている。

そして、4年次では4年間の学問研究の集大成として「卒業研究」が行われる。各自が指導教員のもとで、自分のコースの学問領域の中で、さらに特定の専門領域を選択して、これまでの学習成果を自らが選んだ具体的なテーマの深い研究のために活用していく。その研究成果の発表方法は、研究領域によって異なり、日本史コース、東西文化コースは論文の形にまとめて「卒業研究」として提出する。観光歴史学コースの「卒業研究」は、プレゼンテーションという形で発表する（【資料4】）。

⑤ 教員組織の編成の考え方及び特色

歴史文化学科では、組織として研究の対象とする中心的な学問分野を歴史文化学としており、教育課程の編成においては、日本史と東西文化、観光歴史学を主な対象領域とする構成としていることから、教員組織の編成においては、対象とする領域の授業科目数や単位数に応じて、各専門分野における教育上及び研究上の優れた知見、能力及び実績を有する教授4人及び准教授5人を配置する（9人のうち、学内での異動が4人、新規採用が5人）。

主な対象領域における専任教員の配置については、「日本史コース」の准教授2人、「東西文化コース」の教授2人、准教授2人、「観光歴史学コース」の教授1人、准教授1人の他に、この3分野に共通する関連分野の地理学の教授1人を配置することとし、教員組織の年齢構成については、40代2人、50代5人、60代2人から構成される。特定の年齢層に偏ることのないようにしており、教育研究水準の維持向上や教育研究の活性化に支障がない構成となるように配慮している。

歴史文化学科は、1、2年生が埼玉県東松山キャンパス、3、4年生が東京都板橋キャンパス（両キャンパスとも東武東上線の最寄り駅からスクールバスを運行している。東松山キャンパスと板橋キャンパスとの移動に要する時間は、スクールバスと電車を利用した場合、90分程度である。）で主として授業を受けるが、本学科の9人の専任教員のうち2人は、主に東松山キャンパスで開講される全学共通科目を担当するため東松山キャンパスに研究室を有し、他の7人は主に板橋キャンパスで開講される専門教育科目を担当するため、板橋キャンパスに研究室を有する。東松山キャンパス所属の教員も、最大で週3コマまで板橋キャンパス開講科目を担当し、板橋キャンパス所属の教員も、週2コマ程度、東松山キャンパス開講科目を担当するが、いずれも週1日以内で収まる数であるので、キャンパス間の移動には全く問題ない。また、たとえ同日に両方のキャンパスで授業を担当せざるをえない場合でも、その授業間で1コマ分相当の時間で十分移動が可能である。

専任教員の人数配分

コース/職位	教授	准教授
日本史	0	2(2)
東西文化	2(1)	2(1)
観光歴史学	1(1)	1(1)
地理学	1	0
合計	4(2)	5(4)

() は博士学位保有者

⑥ 教育方法、履修及び卒業要件

1. 教育方法

(1) 授業の方法

本学科における授業方法は、知識の理解を目的とする教育内容については、講義形式を中心とした授業形態を採るとともに、意欲・関心、課題発見・解決、及び技能の習得を目的とする教育内容については、演習形式による授業形態を採ることとし、また理論的知識や能力を実践に応用する能力を身につけることを目的とする教育内容については、実習形式による授業形態を採ることとする。

(2) 学生数の設定

授業内容に応じた学生数の設定については、授業科目ごとの授業形態に即した教育目的を効果的に達成するために、講義形式の授業は 50 人から 120 人、演習形式の授業は 10 人から 25 人、実習形式の授業は 15 人から 30 人とする。

(3) 配当年次

配当年次は、基礎から発展へと体系的な学修が可能となるようにするとともに、特に専門教育においては、専門分野の教育内容ごとに、知識、技能、応用といった授業の内容と科目間の関係や履修の順序に留意するとともに、4 年間における単位制度設計の観点から、特定の学年や学期において偏りのある履修登録がなされないように配慮した配当としている。

(4) 履修科目の登録上限 (CAP 制)

単位制度の実質化を図る観点から、学生の主体的な学習を促し、授業内の学習と授業外の学習をあわせた充実した授業を展開することにより、学習効果を高めるために、登録上限 (CAP 制) を設けて、卒業要件科目の 1 学年あたりの履修単位数の上限を 1 年次～ 3

年次 44 単位、4 年次 49 単位とする。

(5) 厳格な成績評価

卒業時における学生の質を確保する観点から、学生に対してあらかじめ各授業における到達目標やその目標を達成するための授業方法、計画等を明示したうえで、成績評価基準や卒業認定基準を提示し、これに基づいて厳格な評価を行う。そのために、GPA 制度を導入して、客観的な評価基準を適用する。

(6) 学生向けインターネットポータルサイト (DB ポータル) の活用

学生への連絡手段として使うものは、学生向けインターネットポータルサイト (DB ポータル) を活用するものとし、学生へのアナウンス、講義連絡、休講情報の掲示などを一元化して行う。またポータルサイトでは、電子ファイルによる資料配付や課題提出も可能となっていて、学生の指導に活かすことで効率的な授業運営を行うことができる。

2. 履修指導方法

本学科における履修指導方法は、教員が学生の相談に応じるオフィスアワーを設けて、きめ細やかな教育指導を行う体制を整えるとともに、毎年の履修登録を行う前に学年別に履修ガイダンスを実施し、学生の適性や能力に応じて履修科目の選択に関する助言を行って、個別の履修相談に応じる等、学生の履修指導体制を整備する。

また、専門教育科目では歴史文化学の学問体系と学修段階に即した授業科目を配置しており、学部教育段階では、基礎的な専門知識や技能を確実に修得させることに重点を置くことが重要であることを踏まえて、単位制度の実質化を図る観点から、特定の学年や学期において偏りのある履修登録を避けるとともに、学修目標に沿った適切な授業科目の履修ができるように、日本史、東西文化、観光歴史学のコースごとに典型的な履修モデルを提示する (【資料 5 - ①②③④⑤⑥】)。

3. 卒業要件

本学科では、学部で 4 年以上在学し、体系的な授業科目の履修により、124 単位以上を修得することを卒業要件とする。それには、基礎教育科目については選択必修科目 8 単位を含み、専門教育科目については必修科目 18 単位、選択必修科目 44 単位の 62 単位を含み、全学共通科目については必修科目 2 単位を含むこととする。この他に、基礎教育科目、専門教育科目、全学共通科目の選択必修科目、選択科目のうち、上記の単位数を超えて修得した分 52 単位以上を修得することとする。

専門教育科目の専門必修科目は、必修科目 6 科目 18 単位、専門支援科目は選択必修科目 2 科目 4 単位以上、専門基礎科目は選択必修科目 4 科目 8 単位以上、コース科目は 2 年次より振り分けされる各コース (日本史、東西文化、観光歴史学) で定めた選択必修科目 16 科目 32 単位以上としており、卒業要件としては専門教育科目全体として、必修科目 18 単位、選択必修科目 44 単位を含む 62 単位以上とする。

必修科目		選択必修科目		選択科目	合計 (卒業要件単位)
全学共通科目	2	基礎教育科目	8	選択科目及び所定の単位数を超えた 選択必修科目の単 位	124
専門教育科目	18	専門教育科目	44		
20		52			

4. 履修モデル

本学科では、3つのコースを設けており、学生の多様なニーズに対応するため、以下6つの履修モデルを用意した。

(1) 日本史コース

日本の歴史を深く掘り下げ、世界に対して自国の歴史を語るスキルを身につける。

【資料 5-①】 日本史コース (標準モデル)

【資料 5-②】 日本史コース (教員免許取得モデル)

(2) 東西文化コース

「世界の中の日本」という視点で、世界(東洋・西洋)の歴史文化を学ぶ。

【資料 5-③】 東西文化コース (標準モデル)

【資料 5-④】 東西文化コース (教員免許取得モデル)

(3) 観光歴史学コース

歴史研究の成果を実際に旅行・観光業に活かし、社会に還元する。

【資料 5-⑤】 観光歴史学コース (標準モデル)

【資料 5-⑥】 観光歴史学コース (教員免許取得モデル)

⑦ 施設、設備等の整備計画

1. 校地、運動場の整備計画

本学は、埼玉県東松山市及び東京都板橋区にメインキャンパスを有し、両キャンパスともに池袋駅を始発駅とする東武東上線の沿線上に最寄り駅があり(東松山キャンパス=高坂駅、板橋キャンパス=東武練馬駅)、都心からの利便性も良い。また各キャンパスともに最寄駅からのスクールバスも運行している(東松山キャンパスにおいては、高崎線「鴻巣駅」からも運行している)。

東松山キャンパスには全8学部の1・2年生と、国際関係学部及びスポーツ・健康科学部の3・4年生が通っており、文学部、経済学部、外国語学部、法学部、経営学部、環境創造学部の3・4年生は板橋キャンパスを使用する。

現在、本学は校地として板橋キャンパス 24,040.39 m²、東松山キャンパス 252,237.46 m²を主とし、合計 276,277.85 m²を所有している。

また、学生の休息及び交流に資する空地として、東松山キャンパスには野外ステージを設けており「キャンパスプラザ」や階段状の芝地と木々に囲まれた調整池周辺、スクールバス停に隣接する「憩いの丘」を活用する。一方で、板橋キャンパスはキャンパス中央に設けてある「交流の杜」及び食堂に隣接する「思索の杜」といった交流場所がすでに確保されている。

運動場は東松山キャンパスにあり、同一敷地内に総合グラウンド、ラグビー場、野球場場、テニスコート及び屋内プール等も併設している。(体育系の科目については1・2年次配当科目としており、学生の履修に影響はない。)なお、屋内運動施設として東松山キャンパス及び板橋キャンパスのそれぞれの同一敷地内に体育館を整備している。

2. 校舎等施設の整備計画

現在、東松山キャンパスに30棟、板橋キャンパスに7棟(図書館書庫棟、大東文化会館を含む)を設けている。なお、全学的な収容定員の増加に伴い、東松山キャンパスにおいては2号館を増築して、全学共用の教室を4教室増加するなど、施設を整備する予定である。また教室全体の稼働率を高めるために、平成29年度に、東松山キャンパスのAV機器が備えられていない教室に機器を整備する(11教室)。

現状のままでも教室設備や学生の休息や課外活動などに必要な施設、設備、教員の研究室が十分に備わっていると考えているが、今後も在学生が快適なキャンパスライフを過ごせるよう工夫を重ねていく(【資料6-①②】)。

(1) 教員研究室

本学科の教員研究室として東松山キャンパス・板橋キャンパスあわせて9室(1室21m²程度)を整備する。研究室には、無線LAN等の設備を設け、教員のPCからWeb検索することが可能である。

(2) 学科事務室(21.91 m²)

板橋校舎の本学科教員の研究室と同じフロアに整備する。

(3) 会議室

会議室は既に整備されているものを利用する。(板橋キャンパス5部屋、東松山キャンパス5部屋)

(4) 講義棟

・東松山キャンパス(1・2・3・4・6・7・8・9・10・11号館)

講義棟は200人以上を収容する一般教室11教室、100人以上200人未満を収容する一般教室25教室、50人以上100人未満を収容する一般教室77教室等を大学共用として整備し

ている。なお、16室ある情報実習教室に設置された650台のパソコンは、授業実施に支障のない範囲で学生が自由に利用できる時間帯を設定しているほか、授業教室ではないオープン教室（1室）にも50台のパソコンを設置している。

・板橋キャンパス(1・3号館)

講義棟は200人以上を収容する一般教室5教室、100人以上200人未満を収容する一般教室4教室、50人以上100人未満を収容する一般教室27教室等を大学共用として整備している。なお、8室ある情報実習教室に設置された252台のパソコンは、授業実施に支障のない範囲で学生が自由に利用できる時間帯を設定している。

(5) 学生ホール・自習室・コンビニエンスストア等

・東松山キャンパス

3号館グランドフロア食堂を学生ホールとして活用している。ホワイトボードを備えたミーティングスペースのほか、同一建物内に文房具・日用品・食品等が購入できる売店として、コンビニエンスストアを設置している。また、学生のための自習室（個人学習540席、ラーニングコモンズ36席、グループ学習36席）を図書館内に設置しているほか、パソコンを備えた情報教室は授業時間以外を開放しており、論文・レポート作成時に活用されている。このほか、キャンパス内の厚生棟には生協購買部及び書店を設置している。

・板橋キャンパス

カフェテリア Green Spot を学生ホールとして活用している。また、学生の自習のための自習室（個人学習526席、ラーニングコモンズ151席、グループ学習32席）を図書館内に設置しているほか、パソコンを備えた情報教室は授業時間以外を開放しており、論文・レポート作成等に活用されている。このほか、キャンパス内には売店、生協購買部及び書店を設置している。

(6) 学生食堂

・東松山キャンパス

3号館及び厚生棟に4ヶ所の学生食堂（合計1343席）を設置しており、教員との語らいも可能な学生の憩いの場となっている。

・板橋キャンパス

1号館及び中央棟に2ヶ所の学生食堂（合計500席）を設置しており、教員との語らいも可能な学生の憩いの場となっている。

3. 図書等の資料及び図書館の整備計画

(1) 図書等の資料及び設備等

図書館は全学共用の施設である。板橋キャンパスと東松山キャンパスにそれぞれ図書館が設置されている。

東松山キャンパスの図書館は地上4階地下2階、延べ床面積は8,916.33㎡であり、閲覧座席数1,046席を設けている。蔵書冊数は約56万6千冊、定期刊行物2,389種（内国書1,778種、外国書611種）、視聴覚資料約1万1千タイトルのほとんどを開架式で配架

している。板橋キャンパス図書館（蔵書数約 93 万 2 千冊）の利用も可能で、その貸出・返却も東松山キャンパスで対応できる。

また、パソコン 77 台を設置し、板橋キャンパスと共通した利用環境で、蔵書検索（OPAC）、学術データベース 24 種、電子書籍約 1,800 冊、電子ジャーナル約 47,000 種、インターネット閲覧が利用できる。このほか、視聴覚資料閲覧用として視聴覚用機器を 34 台設置している。

板橋キャンパスの図書館は地上 5 階、延べ床面積は 4305.99 m²であり、閲覧座席数 709 席を設けている。蔵書冊数は約 93 万 2 千冊、定期刊行物 8,222 種（内国書 6,313 種、外国書 1,909 種）、視聴覚資料約 2 千タイトルのほとんどを開架式で配架している。東松山キャンパス図書館（蔵書数約 56 万 6 千冊）の利用も可能で、その貸出・返却も板橋キャンパスで対応できる。

また、パソコン 151 台（内ラーニングコモンズ 16 台）を設置し、東松山キャンパスと共通した利用環境で、蔵書検索（OPAC）、学術データベース 24 種、電子書籍約 1,800 冊、電子ジャーナル約 47,000 種、インターネット閲覧が利用できる。

（2）図書等の資料整備

①図書・雑誌等の整備計画

今回の歴史文化学科設置に伴う図書・雑誌等の整備計画は、日本史コース、東西文化コース及び観光歴史学コースそれぞれの専門分野の研究に必要な基本図書・雑誌の整備が中心となる。購入予定の図書は、和書 342 冊、外国書 95 冊の計 437 冊の予定である。

各コースの整備の特徴は以下のとおりである。まず日本史コースであるが、これまでも本学の 2 つの図書館において日本史に関する一般図書の購入は継続的に実施されてきた。しかしながら、歴史系の学科が存在しなかったため、研究の拠り所となる基本史料や関連雑誌のバックナンバー等は、必ずしも十分に所蔵しているとは言えない状況であり、今回はそれを補うものである。次に東西文化コースであるが、東洋関係の図書・雑誌に関しては、漢学の振興を目的に設置され、間もなく 100 年に及ぼうとする歴史を有する本学の図書館にあって他に誇るべき蔵書が形成されている。しかしながら、西洋関係の図書・雑誌は、前掲の日本史関係の基本史料や関連雑誌のバックナンバー等と同様、必ずしも十分なものではないため、今回はそれを補うものである。更に、観光歴史学コースも、これまで観光学系の学科が存在しなかったため、研究の拠り所となる基本史料や関連雑誌のバックナンバー等は、必ずしも十分に所蔵しているとは言えない状況であり、今回はそれを補うものである。

本学の 2 つの図書館には、（1）で述べたように、現在約 150 万冊の蔵書があり、今回新たに購入する上記の図書を加えることで、学生が学修を進める上で十分な量と質の図書を確保できる。

②電子書籍・電子ジャーナル・学術データベース等の整備計画

今回は、上記①と同じく各コースの研究の拠り所となる基本史料や関連雑誌のバックナンバー等を中心に整備し、学修環境の強化を図る（【資料 7-①②③】）。

③ 入学者選抜の概要

1. 入学者受け入れ方針

(1) アドミッション・ポリシー

歴史文化学科では、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づき、歴史・文化に関する学識を修め、世界の中の日本を自覚し、多様な現代社会に対応できる能力を有する人材を育成するために、下記のような「学力の3要素」を備える人物を受け入れる。

1. 歴史文化学科のカリキュラムはもとより、大学教育それ自体に対応できる知識を有するとともに、入学後も学修を継続していくための基本的な技能を習得している。

【知識・技能】

2. 歴史に対する強い興味と関心を抱き、社会に対する認識を深め、これを卒業後に社会人として具体的に活かしていくための方策を考えていくことができる。

【思考力・関心】

3. 大学生活を通じて、②に掲げた内容を実現していくため、自ら積極的に他者とかわりながら、柔軟かつ積極的にこれに取り組むことができる。

【主体性・協働性】

2. 入学者選抜方法

(1) 募集人員と選抜区分

	推薦入試	一般入試	大学入試センター試験利用入試	特別選抜入試
募集 定員	公募制推薦、自己推薦(前期・後期)、指定校推薦、スポーツ推薦(前期・後期)、大東文化大学第一高等学校推薦	全学部統一入試(前期・後期)、一般入試(3教科)	前期・中期・後期	社会人特別選抜試験、外国人留学生特別選抜試験
100人	50人	41人	9人	若干名

(2) 選抜方法

本学科の入学者の選抜は、年度ごとに学内の入学試験委員会及び担当事務局である入試広報課と緊密な連絡調整・検討を行い、その準備から実施、そして合格判定に至るまで、公正かつ妥当な方法により実施する。アドミッション・ポリシーを踏まえ、学力検査(本学全体で実施する一般入学試験、大学入試センター試験)結果の利用に加え、推薦入学試験等を取り入れることによって、学力検査のみに偏重することなく入学者を選抜する。入

学定員 100 名のうち、推薦入試により 50 名、一般入試により 41 名、大学入試センター試験利用 9 名を募集するものとする。

(3) 推薦入試

歴史文化学科が独自に小論文試験、書類審査及び面接等を実施し、総合的に判定する入学者選抜方法である。

①公募制推薦入試 (15 名)

本学科のアドミッション・ポリシーにかなう学生を安定的に受け入れていくためには、本学科への入学を熱望し、一定の基準に到達している人物を確実に獲得する必要がある。

公募制推薦入試は、総合評定平均値及び「日本史 B」「世界史 B」のいずれか一方の評定に対する出願基準を設けた上で、高等学校長からの推薦に基づいて実施する入学試験であり、小論文試験、書類審査及び面接を実施することにより、総合的に判定する。受験生は、他大学との併願は認められない。

②自己推薦入試 (17 名)

本学科が、アドミッション・ポリシーにかなう学生を安定的に受け入れるためには、本学科への入学を熱望し、高校時代より既に歴史に強い関心を有している人物を獲得する必要がある。

自己推薦入試では、歴史文化学科においてどのようなことを学びたいのかについて明確に述べることでできる人物を選抜する入学試験であり、小論文試験、書類審査（自己推薦書）及び面接を実施することにより、総合的に判定する。

③指定校推薦入試 (10 名)

本学科が、アドミッション・ポリシーにかなう学生を安定的に受け入れるためには、本学科のカリキュラム・ポリシーやディプロマ・ポリシーに賛同し、生徒を積極的に受験させたいと考える高等学校と緊密な連携を図ることも大切である。そのためには、あらかじめそのような意向を持つ高等学校を選抜し、本学科の指定校に位置付けるものとする。

指定校推薦入試では、総合評定平均値及び「日本史 B」「世界史 B」のいずれか一方の評定に対する出願基準を設けた上で、高等学校長からの推薦に基づいて実施する入学試験であり、書類審査及び面接を実施することにより、総合的に判定する。受験生は、他大学との併願は認められない。

④スポーツ推薦入試 (4 名)

高校時代に競技に打ち込み、全国的にも優れた成績を上げ、本学入学後も引き続き競技を継続したいという生徒の中にも、本学科のアドミッション・ポリシーにかなう生徒が存在する。

スポーツ推薦入試は、スポーツ振興センターが定めた一定の競技成績基準を達成した者の中から、本学科への入学を希望する生徒を受け入れるため、総合評定平均値及び「日本史B」「世界史B」のいずれか一方の評定に対する出願基準を設けた上で、高等学校長からの推薦に基づいて実施する入学試験である。書類審査及び面接を実施することにより、総合的に判定する。受験生は、他大学との併願は認められない。

⑤大東文化大学第一高等学校推薦入試（4名）

本学科が、アドミッション・ポリシーにかなう学生を安定的に受け入れるためには、本学科のカリキュラム・ポリシーやディプロマ・ポリシーに賛同し生徒を積極的に受験させたいと考える本学園附置高等学校である大東文化大学第一高等学校と緊密な連携を図ることも大切である。

大東文化大学第一高等学校推薦入試は、総合評定平均値及び「日本史B」「世界史B」のいずれか一方の評定に対する出願基準を設けた上で、高等学校長からの推薦に基づいて実施する入学試験であり、書類審査及び面接を実施することにより、総合的に判定する。受験生は、他大学との併願は認められない。

（4）一般入試

①全学部統一入試（20名）

出願日によって「前期」「後期」の2区分を設け、以下の方式を用いて判定する。

「外国語（「コミュニケーション英語Ⅰ」「コミュニケーション英語Ⅱ」「コミュニケーション英語Ⅲ」「英語表現Ⅰ」「英語表現Ⅱ」）」、200点。「国語（「国語総合」の内容を出題範囲とし、近代以降の文章を出題する）」、100点の2科目300点満点

②一般入試（3教科）（21名）

以下の方式を用いて判定する。

A方式…全ての科目に均等配点を行う。

「外国語（「コミュニケーション英語Ⅰ」「コミュニケーション英語Ⅱ」「コミュニケーション英語Ⅲ」「英語表現Ⅰ」「英語表現Ⅱ」）」、100点。「国語（「国語総合」の内容を出題範囲とし、近代以降の文章、古典（古文）を出題する）」、100点。「「日本史B」「世界史B」「地理B」「政治・経済」「数学Ⅰ」「数学A」（全範囲）」から1科目選択100点の3科目300点満点

B方式…「「日本史B」「世界史B」「地理B」「政治・経済」」に加重配点を行う。

「外国語（「コミュニケーション英語Ⅰ」「コミュニケーション英語Ⅱ」「コミュニケーション英語Ⅲ」「英語表現Ⅰ」「英語表現Ⅱ」）」、100点。「国語（「国語総合」の内容を出題範囲とし、近代以降の文章、古典（古文）を出題す

る)」、100点。「日本史B」「世界史B」「地理B」「政治・経済」から1科目選択200点の3科目400点満点

(5) 大学入試センター試験利用入試(平成30年度入試より参加予定)(9名)

受験生の多様なニーズに対応するため、出願日によって「前期」「中期」「後期」の3区分を設け、入学後の2年次から始まる3つのコース(日本史コース、東西文化コース、観光歴史学コース)選択を念頭に以下の3方式を用いて判定する。

A方式…全ての科目に均等配点を行う。

「外国語(「英語」「中国語」「独語」「仏語」「韓国語)」から1科目選択(英語リスニングを除く)、200点。「国語(含:古文・漢文)」、200点。「地理歴史・公民(「日本史B」「世界史B」「地理B」「現代社会」「政治・経済」「倫理」「倫理、政治・経済)」」、「数学(「数学I」「数学A)」」、200点の3科目600点満点

B方式…主に日本史コース、東西文化コースにとって重要な「「地理歴史・公民(「日本史B」「世界史B」「地理B」「現代社会」「政治・経済」「倫理」「倫理、政治・経済)」」に加重配点を行う。

「外国語(「英語」「中国語」「独語」「仏語」「韓国語)」から1科目選択(英語リスニングを除く)、200点。「国語(含:古文・漢文)」、200点。「地理歴史・公民(「日本史B」「世界史B」「地理B」「現代社会」「政治・経済」「倫理」「倫理、政治・経済)」」、500点の3科目900点満点

C方式…主に観光歴史学コース、東西文化コースにとって重要な「外国語(「英語」「中国語」「独語」「仏語」「韓国語)」」に加重配点を行う。

「外国語(「英語」「中国語」「独語」「仏語」「韓国語)」から1科目選択(英語リスニングを除く)、500点。「国語(含:古文・漢文)」、200点。「地理歴史・公民(「日本史B」「世界史B」「地理B」「現代社会」「政治・経済」「倫理」「倫理、政治・経済)」」、「数学(「数学I」「数学)」」、200点の3科目900点満点

(6) 特別選抜入試

上記の推薦入試と一般入試とは別に、社会人特別選抜試験、外国人留学生特別選抜試験を実施する。

①社会人特別選抜試験

社会人としての経験を4年以上有する者を対象に実施する。書類審査、小論文及び面接において、目的意識や意欲、関心に加えて、社会人としての職務経歴、コミュニケーション能力など総合的に判定する。なお、社会人とは、以下の出願資格を有している者のことをいう。

(出願資格)

- ・高等学校または中等教育学校を卒業、もしくは文部科学大臣が指定した専修学校の高等課程を修了し、かつ社会人としての経験を4年以上有する者。
- ・大学（短大）を卒業し、かつ社会人としての経験を4年以上有する者。
- ・大学入学資格検定に合格し、かつ社会人としての経験を4年以上有する者。

②外国人留学生特別選抜試験

国際的視野を持った留学生を受け入れるため、小論文と面接で判定する。

⑨ 取得可能な資格

1. 取得可能な資格

中学校一種免許状（社会）、高等学校一種免許状(地理歴史)、司書、司書教諭、博物館学芸員、社会教育主事（任用）

2. 資格取得の条件

- ・教員免許状については卒業要件単位に含まれる科目以外に教職関連科目を履修することにより、取得可能である。
- ・司書、司書教諭、博物館学芸員の履修科目は卒業要件単位に含まれない。
- ・社会教育主事（任用）は一部卒業要件単位に含まれる科目を履修する以外に、社会教育主事関連科目を履修することにより、取得可能である。

⑩ 実習の具体的計画

1. 教育実習

(1) 実習先の確保状況

教育実習校は、出身校及び東京都内公立校、本学園附置高等学校を対象としている【資料 8】。出身校実習は、2年次後期から学生自身が実習校に内諾依頼を行っている。東京都内公立校の場合は、東京都教育委員会に申請し、実習校は委員会の決定にしたがっている。本学園附置高等学校については、出身者及び中国語学科生、出身校での受け入れが困難な学生の受け入れを行っている。

- ①東京都教育委員会管轄の学校（教育実習に関する協定を締結）（【資料 9-①】）
- ②本学園が設置する学校（大東文化大学第一高等学校）（【資料 9-②】）

(2) 実習先との契約内容

教育実習先は教育実習前年度（3年次）4月～9月に実習校に依頼をし、承諾を得る。東京都内公立校の場合は、東京都教育委員会に申請し、実習校は委員会の決定にしたがっている。特に、個人情報の取扱いについての守秘義務を徹底する。

(3) 実習水準の確保の方策

教育実習は、「事前指導」、「教育実習校実習」「事後指導」からなる一貫した指導のもと構成され、学生が大学で学んだことをもとに、学校教育の現場で一人一人の生徒の育成に直接関わることを通して、教育活動全般を体験し、教育の意味と内容を学ぶことをねらいとしている。＜2年次＞に教育実習準備説明会を行い、教育実習の意思確認、実習の意義や心構え、実習の受講資格、実習校受け入れ依頼、実習校訪問の諸注意などの指導を行っている。＜実習前年度（3年次）＞の事前指導時に、現職教員・教職経験者等が学校教育の現状や実習に必要な基礎的・基本的な事柄についての指導を行う。＜実習開始時＞に担当教員が、教育実習直前指導を実習の心構えと準備、注意事項等について改めて指導する。＜実習後＞は指導教員及びゼミ指導教員が、教育実習日誌及び「教育実習・事後報告書」にもとづいて、丁寧に指導する。また、教育実習を円滑に行うため、教職課程センター管理委員会、全学教職課程委員会が、学生の実習指導・課題等について検討し、連絡調整を図っている。

(4) 実習先との連携体制

実習中は指導教員が実習校を訪問し、実習校の担当教諭と相談しながら実習生の指導を行う。不測の事態に対応できるよう教職課程センター事務室を窓口として、教育実習校、指導教員及びゼミ指導教員、教職課程センター管理運営委員会などの連携を行う。

(5) 実習前の準備状況（感染予防対策・保険等加入状況）

2、3、4年次教職課程説明会において感染予防対策等について説明をし、定期健康診断を行っている。また、介護等体験、教育実習実施年度には学研災付帯賠償責任保険に加入をさせている。

(6) 事前・事後における指導計画

「事前指導」については、現職教員指導、教職経験者指導（幼稚園、小学校、中学校、高校）に分かれ、現職教員、教職経験者・教職担当教員が実践的な内容で実施している（3・4年次10時間）。内容は、①教科指導（専門）（指導案作成を含む）②学校経営③生活指導④道徳⑤授業外活動（行事・部活など）⑥先輩の体験談を聞くこと、などである。「事後指導」については、教育実習終了後に学科の指導教員が個別に行う（約1時間）。実習校での現場体験を振り返り、指導教員が、良かった点や問題点、改善点を明記した「事後報告書」にもとづいて、教師としての課題を見つけ出し、教育現場に立つ際に求められる資質や力量などについて、指導・助言を行っている。

(7) 教員及び助手の配置並びに巡回指導計画

指導教員が実習校を訪問し、実習校の担当教諭と相談しながら実習生の指導を行う。実習先が遠隔地の場合についても教職課程センター事務室を窓口にして、教育実習校、指導教員及びゼミ指導教員、教職課程センター管理運営委員会などの連携を行う。

(8) 実習施設における指導者の配置計画

本学の教育実習実施方針について示し、実習指導計画の立案時に教育実習生に対して指導教員の配置を依頼する。

(9) 成績評価体制及び単位認定方法

教育実習の評価は、実習校による実習評価を基本として、実習校での出勤状況と実習日誌記入内容、学習指導案・事前指導のレポート等の評価・事後指導を含め、教育実習成果の達成度を総合的に判断して行う。

(10) その他特記事項

教育実習の具体的な指導及び相談等は教職課程センター教員、専門指導員が常時対応できるような体制を整えている。また、学生連絡も学内 Web サイトを利用し、迅速に対応している。

2. 博物館実習

博物館学芸員課程は、博物館学講座教育の充実・改善のための指導及び調整を図るために設置された教職課程センター管理委員会、博物館学講座委員会によって運営され、教育実習先は教育実習前年度（3年次）5月～9月に実習先に依頼をし、承諾を得る。実習資格について3年次までに修得する科目を実習要件として定めているため3年次に説明会を行い、必要不可欠な基礎的・基本的な事柄等についての指導を行う。学外実習は、4年次4月に博物館実習説明会を行い、博物館実習に臨む際の心構えと準備、注意事項等の指導を行う。実習中には首都圏及び特に必要と認められる実習先に教員が訪問し、実習生の指導を行う。実習終了後は教育実習生と博物館学講座委員による博物館実習報告会を実施し、各実習生が報告発表を行う。博物館実習の評価は、実習先による実習評価を基本として、実習先での出勤状況と実習日誌記入内容、実習報告会等の評価を含め、博物館実習成果の達成度を総合的に判断して行う。3、4年次博物館実習説明会において感染予防対策等について説明をし、定期健康診断を行っている。さらに博物館実習実施年度に学研災付帯賠償責任保険に加入させるのは教育実習と同様である。

⑪ 企業実習（インターシップを含む）や海外語学研修を実施する場合の具体的計画

1. 基本方針

学生が、大学生活を通じて学修した知識・教養や身に付けた技術（スキル）等を、実際に社会に出てから役立たせるためには、在学中から将来についての具体的なビジョンを持

つことが重要である（キャリアデザイン）。本学では既に全学共通科目の中にキャリアデザイン関係の授業を設置し（【資料 10】）、また、キャリアセンターを中心に、学生が自らにふさわしい職業を見だし、希望する就職ができるような支援に力を入れている（キャリア支援）（【資料 11】）。こうしたキャリア支援の中であって、企業実習（インターンシップ）や海外語学研修等の学外実習は大きな位置を占めており、本学科でも、力を入れていく。

2. 実施方法

（1）企業実習（インターンシップ）

本学では企業実習（インターンシップ）を希望する学生は、以下の3つの方法を選択することができる（【資料 12】）。

①キャリアセンター公募型（キャリアセンター）

キャリアセンターを通じて応募を行うインターンシップをいう。情報はDB POTALもしくはD-CASTを通して発信する。

②一般公募型

大学を経由せず、個人で自由に実習先を探し、応募するインターンシップをいう。企業や団体のHPや情報サイトを通じて情報収集する。学生には目的に応じて、例えば「様々な業界について知りたい」「実際に働く現場で1週間の仕事の流れを体験したい」応募するよう指導している。インターンシップの内容は、1day・2dayで行う会社説明会のようなプログラムから3日～1週間で実地研修を行うプログラムなど様々である。

③海外インターンシップ（国際交流センター）

全学部全学科を対象に海外で実施するインターンシップをいう。海外でのインターンシップを通して、英語とともに「生きる力」、「国際性」を身につけることを目的としている。

そのほか、本学科観光歴史学コースでは、現在、旅行業社との提携を進めており、提携先の旅行業社での企業実習（インターンシップ）には、毎年度、一定数の学生を斡旋できる予定である。

（2）海外語学研修

本学科独自の海外語学研修制度は設置しないが、既存の学部学科と同じく、本学の全学部を対象とした以下の4つの留学制度を利用した海外語学研修を学生に斡旋する。

①交流協定校派遣留学（交換留学）

国際交流センター主催の交換留学は、全学部生を対象としている。中国語圏、アジア・アフリカ圏、英語・欧州語圏、フランス語圏、ドイツ語圏の5つのブロックに分けて選考試験を実施している。選考試験に合格すると、最長12カ月、本学の協定校へ交換留学生として派遣する。本学から一定額の奨学金が支給され、留学先によっては授業料が免除になる大学もある【資料 13・14】。

②奨学金留学

各学科にそれぞれ1～3名の枠で選考する。選考試験に合格すると、最長12カ月、海外の大学へ留学することが可能となる。留学先大学は自分で決めることができ（教授会の承認が必要）、本学より上限199万円の奨学金が支給される。

③国際交流センター主催の短期語学等研修

協定校語学等研修プログラム及び短期個人留学プログラムを、中国・台湾・イギリス・アメリカ・カナダ・オーストラリア・ニュージーランド・アイルランド・マルタ・マレーシア・フィリピンで実施している【資料15】。

④私費留学

留学に要するすべての費用を自己負担し、本学への学費も必要となる。「在学」による私費留学の場合、教授会の承認後「休学」することなしに留学することができ、進級、単位認定が可能となる。「休学」による私費留学の場合は、本学に納める在籍料のみとなり、進級、単位認定は不可となる。

⑫ 2以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画

本学文学部は、東京都板橋区の校地に位置する板橋キャンパス（3年次、4年次）と埼玉県東松山市の校地に位置する東松山（1年次、2年次）キャンパスの2か所において教育研究を行っており、歴史文化学科も同様である。それぞれ、最寄り駅からスクールバスで所要時間10分程度で結ばれており、本数も頻繁にあって容易に移動可能である。それぞれの最寄り駅の東武練馬駅と高坂駅は同じ東武東上線にあり、その間の所要時間は約50分であり、移動に支障がない。

本学科の9人の専任教員のうち2人は、主に東松山キャンパスで開講される全学共通科目を担当するため東松山キャンパスに研究室を有し、他の7人が主に板橋キャンパスで開講される専門教育科目を担当するため、板橋キャンパスに研究室を有する。東松山キャンパス所属の教員も、最大で週3コマまで板橋キャンパス開講科目を担当し、板橋キャンパス所属の教員も、週2コマ程度、東松山キャンパス開講科目を担当するが、いずれも週1日以内で収まる数であるので、校舎間の移動には全く問題ない。また、たとえ同日に両方の校舎で授業を担当せざるをえない場合でも、その授業間で1コマ分相当の時間で十分移動可能であるので、時間割上も問題がないと考えている。

⑬ 管理運営

教授会については、「大東文化大学学則」において、その役割、構成員、開催、審議事項等が定められている。構成員は、当該学部にも所属する専任教員（特任教員、助教を含む。以下同じ。）であり、原則として毎月1回開催し、必要に応じて臨時に開催される。

学部長が会議を招集し議長となり、構成員の2分の1以上の出席（教員の選考、昇格等人事に関する事項を審議する際は3分の2以上の出席）がなければ開催することができない。

教授会の役割として、学生の入学、卒業、進級、退学や指導に関する事項、学部長・学科主任等の推薦、選考・昇格等の教員人事に関する事項等を審議し、学長が決定を行うにあたり、その審議議決内容を建議する。

教授会で審議された事項のうち、学則・規則の制定及び改廃、大学役職者の推薦等については、学部長会議（構成員：学長、副学長、学部長）で協議・調整された後、毎月開催される大学評議会（構成員：学長、副学長、学部長、学科主任、各教授会から選出された専任教員2名、図書館長、東洋研究所長、書道研究所長）で審議され、最終的に学長に建議される。

この他「大東文化大学学科協議会規程」の定めに基づいて、学部教授会に先立って専任教員で構成する学科協議会を開催し、学部教授会に諮る事案の審議を行う他、予算、カリキュラム、入試及び教員人事など学科運営に関する実務的な事項を検討する（【資料16】）。また、全学的な教務に関する事項について企画・立案・調整を行うことを目的とした全学教務委員会を設置している。構成員は、副学長、学部長、学務局長、東松山教務事務室長、大学院事務室事務長、学長指名の学部事務室事務長となっており、学部、研究科の教育課程の編成方針や、全学共通科目、基礎教育科目及び専門教育科目の連携・調整、時間割編成、学年暦作成等の全学的な教務に関する事項を審議する。

⑭ 自己点検・評価

本学は自己点検・評価について、学則第1条の2において、「教育研究水準の向上を図り、同学則第1条の目的（「本大学は、建学の精神に基づき、学問の理論と応用を教授・研究して真理と正義を愛する自主的精神に充ちた良識ある人材を育成し、文化の発展と人類の福祉に貢献すること」）及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、文部科学大臣の認証を受けた者（認証評価機関）による評価を受けるものとする」と定めている。その実施体制として、理事会の下に学校法人大東文化学園自己点検・評価推進委員会を設置し、大学を含めた学園全体の自己点検・評価の体制を構築し、学園の委員会の下に、学長を委員長とした大東文化大学自己点検・評価委員会を置いている。学部・研究科・附置研究所・図書館・各センター等、大学の全ての部署・機関は、認証評価機関の基準に準拠し独自に定めた「大東文化大学基準別基本方針」の項目別に、毎年「自己点検・評価シート」を作成し、自己点検・評価を行っている。

また、自己点検・評価に関する企画・立案・調査・調整等を行う機関として、副学長を委員長とした企画委員会を設置している。

評価組織としては、評価専門委員会と外部評価委員会を設けている。評価専門委員会は学内の教職員から構成され、年度ごとの各部局の「自己点検・評価シート」を精査し、それについて助言・勧告等を行う。外部評価委員会は、学外の有識者（平成28年度7名）と学内教員（平成28年度3名）から構成され、学園関係者以外の第三者の立場から「自己点検・評価シート」及び評価専門委員会の報告書の点検やそれに基づいた提言を行うことにより、自己点検・評価の信頼性と適切性を担保し、学園に対して必要な提言を行っている。

認証評価については、平成28年度に公益財団法人大学基準協会の大学評価（認証評価）を受け、平成29年3月には同協会に定める大学基準に適合しているとの認定を受けた。（認定期間：平成30年4月1日～平成36年3月31日）。

自己点検・評価活動及び認証評価の内容については、大学ホームページにおいて公開している。

⑮ 情報の公表

情報の公表については、学校法人大東文化学園情報公開規程を定め、学園が保有する情報の公開及び開示を行うことにより、学園の運営及び学校教育法施行規則で定める教育研究活動等に係る社会的説明責任を果たし、公正かつ透明性の高い運営を実現している。

これらの情報は、本学公式ホームページ、大学発行新聞、学園報等の刊行物への掲載、大学ポートレート等を通じて、教育研究活動等の状況に関する情報として公開している。

また、保護者に対する情報の公表としては、毎年開催される「大東文化大学青桐会（本学在学生の保護者の会）支部総会」（平成28年度実績31会場）を通じて、これらの情報を含めた大学の現状を報告している。

<掲載している（または掲載予定である）ホームページのアドレス等>

① 大学の教育研究上の目的に関すること

- ・大学の教育の理念

トップ>大学案内>大東文化について>建学の精神・教育の理念

<http://www.daito.ac.jp/information/about/idea.html>

- ・学部学科の教育研究上の目的、3つのポリシー等

トップ>大学案内>情報公開>教育理念と概要>教育方針と課程

<http://www.daito.ac.jp/information/open/idea/policy.html>

② 教育研究上の基本組織に関すること

トップ>大学案内>組織・付設校>教育研究組織

<http://www.daito.ac.jp/information/organization/research.html>

- ③ 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること
- ・教員組織、教員の数
 トップ>大学案内>情報公開>大学の全体像>データで知る大東文化
<http://www.daito.ac.jp/information/open/college/data.html>
 - ・各教員が有する学位及び業績に関すること
 トップ>大学案内>情報公開>大学の全体像>データで知る大東文化>教員情報検索
<http://www.daito.ac.jp/information/open/college/data.html>
- ④ 入学者に関する受入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること
- トップ>大学案内>情報公開>大学の全体像>データで知る大東文化
<http://www.daito.ac.jp/information/open/college/data.html>
 ※入学者に関する受入れ方針のみ
 - トップ>大学案内>情報公開>教育理念と概要>教育方針と課程
<http://www.daito.ac.jp/information/open/idea/policy.html>
- ⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること
- トップ>Webシラバス
<https://dbp.mypage.daito.ac.jp/campusweb/top.do>
 (「DB PORTAL」よりゲストとして閲覧可)
- ⑥ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること
- トップ>大学案内>情報公開>教育理念と概要>教育方針と課程
 ※学修成果の評価、修業年限、卒業、修了に必要な修得単位数、修得可能な学位を学部・学科、専攻科、研究科・課程ごとに掲載。
<http://www.daito.ac.jp/information/open/idea/policy.html>
- ⑦ 校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること
- トップ>大学案内>情報公開>学修環境と支援
<http://www.daito.ac.jp/information/open/learning>
- ⑧ 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること
- トップ>大学案内>情報公開>大学の全体像>学費・諸経費
<http://www.daito.ac.jp/information/open/college/expenditure.html>
- ⑨ 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること
- トップ>大学案内>情報公開>学修環境と支援—各種支援
 - ・修学支援 <http://www.daito.ac.jp/information/open/learning/study.html>
 - ・就職支援 <http://www.daito.ac.jp/information/open/learning/findwork.html>
 - ・留学支援 http://www.daito.ac.jp/information/open/learning/study_abroad.html
 - ・奨学金支援制度 <http://www.daito.ac.jp/information/open/learning/scholarship.html>

- ・ 学生生活サポート
http://www.daito.ac.jp/information/open/learning/life_support.html
- ⑩ その他（教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報、学則等各種規程、設置認可申請書、設置届出書、設置計画履行状況等報告書、自己点検・評価報告書、認証評価の結果 等）
 - (1) 教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報
 - ① 「学科の特徴」「授業・ゼミ紹介」⇒各学科ページに掲載
 例) 日本文学科
 - ・ 「学科の特徴」：http://www.daito.ac.jp/education/literature/department/japanese_literature/outline.html
 - ・ 「授業・ゼミ紹介」：http://www.daito.ac.jp/education/literature/department/japanese_literature/curriculum.html
 - ② 科目ごとの目標⇒Webシラバス ※各科目の「授業の到達目標」
<https://dbp.mypage.daito.ac.jp/campusweb/top.do>
 (「DB PORTAL」よりゲストとして閲覧可)
 - (2) 学則等各種規程
 トップ>大学案内>情報公開>大学の全体像>大東文化大学の現況>学則
<http://www.daito.ac.jp/information/open/college/condition.html>
 - (3) 設置認可申請書，設置届出書，設置計画履行状況等報告書
 トップ>大学案内>情報公開>教育理念と概要
<http://www.daito.ac.jp/information/open/idea/>
 - (4) 自己点検・評価活動
 トップ>大学案内>自己点検・評価／大学FD活動>自己点検・評価活動
<http://www.daito.ac.jp/information/examine/inspection/index.html>
 - (5) 認証評価の結果
 トップ>大学案内>自己点検・評価／大学FD活動>認証評価
<http://www.daito.ac.jp/information/examine/accreditation/index.html>
 - (6) 大学FD活動（FD研究会・講演会、FDニュースの内容）
 トップ>大学案内>自己点検・評価／大学FD活動>大学FD活動
<http://www.daito.ac.jp/information/examine/fd/index.html>

⑩ 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

大学設置基準第 25 条の 3 に対応した、授業の内容及び方法の改善を図るための全学的な組織として、大東文化大学ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会を設置している。この FD 委員会は、副学長を委員長とし、各学部、研究科から選出された教員及び学

長が指名する教職員から構成されている。活動内容としては、学生による授業評価、卒業生アンケートを始めとした教育システム、教育効果に関する諸調査や、FD に関するテーマを設定した研究会、講演会を行う。学生による授業評価は、アンケート実施後にその結果が各教員にフィードバックされるとともに、各学部学科でそれぞれに分析を行い、全学的な集計結果とともに『学生による授業評価と大学教育』として刊行し、学生、教職員の閲覧に供している。卒業生アンケートは FD 委員会で集計結果の分析を行い、各教授会に報告する。また、FD 研究会、講演会の内容は、『FD 報告書』及び『FD ニュース』として発行し、各教員に配布される。上記の刊行物は、大学ホームページにおいても公開されている。

また、各学部、学科等においても、それぞれに FD 委員会が設置され、学部等の内容に即した独自の FD 活動を行うとともに、各学部等の FD 委員会委員が全学の FD 委員会委員の構成員となることによって、全学の FD 活動と学部等の FD 活動が関連性をもって活動できる体制をとっている。

歴史文化学科では、設置初年度から文学部 FD 委員会及び全学 FD 委員会の取り組みに参加し、積極的に FD 活動を実施する。中でも、全学的に行われている学生による授業評価アンケートは、各教員が受講生の生の声を聞く貴重な機会であり、これを効果的に利用していく。

全学の SD 活動については、毎年度学園全体の教員、事務職員を対象としたコンプライアンスに関する研修（個人情報保護、ハラスメント、研究倫理等）、事務職員を対象とした人事研修を行っている。特に、全専任事務職員が担当する「入試アドバイザー」に関する研修では、職員の所属部署にかかわらず、業界動向や入試制度、学生生活、キャリア支援など、広範囲にわたる全学的な説明会を開催し、志願者等への対応が適切にできるような指導や、新人職員には大学人としての基礎を養成し、即戦力となるために、人事研修の一環として徹底した事前研修を実施している。これまで全学における明確な SD に関する方針は定められていなかったが、平成 28 年 3 月 31 日に公布された大学設置基準第 42 条の 3 の改正に伴い、「大東文化大学 FD・SD 基本方針」を定め、FD・SD 活動に関する大学としての方針を明確化した（【資料 17】）。また、平成 28 年度においては、教育職員、事務職員合同で、3 つのポリシーに関する研修を行った。今後も本方針に基づき、コンプライアンス研修や事務職員人事研修を継続するとともに、教育研究活動等の運営に関する研修や、外部研修を含めた実効性のある育成型の研修も含め、実施していく予定である。

1. 教育課程内の取組について

(1) 全学における取組

本学では全学共通科目として『キャリアデザイン』を開設し、「自分の将来と生き方を考える」「コミュニケーション力を磨く」（【資料 10】）という内容での授業を行っている。この『キャリアデザイン』は1年次より受講することが可能であり、本学入学直後の早い時期より社会人・職業人としての動機付け及びキャリア意識の涵養を図っている。同科目の受講を希望する多くの学生のニーズに応えるために、毎年コマ数を増やすなど、全学的なキャリア支援体制の強化を図っている。

(2) 学科における取組

歴史文化学科では、入学直後に実施する新入生オリエンテーションにおいて、教職免許や学芸員資格、司書資格等の在学中に取得できる資格について丁寧に説明し、1年次から効率的に資格取得に取り組むことができるように指導する。その上で、歴史文化学科の1年生全員が履修する専門必修科目「歴史文化学入門 A・B」において、本学科に学ぶことによって卒業後にはどのような進路が想定されるのかを、本学科所属の専任教員が各クラスの学生に丁寧に指導する。特に、2年次からの日本史、東西文化、観光歴史学という3つのコース分けと、各コース卒業後の進路との関係について、学生が具体的なイメージを持てるように説明し、それぞれの学生が、自身の将来の進路を射程に入れながら各コースを選択できるように対応する。また、3年次以降は、各学生が履修する「専門演習」（ゼミナール）を担当する専任教員がゼミ生と緊密な関係を構築し、各人が卒業後に希望する進路（就職・進学）に進むことができるよう指導し、援助する。

2. 教育課程外の取組について

教育課程外の取組としては、本学の社会的・職業的自立に関する支援体制組織として「キャリアセンター」を設置し、年間を通じた支援が行われている。具体的な支援内容としては、キャリアセンターの利用方法ガイダンスや就職活動マナー講座といった基本的なものから、一般企業・教員・公務員等それぞれの進路に応じたガイダンス、一般常識・SPIといった具体的な就職活動に対応した講座の開催、学内での企業説明会、OB・OG説明会など、板橋・東松山キャンパスごとに支援行事が多数組まれている（【資料11】）。

就職活動に係る学生の個別相談は、多分野のキャリアアドバイザーを含むキャリアセンター職員が行うとともに、全学共通科目『キャリアデザイン』において、同センター職員が授業担当教員のサポートとして入ることにより、教育課程内の取組との連携を行っている。

各種資格取得を目的とした学内ダブルスクールや公務員講座においては、学生への経済的負担の軽減を図っている。

3. 適切な体制の整備について

本学の社会的・職業的自立に関する支援体制組織である「キャリアセンター」には、キャリアセンター所長（教員）の他、専任職員及びキャリアアドバイザー等を配置している。また、同センター所管業務の全学的立場からの支援・調整等を行うキャリアセンター運営委員会が設置されており、各学科から選出された教員等が委員となることにより、自学科の学生へのキャリア支援を行う連携体制を整えている。

設置の趣旨等を記載した書類 資料編 目次

NO	タイトル
1	全学共通科目のカリキュラム・ポリシー
2	外国語科目（英語）カリキュラム・ポリシー
3	外国語科目（英語以外）カリキュラム・ポリシー
4	コースツリー（年次シークエンス）
5	履修モデル ①日本史コース（標準モデル） ②日本史コース（教員免許取得モデル） ③東西文化コース（標準モデル） ④東西文化コース（教員免許取得モデル） ⑤観光歴史学コース（標準モデル） ⑥観光歴史学コース（教員免許取得モデル）
6	①歴史文化学科時間割（案）東松山キャンパス ②歴史文化学科時間割（案）板橋キャンパス
7	①「歴史文化関係申請用図書冊数（既存・新規）」 ②「歴史文化関係の雑誌等一覧（既存）」 ③「歴史文化関係の雑誌等一覧（既存）東松山図書館」
8	教育実習承諾校一覧
9	①東京都公立学校教育実習実施承諾書（写） ②教育実習生受入れ（受入承諾書（写）（大東文化大学第一高等学校）
10	キャリアデザイン関係科目のシラバス
11	就職支援行事スケジュール（予定）
12	インターシップ・エクスターシップの状況〔平成27年度〕
13	国際交流地域別協定校一覧および学生数（派遣・受入）

14	国別国際交流学生数（派遣・受入）〔平成 27 年度〕
15	交流協定に基づく交流の記録〔平成 27 年度〕
16	学科協議会規程
17	大東文化大学 F D ・ S D 基本方針

全学共通科目

カリキュラムポリシー（教育課程編成の方針）

全学共通科目は、豊かな教養と高い倫理性を備えた人間を育成することをめざして、本学に所属する専任・非常勤の教員が総力を結集し、幅広い学問分野を基礎とした多様な内容の授業を提供します。それは大きく「基本科目」、「課題（テーマ）科目」、「教職課程専門科目」という3つの科目群から構成されており、それぞれ以下のような方針で教育課程を編成・実施します。

1. 「基本科目」は、人類が長い歴史を通じて探究し積み上げてきた学問の体系と方法をわかりやすく教授し、また健康な心身を育むために、A系：人間と文化（人文系）、B系：社会と生活（社会系）、C系：自然と環境（自然系）、D系：健康とスポーツ（保健体育系）の4系統から構成する。「基本科目」の履修により、どの学部・学科に所属する学生であっても、学問研究を支える基礎的な知識と技能、高い教養と幅広い視野を獲得できるようにする。

2. D系：健康とスポーツの教育課程は次のような特色をもつ。

- (1) 講義科目（健康スポーツ科学）を通して、学生が健康科学についての基礎的な知識を得て、各人の健康管理や健康水準の維持・増進に役立つ知識・技術を修得できるようにする。
- (2) 実技科目（総合体育、体育実技）を通して、学生がストレスケアとしても有効な身体活動を定期的実践し、自らの健康水準を維持・増進できるようにする。
- (3) 野外実習（スキー、スクーバダイビング）を休暇期間中に学外での合宿形式の集中授業として実施し、これを通して学部・学科の壁を越えた受講生同士のより深い交流を促進する。

3. 「課題（テーマ）科目」は、人類の社会と生活に密接に関わる課題を通して現代世界への問題意識と異文化への理解、総合的な判断力を育てるために、第1群（地域・国家・民族の考察）、第2群（女性・子ども・老人への視点）、第3群（人権・民主主義・平和を考える）、第4群（現代社会の諸問題）、第5群（異文化・世界にふれる）、第6群（自己・人間をみつめる）、第7群（キャリアデザイン）、第8群（全学共通特殊講義）の8群から構成する。「課題（テーマ）科目」の履修により、現代社会で生活していく上で必要不可欠なテーマを、学問の枠に捕らわれずに追究・深化できるようにし、また専門教育への動機づけを与える。

外国語科目（英語）

カリキュラムポリシー（教育課程編成の方針）

英語の四技能（「話す」・「聴く」・「読む」・「書く」）の育成を通して、グローバルな視野で異文化を理解し、批判的思考（クリティカル・シンキング）を通して自分の意見を論理的に述べる能力、多文化共生社会を推進する能力を有する人材を養成するため、以下のような特色を持つ英語教育課程を編成・実施します。

1. 英語科目は、各学部各学科にこれを設置し、各学科および各学年の特性に合わせた英語運用能力の育成をはかる。
2. クラス編成は必修科目と選択科目とに大別し、必修科目では主に基礎的・総合的な英語運用能力（話す・聴く・読む・書く）の向上に、また選択科目では目的やレベルに特化した英語運用能力（英語検定試験対策や時事英語など）の向上に力点を置く。
3. 学習者一人一人の到達度を確認し、習熟度別クラス編成、少人数教育、外部英語試験の導入、双方向的な学習環境の整備などを通して、学習者が自分の意見を発信できるようにする。
4. 海外留学および語学研修は、その機会をさまざまに設け、これを奨励するとともに、事前事後の学習指導を綿密に実施し、学習者がその機会をより有意義なものにできるよう支援する。
5. CALL や E ラーニングなどコンピュータを利用した教育、国際色あふれる外国人講師（ネイティブ教員に限らない）による授業などを設置して、一人一人の到達度に応じた学習の場、国際的な知見を養うためのコミュニケーション実践の場を提供する。
6. 英語教育を通して、現在のグローバル化された世界情勢を踏まえた異文化理解／批判的思考（クリティカル・シンキング）、および自国の文化をも相対的に見る視点を育成し、これによって多文化共生社会の担い手となる人材を養成する。

外国語科目（英語以外）

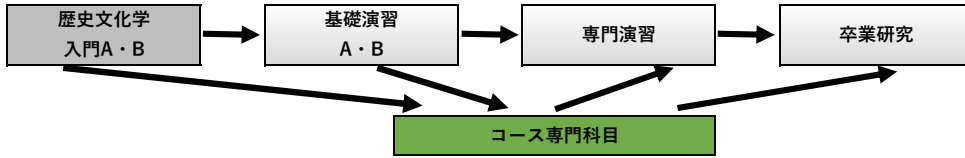
カリキュラムポリシー（教育課程編成の方針）

ドイツ語、フランス語、中国語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語、ロシア語、タイ語、インドネシア語、コリア語、ビンナン語、およびラテン語、古典ギリシャ語の計13言語の多彩な外国語の授業を展開し、グローバル化が進む社会生活の中で一層重要度を増す外国語の運用や異文化理解の能力を有する人材を養成するため、以下のような特色を持った外国語教育課程を編成・実施します。

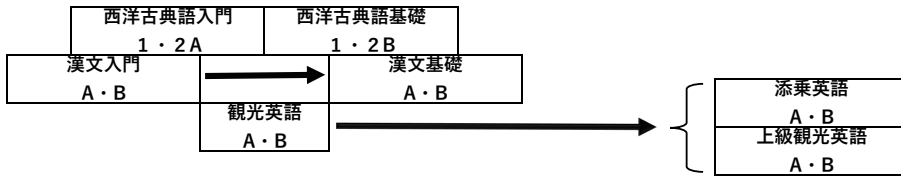
1. 多様なクラス編成を通じて、読む・書く・聞く・話すという外国語の総合的な運用能力を高める。
2. 受講生の数を制限し、学生と教員、あるいは学生同士が対話する機会を多く設けて、自ら思考し、意見を述べる姿勢を培う。
3. 基幹となるドイツ語、フランス語、中国語において、通常よりも授業数が多い「強化クラス」を設置し、効果的かつ集中的に外国語を教授する。
4. CALL（コンピューター支援言語学習）を積極的に導入し、音声や画像などマルチメディア教材を介して、個々の理解や達成度に合わせた教育を行う。
5. 海外留学および研修の機会を設けるとともに、資格試験受験を奨励することで、外国語学習の意欲を高める。
6. 外国語の習得を自己と向き合う成長の過程として捉え、自国の言語や文化を客観的に見直しつつ、バランスの取れた国際感覚を養う。

コースツリー（年次シーケンス）

1年次 (入門) 2年次 (基礎) 3年次 (発展) 4年次 (応用)

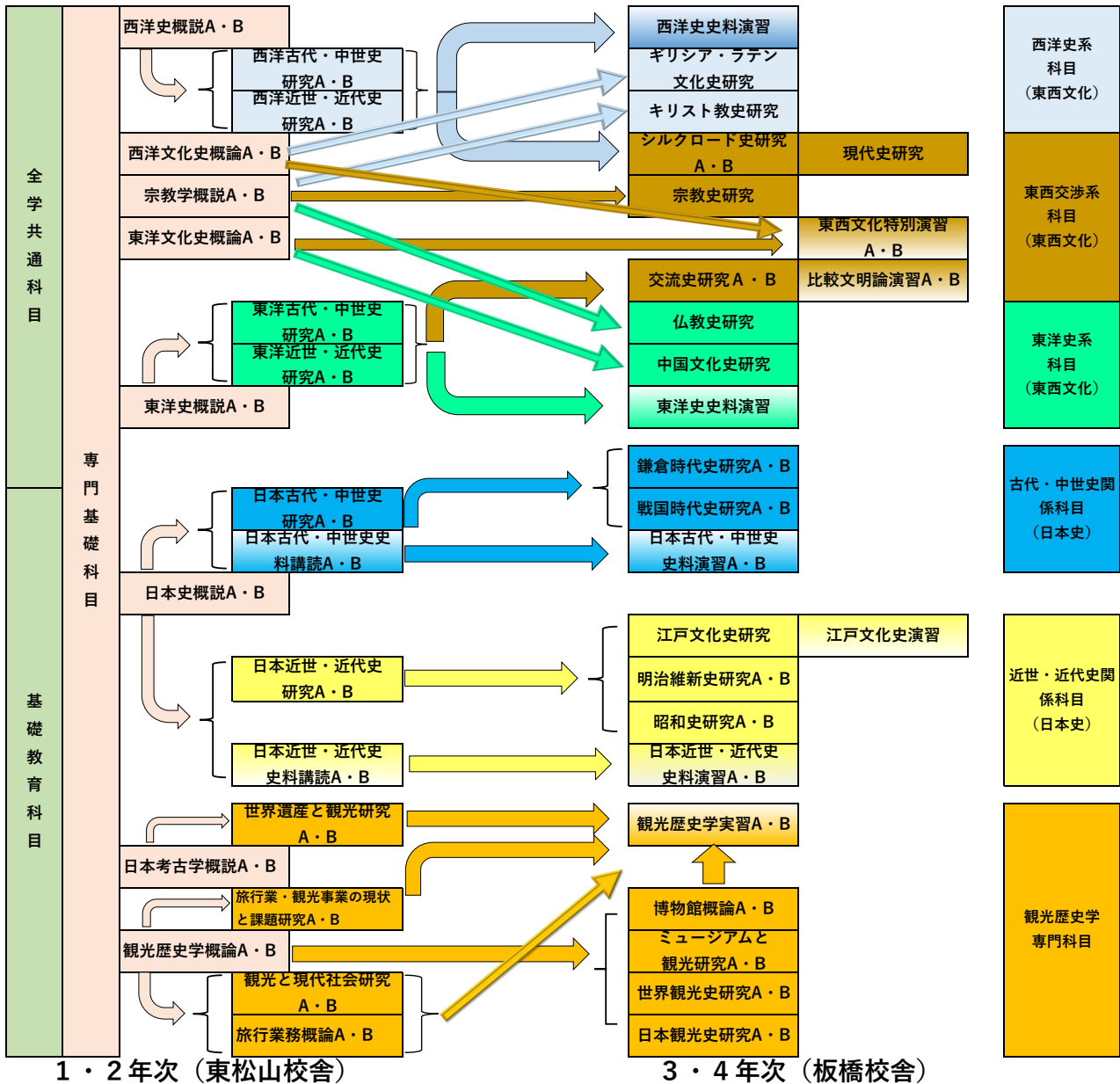


必修科目



専門支援科目

コース専門科目



西洋史系科目 (東西文化)

東西交渉系科目 (東西文化)

東洋史系科目 (東西文化)

古代・中世史関係科目 (日本史)

近世・近代史関係科目 (日本史)

観光歴史学専門科目

日本史コース 標準モデル

		1年次				2年次				3年次				4年次				小計	合計
		前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期			
		授業科目の名称	単位数	授業科目の名称	単位数	授業科目の名称	単位数	授業科目の名称	単位数	授業科目の名称	単位数	授業科目の名称	単位数	授業科目の名称	単位数	授業科目の名称	単位数		
全学 共通 科目	必修科目 (2単位)	総合体育A	1	総合体育B	1												2	14	
	選択科目	歴史学A	2	歴史学B	2	文化史A	2	文化史B	2								12		
基礎 教育 科目	選択必修科目 (8単位以上)	口語英語A	1	口語英語B	1	総合英語A	1	総合英語B	1								8	12	
		中国語初級1A	1	中国語初級1B	1	中国語中級1A	1	中国語中級1B	1										
	選択科目	情報処理A	2	情報処理B	2												4		
専門 教育 科目	必修科目 (18単位)	歴史文化学入門A	2	歴史文化学入門B	2	基礎演習A	2	基礎演習B	2	専門演習		4	卒業研究			6	18	18	
	専門基礎科目 (8単位以上)	日本史概説A	2	日本史概説B	2													16	
		西洋史概説A	2	西洋史概説B	2														
		東洋史概説A	2	東洋史概説B	2														
		日本考古学概説A	2	日本考古学概説B	2														
	専門支援科目 (4単位以上)	漢文入門A	2	漢文入門B	2	漢文基礎A	2	漢文基礎B	2								8		
	選択必修科目 (44単位以上)	日本史コース科目 (24単位以上) 2年次10単位以上 3・4年次14単位以上					日本古代・中世史 研究A	2	日本古代・中世史 研究B	2	鎌倉時代史研究A	2	鎌倉時代史研究B	2	昭和史研究A	2	昭和史研究B	2	40
							日本近代・近世史 研究A	2	日本近代・近世史 研究B	2	戦国時代史研究A	2	戦国時代史研究B	2					
							日本古代・中世史 史料講読A	2	日本古代・中世史 史料講読B	2	江戸文化史研究	2	江戸文化史演習	2					
							日本近代・近世史 史料講読A	2	日本近代・近世史 史料講読B	2	明治維新史研究A	2	明治維新史研究B	2					
東西文化コース科目 観光歴史学コース科目 (8単位以上) 2年次4単位以上 3・4年次4単位以上						東洋近世・近代史 研究A	2	東洋近世・近代史 研究B	2	日本観光史研究A	2	日本観光史研究B	2	シルクロード史研 究A	2	シルクロード史研 究B	2	16	
						世界遺産と観光研 究A	2	世界遺産と観光研 究B	2										
合計単位数 (124単位以上)		前期取得単位数	21	後期取得単位数	19	前期取得単位数	20	後期取得単位数	22	前期取得単位数	12	後期取得単位数	16	前期取得単位数	4	後期取得単位数	10	124	
		1年次取得単位数		40		2年次取得単位数		42		3年次取得単位数		28		4年次取得単位数		14		124	

日本史コース 教員免許取得モデル

		1年次				2年次				3年次				4年次				小計	合計
		前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期			
		授業科目の名称	単位数	授業科目の名称	単位数	授業科目の名称	単位数	授業科目の名称	単位数	授業科目の名称	単位数	授業科目の名称	単位数	授業科目の名称	単位数	授業科目の名称	単位数		
全学 目共 通科	必修科目 (2単位)	総合体育A	1	総合体育B	1													2	8
	選択科目	歴史学A	2	歴史学B	2													6	
基 礎 教 育	選択必修科目 (8単位以上)	口語英語A	1	口語英語B	1	総合英語A	1	総合英語B	1									8	10
		中国語初級1A	1	中国語初級1B	1	中国語中級1A	1	中国語中級1B	1										
	選択科目	情報処理A	2															2	
専 門 教 育 科 目	必修科目 (18単位)	歴史文化学入門A	2	歴史文化学入門B	2	基礎演習A	2	基礎演習B	2	専門演習		4	卒業研究			6	18	18	
	専門基礎科目 (8単位以上)	日本史概説A	2	日本史概説B	2	宗教学概説A	2	宗教学概説B	2										16
		西洋史概説A	2	西洋史概説B	2														
		東洋史概説A	2	東洋史概説B	2														
	専門支援科目 (4単位以上)	漢文入門A	2	漢文入門B	2														4
	選択必修科目 (44単位以上)	日本史コース科目 (24単位以上) 2年次10単位以上 3・4年次14単位以上				日本古代・中世史 研究A	2	日本古代・中世史 研究B	2	江戸文化史研究	2	江戸文化史演習	2	昭和史研究A	2	昭和史研究B	2		28
						日本近代・近世史 研究A	2	日本近世・近代史 研究B	2	明治維新史研究A	2	明治維新史研究B	2						
						日本近代・近世史 史料講読A	2	日本近世・近代史 史料講読B	2	日本近世・近代史 史料演習A	2	日本近世・近代史 史料演習B	2						
		東西文化コース科目 観光歴史学コース科目 (8単位以上) 2年次4単位以上 3・4年次4単位以上				東洋近世・近代史 研究A	2	東洋近世・近代史 研究B	2	日本観光史研究A	2	日本観光史研究B	2						8
	選択科目	自然地理学概説A	2	自然地理学概説B	2	人文地理学概説A	2	人文地理学概説B	2	教科教育法(社 会)C	2	教科教育法(社 会)D	2						32
社会学概説A		2	社会学概説B	2	地誌学概説A	2	地誌学概説B	2	教科教育法(地理 歴史)A	2	教科教育法(地理 歴史)B	2							
					政治学概説A	2	政治学概説B	2											
					教科教育法(社 会)A	2	教科教育法(社 会)B	2											
合計単位数 (124単位以上)	前期取得単位数	21	後期取得単位数	21	前期取得単位数	22	後期取得単位数	22	前期取得単位数	12	後期取得単位数	16	前期取得単位数	2	後期取得単位数	8	124		
	1年次取得単位数		42		2年次取得単位数		44		3年次取得単位数		28		4年次取得単位数		10		124		

※教員免許を取得するには、卒業単位に含まれる科目のほかに教職課程関連科目を履修し、それぞれの免許状に必要な所定の単位を修得する必要があります。

東西文化コース 標準モデル

		1年次				2年次				3年次				4年次				小計	合計	
		前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期				
		授業科目の名称	単位数	授業科目の名称	単位数	授業科目の名称	単位数	授業科目の名称	単位数	授業科目の名称	単位数	授業科目の名称	単位数	授業科目の名称	単位数	授業科目の名称	単位数			
全学 目共 通科	必修科目 (2単位)	総合体育A	1	総合体育B	1												2	14		
	選択科目	歴史学A	2	歴史学B	2	文化史A	2	文化史B	2								12			
基礎 目教 育科	選択必修科目 (8単位以上)	口語英語A	1	口語英語B	1	総合英語A	1	総合英語B	1								8	12		
		フランス語初級1A	1	フランス語初級1B	1	フランス語中級1A	1	フランス語中級1B	1											
	選択科目	情報処理A	2	情報処理B	2												4			
専門 目教 育科	必修科目 (18単位)	歴史文化学入門A	2	歴史文化学入門B	2	基礎演習A	2	基礎演習B	2	専門演習		4	卒業研究		6	18	18			
	専門基礎科目 (8単位以上)	西洋史概説A	2	西洋史概説B	2													16		
		西洋文化史概論A	2	西洋文化史概論B	2															
		東洋史概説A	2	東洋史概説B	2															
		日本史概説A	2	日本史概説B	2															
	専門支援科目 (4単位以上)	西洋古典語入門1A	2	西洋古典語基礎1B	2	西洋古典語入門2A	2	西洋古典語基礎2B	2									8		
	選択必修科目 (44単位以上)	東西文化コース科目 (24単位以上) 2年次10単位以上 3・4年次14単位以上					西洋古代・中世史研究A	2	西洋古代・中世史研究B	2	交流史研究A	2	交流史研究B	2	現代史研究	2		キリスト教史研究	2	40
							西洋近世・近代史研究A	2	西洋近世・近代史研究B	2	シルクロード史研究A	2	シルクロード史研究B	2						
							東洋古代・中世史研究A	2	東洋古代・中世史研究B	2	宗教史研究	2	ギリシア・ラテン文化史研究	2						
							東洋近世・近代史研究A	2	東洋近世・近代史研究B	2	仏教史研究	2	中国文化史研究	2						
日本史コース科目 観光歴史学コース科目 (8単位以上) 2年次4単位以上 3・4年次4単位以上						日本近世・近代史研究A	2	日本近世・近代史研究B	2	世界観光史研究A	2	世界観光史研究B	2	江戸文化史研究	2	江戸文化史演習	2	16		
						世界遺産と観光研究A	2	世界遺産と観光研究B	2											
合計単位数 (124単位以上)		前期取得単位数	21	後期取得単位数	19	前期取得単位数	20	後期取得単位数	22	前期取得単位数	12	後期取得単位数	16	前期取得単位数	4	後期取得単位数	10	124		
		1年次取得単位数		40		2年次取得単位数		42		3年次取得単位数		28		4年次取得単位数		14		124		

東西文化コース 教員免許取得モデル

		1年次				2年次				3年次				4年次				小計	合計
		前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期			
		授業科目の名称	単位数	授業科目の名称	単位数	授業科目の名称	単位数	授業科目の名称	単位数	授業科目の名称	単位数	授業科目の名称	単位数	授業科目の名称	単位数	授業科目の名称	単位数		
全学 目 共 通 科	必修科目 (2単位)	総合体育A	1	総合体育B	1												2	8	
	選択科目	歴史学A	2	歴史学B	2												6		
基 礎 教 育	選択必修科目 (8単位以上)	口語英語A	1	口語英語B	1	総合英語A	1	総合英語B	1								8	10	
		中国語初級1A	1	中国語初級1B	1	中国語中級1A	1	中国語中級1B	1										
	選択科目	情報処理A	2														2		
専 門 教 育 科 目	必修科目 (18単位)	歴史文化学入門A	2	歴史文化学入門B	2	基礎演習A	2	基礎演習B	2	専門演習		4	卒業研究		6	18	18		
	選択必修科目 (44単位以上)	専門基礎科目 (8単位以上)	日本史概説A	2	日本史概説B	2	東洋史概説A	2	東洋史概説B	2							16	56	
			西洋史概説A	2	西洋史概説B	2													
			宗教学概説A	2	宗教学概説B	2													
	専門支援科目 (4単位以上)	漢文入門A	2	漢文入門B	2											4			
		東西文化コース科目 (24単位以上) 2年次10単位以上 3・4年次14単位以上				東洋古代・中世史 研究A	2	東洋古代・中世史 研究B	2	交流史研究A	2	交流史研究B	2	仏教史研究	2	中国文化史研究	2		28
						東洋近世・近代史 研究A	2	東洋近世・近代史 研究B	2	シルクロード史研 究A	2	シルクロード史研 究B	2						
					西洋古代・中世史 研究A	2	西洋古代・中世史 研究B	2	比較文明論演習A	2	東洋史史料演習	2							
	日本史コース科目 観光歴史学コース科目 (8単位以上) 2年次4単位以上 3・4年次4単位以上				日本古代・中世史 研究A	2	日本古代・中世史 研究B	2	世界観光史研究A	2	世界観光史研究B	2					8		
		選択科目	自然地理学概説A	2	自然地理学概説B	2	人文地理学概説A	2	人文地理学概説B	2	教科教育法(社 会)C	2	教科教育法(社 会)D	2					32
社会学概説A			2	社会学概説B	2	地誌学概説A	2	地誌学概説B	2	教科教育法(地理 歴史)A	2	教科教育法(地理 歴史)B	2						
				政治学概説A	2	政治学概説B	2												
				教科教育法(社 会)A	2	教科教育法(社 会)B	2												
合計単位数 (124単位以上)	前期取得単位数	21	後期取得単位数	21	前期取得単位数	22	後期取得単位数	22	前期取得単位数	12	後期取得単位数	16	前期取得単位数	2	後期取得単位数	8	124		
	1年次取得単位数		42		2年次取得単位数		44		3年次取得単位数		28		4年次年次		10		124		

※教員免許を取得するには、卒業単位に含まれる科目のほかに教職課程関連科目を履修し、それぞれの免許状に必要な所定の単位を修得することが必要です。

観光歴史学コース 標準モデル

		1年次				2年次				3年次				4年次				小計	合計
		前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期			
		授業科目の名称	単位数	授業科目の名称	単位数	授業科目の名称	単位数	授業科目の名称	単位数	授業科目の名称	単位数	授業科目の名称	単位数	授業科目の名称	単位数	授業科目の名称	単位数		
全学 共通 科目	必修科目 (2単位)	総合体育 A	1	総合体育 B	1												2	18	
	選択科目	歴史学 A	2	歴史学 B	2	文化史 A	2	文化史 B	2								16		
		キャリアデザイン A	2	キャリアデザイン B	2	異文化・世界にふ れるA	2	異文化・世界にふ れるB	2										
基礎 教育 科目	選択必修科目 (8単位以上)	口語英語 A	1	口語英語 B	1	総合英語 A	1	総合英語 B	1								8		
		英語リーディング A	1	英語リーディング B	1	時事英語 A	1	時事英語 B	1										
	選択科目	情報処理 A	2	情報処理 B	2												4		
専門 教育 科目	必修科目 (18単位)	歴史文化学入門 A	2	歴史文化学入門 B	2	基礎演習 A	2	基礎演習 B	2	専門演習		4	卒業研究		6	18	18		
	専門基礎科目 (8単位以上)	観光歴史学概論 A	2	観光歴史学概論 B	2												16		
		日本考古学概説 A	2	日本考古学概説 B	2														
		日本史概説 A	2	日本史概説 B	2														
		西洋史概説 A	2	西洋史概説 B	2														
	専門支援科目 (4単位以上)	観光英語 A	1	観光英語 B	1					添乗英語 A	1	添乗英語 B	1				6		
										上級観光英語 A	1	上級観光英語 B	1						
	選択必修科目 (44単位以上)	観光歴史学コース科目 (24単位以上) 2年次10単位以上 3・4年次14単位以上					旅行業務概論 A	2	旅行業務概論 B	2	博物館概論 A	2	博物館概論 B	2	ミュージアムと観 光研究 A	2	ミュージアムと観 光研究 B	2	34
							旅行業・観光事業 の現状と課題研究 A	2	旅行業・観光事業 の現状と課題研究 B	2	日本観光史研究 A	2	日本観光史研究 B	2					
							観光と現代社会研 究 A	2	観光と現代社会研 究 B	2	世界観光史研究 A	2	世界観光史研究 B	2					
						世界遺産と観光研 究 A	2	世界遺産と観光研 究 B	2	観光歴史学実習 A	2								
						日本古代・中世史 研究 A	2	日本古代・中世史 研究 B	2	江戸文化史研究	2	江戸文化史演習	2	明治維新史研究 A	2	明治維新史研究 B	2		
日本史コース科目 東西文化コース科目 (8単位以上) 2年次4単位以上 3・4年次4単位以上				西洋古代・中世史 研究 A	2	西洋古代・中世史 研究 B	2	仏教史研究	2	中国文化史研究	2					20			
合計単位数 (124単位以上)		前期取得単位数	20	後期取得単位数	20	前期取得単位数	20	後期取得単位数	20	前期取得単位数	14	後期取得単位数	16	前期取得単位数	4	後期取得単位数	10	124	
		1年次取得単位数		40		2年次取得単位数		40		3年次取得単位数		30		4年次取得単位数		14		124	

観光歴史学コース 教員免許取得モデル

		1年次				2年次				3年次				4年次				小計	合計
		前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期			
		授業科目の名称	単位数	授業科目の名称	単位数	授業科目の名称	単位数	授業科目の名称	単位数	授業科目の名称	単位数	授業科目の名称	単位数	授業科目の名称	単位数	授業科目の名称	単位数		
全学 目共 通科	必修科目 (2単位)	総合体育A	1	総合体育B	1												2	8	
	選択科目	歴史学A	2	歴史学B	2												6		
基礎 目教 育科	選択必修科目 (8単位以上)	口語英語A	1	口語英語B	1	総合英語A	1	総合英語B	1								8	10	
		英語リーディングA	1	英語リーディングB	1	時事英語A	1	時事英語B	1										
	選択科目	情報処理A	2														2		
専 門 教 育 科 目	必修科目 (18単位)	歴史文化学入門A	2	歴史文化学入門B	2	基礎演習A	2	基礎演習B	2	専門演習		4	卒業研究		6	18	18		
	選択必修科目 (44単位以上)	専門基礎科目 (8単位以上)	日本史概説A	2	日本史概説B	2	西洋史概説A	2	西洋史概説B	2							16	56	
			東洋史概説A	2	東洋史概説B	2													
			宗教学概説A	2	宗教学概説B	2													
	専門支援科目 (4単位以上)	観光英語A	1	観光英語B	1					上級観光英語A	1	上級観光英語B	1				4		
		観光歴史学コース科目 (24単位以上) 2年次10単位以上 3・4年次14単位以上				旅行業務概論A	2	旅行業務概論B	2	博物館概論A	2	博物館概論B	2	世界観光史研究A	2	世界観光史研究B	2		28
						観光と現代社会研究A	2	観光と現代社会研究B	2	日本観光史研究A	2	日本観光史研究B	2						
	日本史コース科目 東西文化コース科目 (8単位以上) 2年次4単位以上 3・4年次4単位以上				世界遺産と観光研究A	2	世界遺産と観光研究B	2	ミュージアムと観光研究A	2	観光歴史学実習B	2					8		
					日本近世・近代史研究A	2	日本近世・近代史研究B	2	シルクロード史研究A	2	シルクロード史研究B	2							
	選択科目	自然地理学概説A	2	自然地理学概説B	2	人文地理学概説A	2	人文地理学概説B	2	教科教育法(社会)C	2	教科教育法(社会)D	2						32
社会学概説A		2	社会学概説B	2	地誌学概説A	2	地誌学概説B	2	教科教育法(地理歴史)A	2	教科教育法(地理歴史)B	2							
				政治学概説A	2	政治学概説B	2												
				教科教育法(社会)A	2	教科教育法(社会)B	2												
合計単位数 (124単位以上)	前期取得単位数	20	後期取得単位数	20	前期取得単位数	22	後期取得単位数	22	前期取得単位数	13	後期取得単位数	17	前期取得単位数	2	後期取得単位数	8	124		
	1年次取得単位数		40		2年次取得単位数		44		3年次取得単位数		30		4年次取得単位数		10		124		

※教員免許を取得するには、卒業単位に含まれる科目のほかに教職課程関連科目を履修し、それぞれの免許状に必要な所定の単位を修得する必要があります。